

令和３年度 事業報告

理念：市民・当事者が主体の福祉のまちづくりを進めます

目標１）多様なネットワークの力で市民のニーズを広く受け止め解決する体制づくり

目標２）一人ひとりが生きる力を高めあい支えあえる地域コミュニティづくり

目標３）新しい参加とつながりを生み出すしくみづくり

社会福祉法人

大津市社会福祉協議会

目 次

1. 総括	2
2. 会務の運営	3
(1) 理事会の開催	
(2) 評議員会の開催	
(3) 監事会の開催	
(4) 評議員選任・解任委員会の開催	
(5) 常任理事会の開催	
(6) 第三者委員会の開催	
(7) 第6次地域福祉活動計画策定委員会の開催	
(8) 賛助会費や寄付金等の自主財源の確保	
(9) 経営指針に基づく「改革実行プラン」の推進	
(10) 目標管理制度の実施	
(11) コロナ禍における大津市社協ならではのプロジェクトの実施	
(12) ワークライフバランス～生活と仕事の調和～の取り組み	
3. 活動の目標と具体的事業	9
目標1) 多様なネットワークの力で市民のニーズを広く受け止め解決する体制づくり	
1－1 情報を必要な人に届ける取り組みの充実	
1－2 市民が気軽に相談できる体制づくりとより積極的なニーズの把握	
1－3 相談を受け止め、対応する力の向上	
1－4 コーディネーション力の高い専門職の充実	
1－5 権利擁護支援の充実	
1－6 大津市における地域包括ケア体制の構築	
目標2) 一人ひとりが生きる力を高めあい支えあえる地域コミュニティづくり	47
2－1 福祉学習の推進	
2－2 生きる力を育む場づくり	
2－3 小地域における福祉のまちづくりの基盤強化	
2－4 災害時にも強い支援体制づくり	
目標3) 新しい参加とつながりを生み出すしくみづくり	65
3－1 ボランティアやNPO活動の推進	
3－2 新しい参加者を巻き込んでいく取り組みの推進	
3－3 地域で活動している人や団体の新しいつながりづくり	
3－4 地域福祉を協働で進める取り組みの推進	

令和3年度 社会福祉法人大津市社会福祉協議会 事業報告

1. 総 括

本会では、『市民・当事者が主体の福祉のまちづくりの推進』の理念のもと、令和3年度の重点事業として、「財務基盤の強化」、「学区社協とともに新しい参加とつながりを生み出すしくみづくり」、「市民が気軽に相談できる体制づくりとより積極的なニーズの把握」、「権利擁護支援の充実」、「第6次地域福祉活動計画の策定」、「人材育成計画による職員育成」の6項目に取り組んだ。

しかし、令和3年度は前年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症の拡大により本会の事業に多大な影響を与えた。特に4波・5波・6波の影響を受け、対面での多くの事業や面談などは自粛せざるを得なかった。自立支援課は、コロナ禍で経済的な回復が見込めない中、特例貸付の利用者が増加し、すべて借り終えて生活状態が改善しない方への対応に追われた。

そのような中、コロナ禍での大津市社協ならではのプロジェクトを立ち上げ、住民の協力を得ながら新たな取り組みも進めた。

以下、令和3年度の重点事業について報告する。

(1) 財政基盤の強化

- ・補助金、受託金の適正化に向けて社協内事務費の見える化、車両のスケジュール管理、印刷機の使用状況など実態調査を実施した。
- ・各事業の工数による事務費を配賦するしくみを構築することで、補助事業や委託事業に必要な経費の算定を行った。
- ・補助金の交付基準、委託金の仕様書の再確認を行い、事業の適正執行について見直しを実施した。
- ・自主財源である会費がコロナ禍により直接依頼ができない状況により令和2年度より減額(△295,000円)となった。

(2) 学区社協とともに新しい参加とつながりを生み出すしくみづくり

- ・福祉委員に関する学区社協聞き取りを行い、新たな役割の創出に向けた検討を進めた。
- ・見守り活動の手段であるふれあい給食のあり方について学区社協役員と検討を重ねた。
- ・学区ごとの支えあい活動や移動支援について、学びと交流の場を提供した。
- ・災害ボランティアセンター学区サテライト設置(2か所)に向けた訓練準備を行った。
- ・8月の大雨災害に対し、災害ボランティアを募集・派遣し、支援を行った。

(3) 市民が気軽に相談できる体制づくりとより積極的なニーズの把握

- ・特例貸付申請受付手続きと相談支援のネットワーク体制を強化した。
- ・特例貸付を再貸付まで全て借り終えたタイミングを見計らい、終了者1613件の分析調査を実施した。
- ・分析結果をもとに、無職の方や多重債務のある方など優先すべきケースを抽出し、チラシ送付や電話でのフォロー支援を行った。また、SOSを発信できない方へ訪問等によるアウトリーチ支援を実施した。

(4) 権利擁護支援の充実

- ・地域福祉権利擁護事業の理解を広めるためパンフレットのリニューアルに取り組んだ。

- ・持続可能な権利擁護支援事業を推進するため、マニュアルを整備し、業務の効率化についても検討を行った。
- ・新たな課題に応じた仕組みづくりのため、ずっと安心モデル事業の振り返りと事業化に向けて検討を行った。

(5) 第6次地域福祉活動計画の策定

- ・大津市の地域福祉計画と一体計画として策定した。
- ・重層的支援体制整備事業を計画全体へ反映した。
本計画に成年後見制度利用促進計画、再犯防止推進計画を位置づけた。
- ・策定委員会3回、策定プロジェクトチーム会議4回を開催した。

(6) 人材育成計画による職員育成

- ・「令和3年度人材育成計画」を作成。「OJT マニュアル」を活用して、新任研修を実施した。
- ・新たに「メンター制度」を導入し、OJT 担当とメンター担当を兼務した。
年度の後半で、OJT 担当とメンター担当を分けることとした。
- ・目標管理シートを活用し、面談を通して、職員の育成に努めた。
- ・個別研修計画一覧表の作成。職員毎の研修計画が見える化した。

2. 会務の運営

(1) 理事会の開催

◆第1回理事会	令和3年6月9日（水）9時55分～11時15分	（理事13名・監事2名出席）
第1号議案	令和2年度事業報告および決算の承認について	
第2号議案	理事および監事候補者の選任について	
第3号議案	評議員候補者の選任について	
第4号議案	評議員選任・解任委員の選任について	
第5号議案	定時評議員会の開催について	
第6号議案	評議員選任・解任委員会の開催について	
◆第2回理事会	令和3年6月25日（金）13時58分～14時45分	（理事14名・監事2名出席）
第7号議案	会長、副会長及び常務理事並びに常任理事の選定について	
第8号議案	評議員選任・解任委員の選任について	
◆第3回理事会	令和4年3月16日（水）9時55分～11時35分	（理事12名・監事1名出席）
第9号議案	令和3年度大津市社会福祉協議会収支補正予算（案）について	
第10号議案	役員等賠償責任保険の契約締結について	
第11号議案	令和4年度大津市社会福祉協議会事業計画（案）について	
第12号議案	令和4年度大津市社会福祉協議会収支予算（案）について	
第13号議案	第2回評議員会の開催について	
報告事項	1. 新型コロナウイルス感染症特例貸付について	
	2. 第4次大津市地域福祉計画・第6次大津市社協地域福祉活動計画について	
	3. 会長及び常務理事の職務の執行状況について	

(2) 評議員会の開催

◆第1回評議員会 令和3年6月25日(金)10時05分～11時03分 (評議員14名・監事2名出席)

第1号議案 令和2年度事業報告及び決算の承認について

第2号議案 理事および監事の選任について

◆第2回評議員会 令和4年3月25日(金)10時00分～11時03分 (評議員12名・監事2名出席)

第3号議案 令和3年度大津市社会福祉協議会収支補正予算(案)について

第4号議案 令和4年度大津市社会福祉協議会事業計画(案)について

第5号議案 令和4年度大津市社会福祉協議会収支予算(案)について

(3) 監事会の開催

◆第1回監事会 令和3年5月28日(金)9:30～(監事2名出席)

令和3年度 社会福祉法人大津市社会福祉協議会事業報告について

令和3年度 社会福祉法人大津市社会福祉協議会収支決算報告について

(4) 評議員選任・解任委員会の開催

◆第1回評議員選任・解任委員会 令和3年6月22日(火)(委員5名出席)

第1号議案 評議員の選任について

(5) 常任理事会の開催 (理事会において、決議・報告する事項の事前審議を中心に開催)

◆第1回常任理事会 令和3年6月4日(金)(出席理事7名)

◆第2回常任理事会 令和4年3月10日(木)(出席理事7名)

(6) 第三者委員会の開催

令和4年2月15日、3名の第三者委員へ苦情案件の19件の報告を行った。

1) 委員

名 前	資 格
田口 勝之	弁護士
並河 孝	社会福祉士
尾崎 史	社会福祉士

2) 苦情案件 (19件)

内 訳	令和3年度	令和2年度	令和元年度
事務局の対応で済	19件	10件	4件
顧問弁護士と対応	0件	2件	1件
運営適正化委員会の対応	0件	1件	0件
第三者委員会の対応	0件	0件	0件
合 計	19件	13件	5件

3) 苦情内容について

内容	件数	%
事務ミス	5件	27%
金銭管理	3件	
書類管理	2件	
運転関係	4件	21%
匿名通報	2件	

交通事故	2 件	
支援内容	4 件	21%
組織対応	3 件	16%
提案・改善	1 件	5%
個人情報取り扱い	1 件	5%
行動ミス	1 件	5%
合計	19 件	100%

(7) 第6次地域福祉活動計画 策定委員会の開催

第6次大津市社会福祉協議会地域福祉活動計画は、第5次計画に引き続き行政の地域福祉計画と一体的に策定した。

令和3年度の第6次地域活動計画策定作業は、策定プロジェクトチーム会議（作業部会）を4回開催し、策定委員会を3回開催して、第5次計画の評価、第6次計画の基本理念、基本目標、方向性等について検討を進めた。

1) 第6次大津市社協地域福祉活動計画策定委員会の開催

回	日 時	内 容
1	令和3年6月4日	・新計画の策定について ・新計画の策定体制とスケジュールについて
2	令和3年10月15日	・新計画の策定について ・スケジュールについて
3	令和4年2月14日	・新計画のパブリックコメントについて ・新計画の最終案について

2) 第5次大津市社協地域福祉活動計画・第3次大津市地域福祉計画策定プロジェクトチーム会議の開催

回	日 時	内 容
1	令和3年6月28日	・第5次、3次計画の評価について ・第6次、4次計画に向けた課題について
2	令和3年8月3日	・第6次、4次計画施策体系について ・第6次、4次計画の施策の展開について
3	令和3年9月22日	・第6次、3次計画の素案について
4	令和3年11月15日	・第6次、4次計画の素案について



(8) 賛助会費や寄付金等の自主財源の確保

学区社協を通じて、一般（戸別）及び特別（個人）会費にご協力をいただいた。また、継続的な財源を確保するためだけでなく、本会の活動を理解し、物心両面で支援をしていただく「賛助会員」の募集を行い、多くの方にご協力をいただいた。

種 別	件数	金 額（円）
組織構成会費	136	272,000
賛助会費	112	1,062,000
寄附金	130	5,058,361

(9) 経営指針に基づく「改革実行プラン」の推進

大津市社協が永続的な活動を推進していくため、経営方針に基づき、令和2年度から4年度にかけて、4つの視点の内容を具現化するために「改革実行プラン」を推進した。

1) 財務体質の改善

①補助金、受託金の適正化に向けて積算の見直し

- ・福祉政策課との連携会議の開催
- ・市包括外部監査への対応

②オリジナルバッジの作成（大津市共同募金委員会と協働）

③大津市包括外部監査人による監査への対応

- ・「大津市外郭団体に係る財務事務の執行について」をテーマに本会を含む大津市の外郭団体が監査を受けた



2) 人材育成と組織の活性化

①目標管理制度の本格実施

②働き方改革に伴うワーク・ライフ・バランスの実現

③人材育成計画（階層別研修体系）に沿った研修

④メンター制度の実施

3) 新しい視点による事業の創設

①広報「ひまわり」誌面の見直し ⇒ 社協活動を知ってもらう

②おおつひまりん商標登録（令和3年12月14日）

③おひとり様ずっと安心事業の実施（預託金サービス等）

④NHKクローズアップ現代や新聞社などマスコミの活用

⑤お仕事ノートの作成に向けた紙面の作成

⑥コロナ禍による新たな支援（子育て応援フェア、学生応援プロジェクト、コロナ困りごと応援プロジェクト）

4) 事務の効率化と経費削減

①事務費の見える化（印刷費用、車両関係）

②権利擁護事業の事務の効率化に向けた協議

(10) 目標管理制度の実施

法人の理念や各部署の目標に基づき、業務の達成度や期待される職務・役割、能力を評価し、能力開発や人材活用及び働き甲斐のある職場作りを目指して、令和2年度試行的にはじめたが、令和3年度から本格施行した。

< 日程・内容 >

日 程	内 容
4 月～5 月	目標管理制度説明会・目標設定
9 月	中間面談
1 月	本人評価
2 月	一次評価・合議評価
3 月	評価会議・フィードバック面談

(11) コロナ禍における大津市社協ならではのプロジェクトの実施

①子育て応援フェア

新型コロナウイルス感染症の影響で生活に困っている方に活用してほしいと地域の企業や市民から心温まる寄附金をいただき、昨年度に引き続き、特例貸付を利用されたひとり親世帯の子育てを応援する「子育て応援フェア」をひとり親である当事者にも参画いただきながら、令和3年8月に実施する予定で企画していたが、コロナの感染拡大により緊急事態宣言が発令されたため、郵送による方式に変更した。

特例貸付を利用されている、ひとり親 239 世帯にご案内し、40 世帯が申込をいただき、食品、生活用品、文房具等を提供した。

申込された方からは、「素敵な贈り物をありがとうございました。」「経済的・精神的に辛いですが、助かる物をたくさんいただき、感謝しかありません。」とメッセージをいただいた。



②コロナ困りごと応援プロジェクト

社会的孤立の脱却と防止のために、コロナ特例貸付をすべて終了された子育て世帯（特例貸付申請時 18 歳以下の子どもがいる世帯（ひとり親除く）236 世帯に案内、124 世帯申込）に対し、選べるギフトを提供することで、地域の新たなつながりを生み出した。

特例貸付の現状を地域に発信したところ、地元企業から「コロナ禍でお困りの世帯を応援したい」と多額の寄付金をいただいた。特例貸付利用の子育て世帯を対象に、職員発の“無料で選べるカタログギフト”を作成した。この企画を通して、家庭内のコミュニケーションのきっかけや地元企業の応援団の拡大など、地域の助け合いの輪が広がった。

- | | |
|---------------|-------------------|
| ① キッチンコース | 19 件 |
| ② 食材コース | 29 件 |
| ③ 洗濯コース | 35 件 |
| ④ 掃除コース | 12 件 |
| ⑤ ハンディファン | 8 件 |
| ⑥ タオルコース | 14 件 |
| ⑦ コーヒースイーツコース | 4 件 |
| ⑧ 銭湯コース | 3 件（大津湯、きりしま湯、都湯） |
| 合 計 | 124 件／236 件 |



③ひとり親家庭等への歳末応援プロジェクト

株式会社誠和および近畿地方郵便局長会からおせち 100 個、美輪湖の家大津から味噌 100 個の物品寄付があり、ひとり親世帯個人 20 個と、関係団体(大津市母子福祉のぞみ会)40 個、エッセンシャルワーカーである大津市民病院(看護師)に 40 個を提供した。

④学生応援プロジェクト

新型コロナウイルスの影響を受けた大学生から、アルバイトが出来ず収入がない、学費の支払いが厳しいといった相談が本会に寄せられていたことから、地域の皆様からご寄付でいただいた生活支援物資を活用し、大学生に生活支援物資を提供することにより、大学生を応援する機会を作った。

本会に実習で来ていた龍谷大学生と企画を考え、龍谷大学の協力のもと、令和 4 年 1 月 19 日(水)龍谷大学、1 月 21 日(金)瀬田東市民センターで実施。事前申込をしたところ、134 名の方から申込があった。当日は、龍谷大学の学生ボランティアのお手伝いをいただき、社会福祉協議会と大学が連携して実施することが出来た。

参加者からは、「アルバイトが出来ず、食費を削っていたので、食料を貰えてうれしかった。」
「食料を無料で配布して頂けるだけでなく、配布してくださる方がとても優しく、笑顔で接して頂いた。」という声をいただくことが出来た。



(12) ワークライフバランス～生活と仕事の調和～の取り組み

職員の過重労働に対する健康障害防止に向けて、「ワークライフバランス～生活と仕事の調和～」を掲げ、引き続いて取り組みを推進した。

① 時間外業務の削減

事務局勤務する職員の時間外業務が約 130 時間削減(3,726 時間⇒3,596 時間)することができたが、出向職員においては約 700 時間増加した。(778 時間⇒1,484 時間)※地域包括支援センターでのコロナ対応に伴う業務分担や福祉政策課においては地域福祉計画策定業務が増加した。

② 育児休暇の取得の推進

令和 2 年度 1 名だった育児休暇取得者が令和 3 年度末には 3 名となっている。今後、男性職員にも取得できるように周知を図る。

③ 新型コロナウイルス感染予防対策

働き方改革推進監から週に 1 回の幹部会で滋賀県の動向や本会の感染症対策について報告され職員個々の感染対策や事業所としての対策など公私の取り組みをすすめることができた

3. 活動の目標と具体的事業

本会は、第5次地域福祉活動計画において掲げた基本理念「一人ひとりを認めあい、支えあう、おおらかなまち“大津”」のもと、3つの目標に沿った活動を展開した。

目標1) 多様なネットワークの力で市民のニーズを広く受け止め解決する体制づくり

(1) 情報を必要な人に届ける取り組みの充実

① 本当に必要な人の手元まで福祉情報を届ける工夫をします		
概要	令和3年度の取り組み	5次計画の総括
普段、福祉情報にふれることがない人でも、困った時や心配ごとが生じた際に、容易に目的の情報や相談窓口につながるよう、ホームページやSNS、広報紙等による情報提供を行います。	市社協キャラクター「おおつ ひまりん」の積極的な活用と紙面から広報の内容を見てもらえる工夫をして発行しました。また、広報からQRコード通じてホームページに案内することで、さらに情報提供することができました。	福祉情報を届けるため、興味を引き読んでもらえる広報づくりに取り組みました。また、当事者等に向けたコロナ禍における活動のチラシを作成するなど地域福祉活動のサポートにもつながりました。

主な事業

・大津っ子まつり推進事業

昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症の拡大状況を考慮し、開催が中止となった。

・キャラクター活用事業

「おおつ ひまりん」の商標登録（令和3年12月14日）



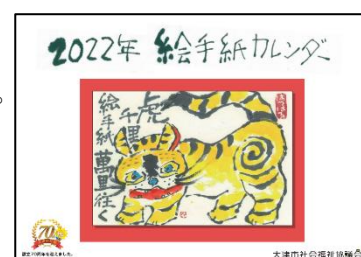
・広報啓発事業（広報誌ひまわりの発行、ホームページの充実、社協ムービーの活用）

- 1) おおつ社協ニュースひまわり 163号（9/1）、164号（1/1）、165号（4/1）回覧
- 2) ホームページの充実

本会のホームページについて、最新情報の更新に積極的に取り組んだ。

・絵手紙カレンダーの作成と配布

令和2年度に引き続き、絵手紙を活用したカレンダーを作成した。歳末たすけあい運動での活用だけでなく、市民への社協PRとしても活用した。



(2) 市民が気軽に相談できる体制づくりとより積極的なニーズの把握

① 地域に出向き課題の掘り起こし（アウトリーチと地域アセスメント）に努めます		
概要	令和3年度の取り組み	5次計画の総括
コミュニティソーシャルワーカーや生活支援コーディネーター等が支援につながりにくいさまざまな生活課題を受け止めるとともに、アウトリー	おひとり様ずつと安心モデル事業において、訪問によりエンディングノートを用いて聞き取り、生活課題を把握しました。また、対象者を通じて地域の病院や診療所、居宅介護支援事業所、地域住民か	グループ間連携により、個人の困りごとに対し、個別支援と地域支援の視点で介入を行いました。支援策は個別支援が中心であったため、今後は

チによる地域のニーズ把握に努めます。	ら地域ニーズの聞き取りを行いました。	地域支援からのアプローチも構築していきます。
--------------------	--------------------	------------------------

② 相談機関、関係機関との連携の強化を図ります		
概要	令和3年度の取り組み	5次計画の総括
総合ふれあい相談は、「どんな相談も断らない」をモットーに運営しています。アセスメントを重視し、初期相談からスムーズに支援へつながるよう、担当職員同士の情報共有をきめ細かく行うとともに、相談機関や関係機関の連携強化を図ります。	総合ふれあい相談についてはコロナ禍により相談の自粛をせざるを得ない時期がありました。各相談員には相談所ごとに説明会を開催するなど工夫することができました。相談機関連絡会では新たにオンライン会議を導入したことで相談機関のつながりについて分野を越えたつながりを維持することができました。	市内7ヶ所における総合ふれあい相談は、月2回から月1回の開催に縮小しました。相談機関連絡会は、新たな相談窓口や福祉事業所など、80機関（10機関増）へ呼び掛けを行い、多くの機関との連携が拡大しました。

主な事業

・生活困窮者自立支援制度にかかる事業

1) 事業の目的

本人の自立と尊厳を確保し、生活困窮状態から早期に脱却することを支援するため、本人の状態に応じた包括的かつ継続的な相談支援、就労支援等を実施するとともに、生活困窮者の早期把握や見守り、働く場や参加する場の拡充に向けて地域ネットワーク体制の構築を目的としている。

2) 実施主体

大津市（大津市より受託）

3) 事業の概要

①自立相談支援事業【必須事業】

→ 新型コロナウイルス感染症の影響により収入が減少・休業・失業等により生活に困窮した方の生活課題を把握、整理しながら信頼関係を構築し、個別の支援計画による継続的、包括的な支援を実施した。複合的な生活課題を抱えている方に多職種連携による世帯丸ごとの支援を行った。また、生活困窮者の現状を地域に発信し、地域のネットワークを活用した支え合い活動を実施した。

②アウトリーチ等の充実による自立相談支援機能強化事業

→ 社会参加に向けてより丁寧な支援を必要とする方に対し、一人ひとりが抱える課題に応じた就労支援や生活支援の充実をを目的に、多機関とのネットワークを形成するとともに、訪問面談や同行支援等、アウトリーチを行い、信頼関係の構築を図りながら、オーダーメイド型の支援を実施し、本人の状況に応じた社会参加や就労につながった。

③子どもの学習・生活支援事業【任意事業】

→ ・夏休み等の子どもたちの学習機会の提供及び居場所づくり「寺子屋プロジェクト」を実施した。（19学区）
・大津市内の子ども食堂情報交換会
子ども食堂実践者が集まりコロナ禍の取り組みについて共有を行った。

- ・子どもに関わるボランティア交流会
子どもに対するボランティア活動を行っている方の話を聞く場を設けた。
- ・瀬田北小学校連携会議
フリースペース利用世帯について、フリースペースと学校で情報共有の場を設けた。
- ・子どもの学習支援ネットワーク会議
実施団体等と今後の津市内の子どもの居場所づくりについて意見交換を行った。
- ・津市内の子どもの居場所づくり事業実施団体による意見交換会
支援団体の横のつながりを作るためのたたき台について話をすすめた。

4) 事業実績

①自立相談支援事業（必須事業）

ア) 初期対応状況 (件)

年度	新規相談 受付け数	内訳		
		継続支援し、 プラン策定	情報提供・ 相談のみ	他制度・他機関 等へのつなぎ
令和元年度	541	153	140	266
令和2年度	2900	242	81	2661
令和3年度	1507	214	76	1320

昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症の影響により生活に困窮した方が増加し、新規相談受付件数は、令和元年度比 2.8 倍となった。他制度・他機関等へのつなぎ 1320 件の 9 割は、新型コロナウイルス感染症に伴う特例貸付（緊急小口資金・総合支援資金）の相談である。

イ) 相談内容・困りごと ※複数選択あり (件)

生活費の収入	就職について	仕事探し・ 障害のこと	病気・健康 の支払い	税金・公共料金の支払い	住まいのこと	債務について	仕事の不安 トラブル	家族との関係	食べるもの がない	子育て	介護のこと	ひきこもり 不登校	地域との関係	D 虐待	V その他
696	247	172	161	146	121	74	49	43	39	34	24	23	14	9	170

※その他は、主に特例貸付に関する相談

ウ) 新規相談受付のうちプラン作成による月別支援状況 (件)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間 合計
新規相談受付件数(本人未特定を含む)		188	162	207	136	141	135	98	116	78	67	74	105	1,507
(うち)本人特定のみ(本人同意なしを含む)		188	162	207	136	141	135	98	116	78	67	74	105	1,507
(うち)本人特定のみ(本人同意ありのみ)		161	143	176	122	125	114	80	88	50	42	60	82	1,243
プラン策定前支援終了件数(初回スクリーニング時)		176	153	200	123	127	125	88	107	72	59	69	97	1,396
うち	情報提供のみで終了	1	10	9	4	5	8	4	5	4	3	8	15	76
	他機関へのつなぎで終了	175	143	191	119	122	117	84	102	68	56	61	82	1,320
	スクリーニング判断前に中断・終了	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
支援決定・確認件数(再プランを含む)		28	17	14	22	18	21	20	19	13	16	12	14	214
うち	支援決定あり	0	0	2	1	3	2	2	0	0	2	2	2	16
就労支援対象者数(プラン期間中の一 般就労を目標にしている)		27	17	12	18	17	20	19	16	12	14	11	10	193
事業に等 基づく	住居確保給付金	6	1	1	2	1	1	1	2	1	4	1	0	21
	一時生活支援事業	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
	家計改善支援事業	0	0	2	1	2	2	2	0	0	2	1	2	14
	就労準備支援事業	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	2
	認定就労訓練事業	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
自立相談支援事業による就労支援		27	17	12	18	17	20	19	16	12	14	11	11	194
その他	生活福祉資金による貸付	22	14	8	11	13	13	12	14	8	7	4	2	128
	生活保護受給者等就労自立促進事業	26	17	12	18	11	20	19	15	12	14	8	10	182

エ) 評価結果の状況

今年度、評価を実施した 218 人のうち変化が見られたのは、200 人で、評価実施件数中、就労支援対象のプラン作成者は、196 人で、うち 103 人は一般就労を開始、4 人は就労収入が増加した。

支援により見られた変化では、コロナで収入が減少、失業、廃業した方が就職開始や家計改善支援事業による家計の見直しにより、税、保険料、各種公共料金の滞納を返還できるようになった。また、債務整理により、消費者金融等の負債の清算を行い、生活再建に向けた家計改善が見られました。

(件)

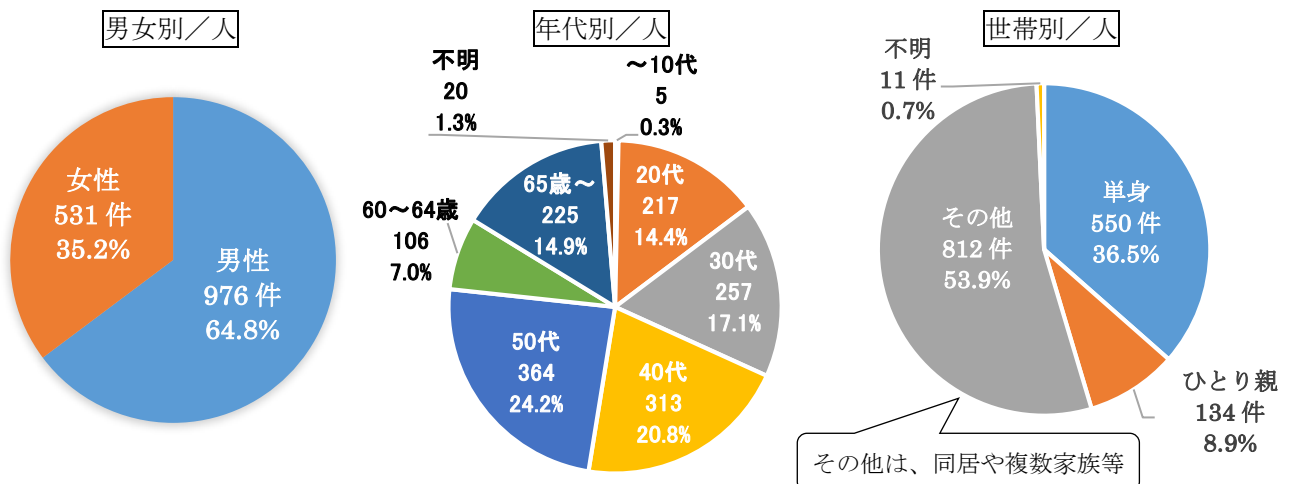
評価実施件数(再プランを含む)	15	23	15	23	14	27	15	14	17	15	17	23	218
評価結果													
終結	13	18	9	18	13	24	10	12	14	9	12	20	172
再プランして継続	2	5	6	5	1	3	5	2	3	6	5	3	46
中断	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
見られた変化あり	15	19	13	18	14	27	14	14	16	13	15	22	200
見られた変化なし	0	4	2	5	0	0	1	0	1	2	2	1	18
①評価実施件数中就労支援対象プラン作成者分	13	23	14	20	13	23	14	12	16	13	15	20	196
うち 一般就労開始	11	14	6	9	7	11	3	6	10	9	6	11	103
うち 就労収入が増加	1	0	0	0	0	0	0	2	0	0	1	0	4
②評価実施件数中、就労支援非対象プラン作成者分	2	0	1	3	1	4	1	2	1	2	2	3	22
うち 一般就労開始	1	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	3
うち 就労収入が増加	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
③プラン作成者以外													
うち 一般就労開始	0	0	0	2	1	0	1	0	1	1	0	3	9
うち 就労収入が増加	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

オ) 相談経路

(件)

生活保護担当課	収納関係課	子ども家庭課・子ども家庭相談室	保健所	市へ総合案内・市民相談室・支所	その他行政機関	相談履歴あり	特例貸付 (大津市社協)	支援事業受託機関	チャット・看板	インターネット・HP	子ども若者総合相談	ふれあい相談・市社協(貸付担当含む)	他市社協	滋賀県社協	弁護士・司法書士	学校関係者	あんしん長寿・すこやか相談所	ケアマネ・介護事業所	医療機関 (訪問看護含む)	居宅支援法人・不動産関係	職場・近隣住民	家族・知人	民生委員	議員	ハローワーク	不明	その他	合計
17	9	10	4	19	5	76	1187	2	30	10	22	2	1	2	1	17	4	7	2	29	8	5	1	16	21	1507		

特例貸付を利用された方からの相談が多い。
特例貸付を利用された方へ昨年度から「困ったときは、大津市社協へご相談ください」と電話等でアプローチをしていた成果である。



カ) 自立相談支援における就労支援状況

昨年度に引き続き今年度も、新型コロナウイルス感染症の影響で収入が減少・休業、失業した方へ電話等によるアプローチを行い、就労支援を実施した。感染防止の観点からまずは、電話やメール、手紙などのツールを活用し、生活状況の聞き取りを行い、継続的に支援が必要と思われる相談者に就労支援等のプラン支援を実施した。

下記は、大津市社協が、独自に今年度の就労対象者（前年度からの継続者含む）と就労者・増収者を集計したものである。特例貸付の相談者の約 20%が無職・失業されている状況で、年齢別では 40 代、50 代、60 代前半で 50%、世帯別では、ひとり親や単身世帯で 45%を占めており、離職期間が長期化すると、たちまち生活困窮に陥る状況であることから、アプローチやフォロー支援を丁寧を実施した。

(件)

就労支援対象者	就労者数 (プラン有)	増収者数 (プラン有)	就労者数 (プラン無)	増収者数 (プラン無)	就労対象外 (プラン有)	就労対象外 (増収) (プラン有)	就職・増収 者数累計	就労・ 増収者 率
280 (87)	106	4	9	1	3	1	124	44.3%

(自立相談支援における就労支援状況) ※就労支援対象者の()は、前年度からの継続者

今年度の就労支援対象者 280 人のうち就労支援ステーション「ステップアップおおつ」を利用された方は、151 人(実人数)であり、就労支援ナビゲーターと連携しながら、早期、再就職に向けて就労支援や生活支援を実施した。

キ) 自立相談支援事業におけるアウトリーチ支援

SOS を発信できない方や社会的孤立にある方へ訪問面談や同行支援等のアウトリーチ支援を実施した。一人では何をすればいいのか不安で動けない方へ思いに寄り添いながら、訪問、同行支援をすることにより、孤独、孤立、不安感の解消につながった。

また会話を通し、一人ではないのだと信頼関係を構築していくことで社会参加、自立の一步を踏み出すことができるようになった。

回数：598 回（月平均：約 50 回） 実人数：283 人 (件)

月	手紙	メール	電話	訪問	同行支援	その他
4 月	0	6	4	10	14	1
5 月	1	1	4	10	14	3
6 月	1	3	14	14	13	3
7 月	0	0	0	18	19	3
8 月	0	3	3	17	13	1
9 月	0	2	0	27	24	4
10 月	0	10	1	19	28	4
11 月	2	9	0	17	22	4
12 月	0	9	5	23	23	5
1 月	0	11	0	26	22	2
2 月	1	0	0	11	24	6
3 月	1	8	3	23	34	4
合計	6	62	34	215	250	40

ク) ふわりサロンの開催

「日常生活自立」「社会生活自立」や「孤立からの脱却」を目指して、ゆるやかな居場所として当事者サロンを毎月第2水曜日に定例会として開催している。今年度は、11回実施し、延べ69名が参加した。今年度も新型コロナウイルス感染症の影響により定例会が2回、イベントが2回中止せざるを得なかった。

実施日		時間	会場	内容		参加人数
4月14日	水	10:00～12:00	中会議室	定例	ボランティア活動 「クリーンウォーク」	3名
5月12日	水	10:00～12:00	中会議室	定例	ステップアップ勉強会 手話体験 「手話ってなんだろう？」	5名
6月9日	水	10:00～12:00		定例	ステップアップ勉強会 家計講座 「お金の使い方を学ぶ（安全と危険）」	10名
7月14日	水	10:00～12:00	北消防署	定例	社会科見学 「北消防署」	3名
8月18日	水	10:00～12:00	大会議室	定例	施設連絡会お仕事体験会とコラボ 「共同募金資材準備作業」	8名
【中止】 9月8日	水	10:00～12:00	大津港	定例	ボランティア活動 「外来魚駆除 ～琵琶湖の環境保全～」	中止
10月13日	水	10:00～12:00	大津港	定例	ボランティア活動 「外来魚駆除 ～琵琶湖の環境保全～」	5名
【中止】	日	9:00～15:00	明日都浜大津 プロムナード	イベント	ボランティア活動 「浜大津フリーマーケット販売」	中止
11月10日	水	10:00～12:00	中会議室	定例	ボランティア活動「近江神宮でどんぐり拾い！～奈良公園の鹿に寄付～」	6名
12月8日	水	10:00～12:00	ホール	定例	ステップアップ勉強会「興味のある仕事を発見しよう！・職種を知ろう！」	14名
12月26日	日	10:00～12:00	膳所診療所 駐車場	イベント	大津夜まわりの会主催 第21回「越冬支援の集い」	職員 参加
1月12日	水	10:00～12:00		定例	近江神宮へ初詣に行こう	13名
【中止】 1月30日	日		アクティバ 琵琶前	イベント	ボランティア活動 「ヨシ狩り ～琵琶湖の環境保全～」	中止
【中止】 2月9日	水	10:00～12:00	中会議室	定例	ふわりサロンメンバーによる企画	中止
3月9日	水	10:00～12:00	ボランティア 活動室	定例	ふわりサロンメンバーによる 令和4年度の企画ミーティング	2名
※中止は、新型コロナウイルス感染拡大により緊急事態宣言の発令等が理由。						69名

＜ステップアップ勉強会＞



(手話講座)



(家計講座)



(就労講座)

〈社会科見学・お仕事体験・ボランティア活動〉



(北消防署へ見学・体験)



(共同募金資材準備作業)



(クリーンウォーク)

ケ) 傍楽(はたらく)体験への参加

滋賀県社会福祉協議会が実施している「ひきこもり者と家族が孤立しない地域支援体制づくり事業」において、傍楽(はたらく)体験が開催されている。

働きづらさを抱えている方のサポートを目的として、月に1回2時間の作業が用意されており、社会参加に向けて一步を踏み出すきっかけづくりや就労に向けた準備、コミュニケーション能力を克服するなど、それぞれが状況に応じてスモールステップを目指して参加されている。中には、毎回継続して参加することで自信が付き、一般就労につながった方もおられる。今年度は、延べ15名が参加した。

実施日		時間	内容		参加人数
4月28日	水	10:00～12:00	定例	・データ入力作業(子ども食堂 実施報告書)	1名
5月26日	水	10:00～12:00	定例	・アンケート パソコン入力作業 ・「縁の森」の散策路整備作業	0名
6月30日	水	10:00～12:00	定例	・車椅子空気入れ、展示室清掃作業 ・「縁の森」の散策路整備作業	0名
7月26日	月	10:00～12:00	定例	・用具センター 浴槽コーナー等展示室清掃作業 ・「縁の森」の散策路整備作業	0名
8月25日	水	10:00～12:00	定例	・車椅子空気入れ・清掃 ・「縁の森」の散策路整備作業	0名
9月22日	水	10:00～12:00	定例	・レイカディア大学 入学式準備作業 ・「縁の森」の散策路整備作業	3名
10月25日	月	10:00～12:00	定例	・車椅子・福祉用具清掃作業 ・「縁の森」の散策路整備作業	1名
11月24日	水	10:00～12:00	定例	・福祉用具清掃作業 ・子ども食堂フェスタ 飾りづくり ・「縁の森」の散策路整備作業	2名
12月22日	水	10:00～12:00	定例	・福祉用具清掃作業 ・滋賀県社会福祉学会発送作業(ラベルシール貼り) ・「縁の森」の散策路整備作業	4名
1月26日	水	10:00～12:00	定例	・車椅子空気入れ・展示室清掃等 ・発送用袋づくり ・「縁の森」の散策路整備作業	1名
2月2日	月	10:00～12:00	定例	・アンケートパソコン入力集計作業 ・「縁の森」の散策路整備作業	2名
3月23日	水	10:00～12:00	定例	・発送作業(資料封入・封とじ) ・「縁の森」の散策路整備作業	1名

・ 総合ふれあい相談事業

市内 7 か所の総合ふれあい相談について、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、令和 3 年度開催期間は 6～7 月、10 月～1 月の 6 か月となった。開催頻度は、月 1 回で実施。旅費については、前年度同様、ふれあい相談員を担う民生委員児童委員全員に一定額(500 円)を支払い、公共交通機関を使って出務する方と自家用車またはバイクで往復 10km を超える方について別途実費分（自家用車、バイクについては 20 円/km）を支払うこととした。

令和 3 年度のふれあい相談員を対象とした研修会についても、新型コロナウイルス感染症予防対策のため、前年度同様、総合ふれあい相談員説明会という形で、市内 7 か所の相談所ごとに実施した。相談所ごとに説明会を行ったことで少人数（10 名程度）、60 分以内という短時間でを行うことができたことは感染予防対策として効果があった。また参加者からも質問や意見がしやすい雰囲気であったこと、実際に使用する相談所を使って行うことで、相談のイメージがしやすいことも良い効果であった。

市社協で実施している総合ふれあい相談は、新型コロナウイルス感染症の拡大状況によっては面談を中止、延期対応を行い、電話相談は通常通り実施した。

- 1) 相談体制 常設相談（市社協内） 相談員 1 名（相談員 3 名が交代で対応）
市内 7 か所ふれあい相談所 相談員 2 名（相談員 70 名が交代で対応）

- 2) 相談状況 (件)

ふれあい相談		4 月		5 月		6 月		7 月		8 月		9 月	
相談件数		69		63		84		83		87		58	
		新規	継続	新規	継続	新規	継続	新規	継続	新規	継続	新規	継続
		25	44	28	35	27	57	23	60	26	61	23	35
相談内訳	電話	59		55		64		69		74		44	
	来所	8		5		12		12		8		12	
	訪問	0		0		5		0		5		1	
	その他	2		3		2		2		0		1	
	木戸					0		0					
	堅田					0		0					
	坂本					0		0					
	逢坂					0		0					
	晴嵐					0		0					
	南郷					1		0					
	瀬田					0		0					
ふれあい相談		10 月		11 月		12 月		1 月		2 月		3 月	
相談件数		79		83		89		93		77		92	
		新規	継続	新規	継続	新規	継続	新規	継続	新規	継続	新規	継続
		27	52	25	58	23	66	26	67	27	50	27	65
	電話	57		70		72		78		57		74	
	来所	21		11		15		10		10		13	
	訪問	30		0		2		2		1		1	
	その他	0		0		2		3		9		4	
	木戸	0		0		0		0					
	堅田	0		0		0		0					
	坂本	0		1		0		0					
	逢坂	0		0		0		0					
	晴嵐	0		0		0		0					
	南郷	1		1		0		0					
	瀬田	0		0		0		0					
		年度合計											
		952 (850)											
		新規	継続	新規	継続	新規	継続	新規	継続	新規	継続	新規	継続
		302	650	302	650	302	650	302	650	302	650	302	650
		555 (513)											
		99 (106)											
		13 (12)											
		19 (20)											
		0 (0)											
		0 (0)											
		1 (1)											
		0 (0)											
		0 (0)											
		3 (0)											
		0 (3)											

() 内は、令和 2 年度件数

・相談機関連絡会の開催

顔の見える関係づくりを目的に情報交換を実施している「相談機関連絡会」については、年度は、オンラインで4回開催した。

日 時	テーマ	内 容
令和3年6月30日(水) 13時30分～15時30分 9名出席	「ザ・コロナ」 事業や体制などで困ったこと、工夫したこと、ワクチン話など	コロナ禍での職場の工夫で苦勞している点について共有。相談状況と傾向の情報交換も行った。
令和3年9月29日(水) 13時30分～15時30分 15名出席	「NO テーマ」 テーマを決めずに意見交換、顔の見える関係をつくりたい！	テーマを決めずに顔が見える関係づくりを目指して、聞きっぱなし、話しっぱなしの機会を作った。
令和3年11月30日(火) 13時30分～15時30分 13名出席	「8050 問題」 孤立、虐待、貧困など、今や分野を超えた共通の社会問題です	8050 問題、ヤングケアラーについて情報交換を行った。
令和4年2月24日(木) 13時30分～15時30分 6名出席	「災害がおこったら」 備えや知識だけではなく、各機関ごとの動きや課題など	各機関が心掛けている災害が起こる前の備えや知識について、大津市災害ボランティアセンターの紹介も含めて共有した。

・市福祉政策課への職員派遣

大津市の福祉政策課へ社会福祉士を1名派遣した。

生活困窮者自立支援事業、第4次地域福祉計画、第6次地域福祉活動計画策定等を担当。

庁内における生活困窮者支援のための「支援会議」の実施と事例の積み重ね重層型支援体制整備事業の県内、中核市の進捗状況の調査等。

・生活福祉資金貸付事業、法外援護及び扶助事業

新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、令和2年3月25日から始まった特例貸付は、幾度と延長となり、現時点で令和4年6月末まで期間延長がされている。コロナによって収入減少や失業した方の相談に対し、貸付以外に就労支援や家計改善支援事業など自立相談支援機関と連携して対応を行った。また、自立相談支援機関による聞き取りにより、子どもの進学費用に困られている世帯に対し、教育支援資金の対応を行い、進学費用を支払うことが出来た。

特例貸付を利用しているひとり親世帯を対象に、今年度も「子育て応援フェア」を開催。緊急事態宣言により、対面で行うことが出来なかったが、郵送で物資以外に教育支援資金のパンフレットを送付した。貸付で終わることなく、市社協が相談できる場所という周知に加えて、相談者が助けられる側から助ける側となるよう取り組んだ。その結果、教育支援資金の相談に繋がった世帯もあった。

1) 生活福祉資金の貸付

相談件数 (件)

年度	相談件数(延べ)	実人数
令和元年度	1,317	770
令和2年度	28,122	10,936
令和3年度	21,336	4,976

特例貸付が始まり、2年経つが、申請相談が絶えず寄せられていた。今までは間接的な影響が多かったが、令和3年度ではコロナに感染してしまい、仕事に行けないという直接的な影響が多くなった。

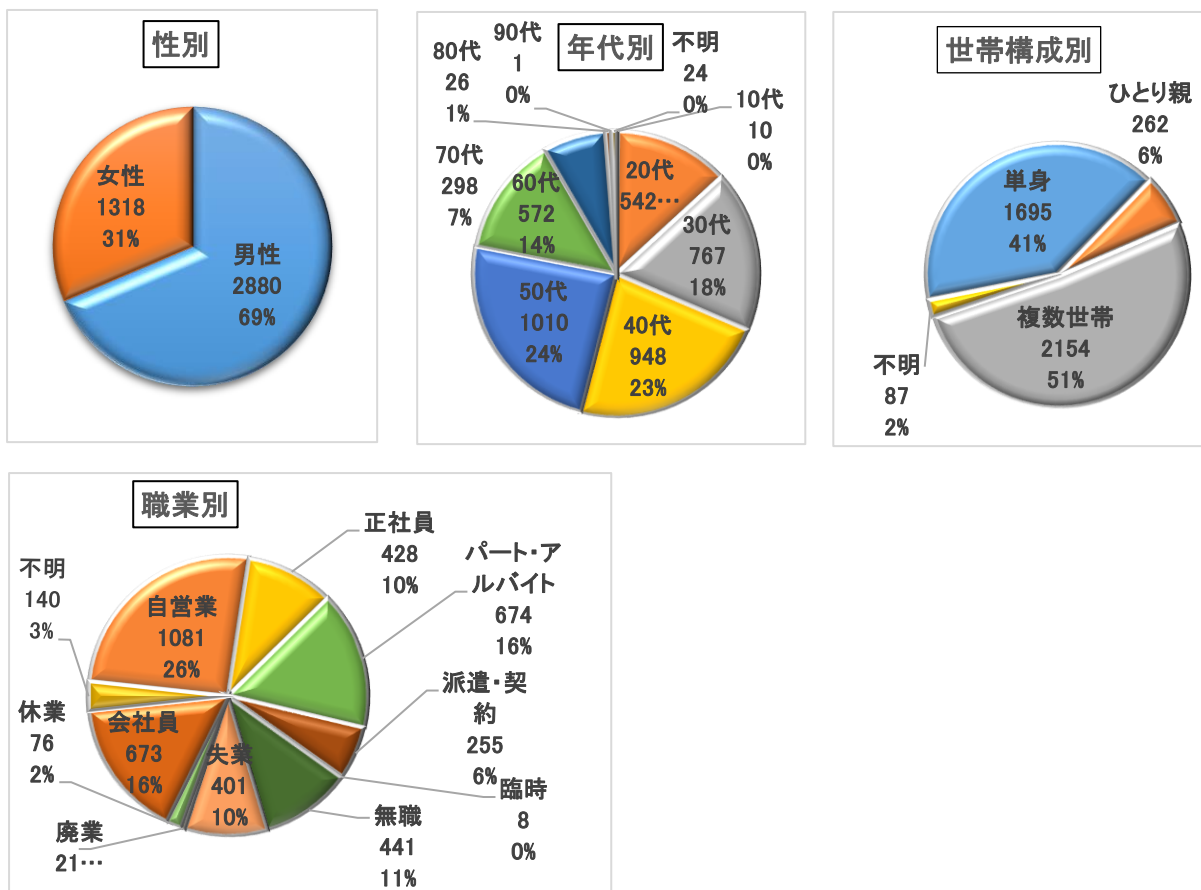
貸付決定件数

	貸付決定	貸付総額
福祉資金	18件	10,212,350円
教育支援資金	62件	102,003,747円
総合支援資金	3,153件	1,671,090,000円
緊急小口資金	1,231件	240,910,000円
不動産担保型生活資金	1件	5,950,000円

合 計 4,465件

昨年に引き続き、特例貸付を通じて教育支援資金の相談に繋がることが多く、申請件数が伸びた。

2) 特例貸付（総合支援資金）の相談者の状況

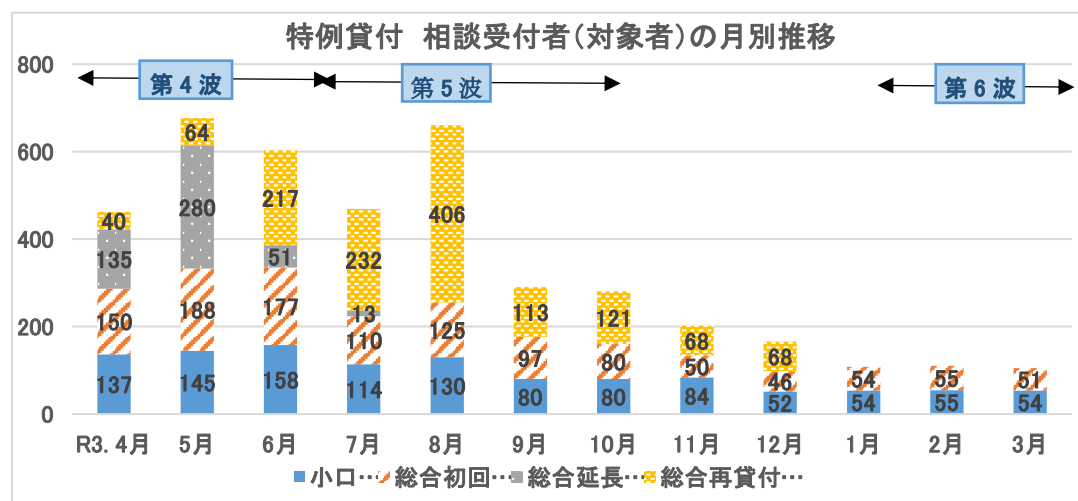


新型コロナウイルス感染症の影響で休業や収入の減少、失業等により生活に困窮し、日常生活の維持が困難となっている方へ生活の再建を目的として緊急小口資金・総合支援資金の特例貸付が令和3年3月25日より開始し、コロナ感染が終息しないことを受け、昨年度に引き続き、申請受付期間が延長となった。

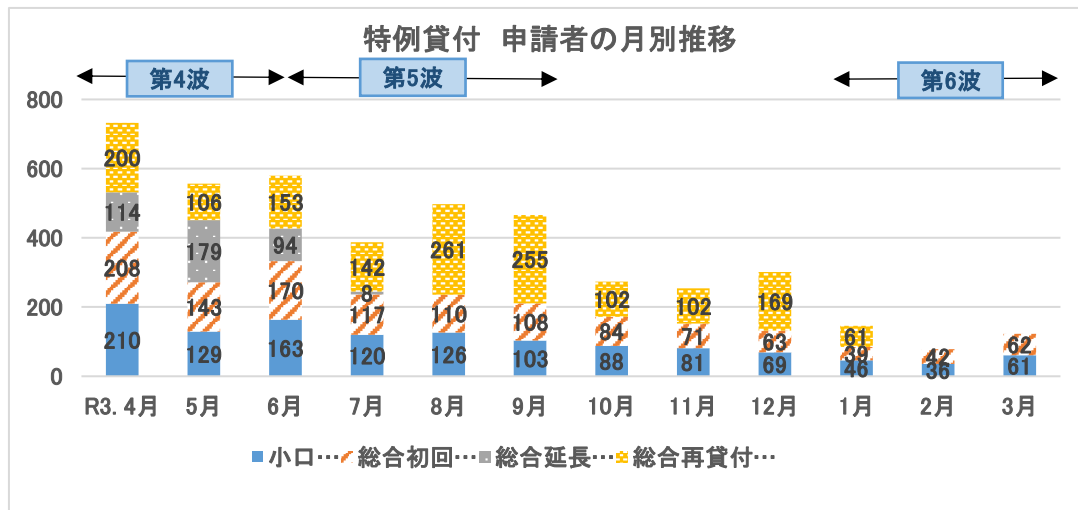
相談者の状況は、性別では、男性が約70%を占めている。年代別では、40代、50代の中高年で約50%、世帯別では、子育て世帯等の複数世帯が約50%を占めており、働き世代が大きな影響を受けている。

職業別では、自営業（個人事業主、フリーランス含む）が約26%を占めており、特例貸付の特徴である。

3) 特例貸付の相談受付者（対象者）の月別推移



4) 特例貸付の申請者の月別推移



令和3年度は、新型コロナウイルスの第4波、5波の感染拡大までは、相談や申請が激増し、その後、減少傾向となった。総合支援資金（再貸付）の申請受付を12月末で終了すると政府発表を受け、申請用紙を送付後、申請をされていない方に案内文を送付したため、12月の総合支援資金（再貸付）は増加となった。

5) 特例貸付（総合支援資金）の相談者の状況（学区別）

【特例貸付】総合支援資金 相談者の状況（学区別）

令和2年3月25日～令和4年3月31日現在

ブロック名		志賀ブロック			
学区名		小松	木戸	和邇	小野
相談者数		48	48	88	19
性別	男性	39	36	53	11
	女性	9	12	35	8
年代別	10代	0	0	1	0
	20代	3	2	12	1
	30代	6	8	11	1
	40代	11	19	16	7
	50代	13	10	26	4
	60代	11	4	9	5
	70代	4	4	10	1
	80代	0	1	2	0
	不明	0	0	1	0

ブロック名		北部ブロック							
学区名		葛川	伊香立	真野	真野北	堅田	仰木	仰木の里	
相談者数		3	25	78	84	286	10	73	
性別	男性	2	19	59	56	202	7	56	
	女性	1	6	19	28	84	3	17	
年代別	10代	0	0	0	1	1	0	0	
	20代	1	3	8	3	42	1	9	
	30代	0	6	15	10	62	1	17	
	40代	0	5	21	20	65	0	20	
	50代	1	4	15	13	74	2	13	
	60代	1	4	14	22	30	4	7	
	70代	0	3	5	12	11	2	6	
	80代	0	0	0	1	0	0	0	
	90代	0	0	0	1	0	0	0	
	不明	0	0	0	1	1	0	1	

ブロック名		比叡ブロック				
学区名		雄琴	日吉台	坂本	下坂本	唐崎
相談者数		150	22	192	172	278
性別	男性	109	18	118	119	180
	女性	41	4	74	53	98
年代別	10代	0	0	0	1	1
	20代	18	1	29	31	35
	30代	36	5	48	37	47
	40代	29	6	37	26	66
	50代	44	5	41	44	67
	60代	15	4	21	19	41
	70代	6	0	14	11	19
	80代	2	0	0	2	2
	不明	0	1	2	1	0

ブロック名		中部ブロック					
学区名		滋賀	山中比叡平	藤尾	長等	達坂	中央
相談者数		212	29	99	138	92	54
性別	男性	137	21	74	86	56	34
	女性	75	8	25	52	36	20
年代別	10代	2	0	0	0	0	0
	20代	27	2	5	12	11	6
	30代	35	2	19	21	20	6
	40代	39	5	24	35	19	13
	50代	52	7	20	35	19	14
	60代	30	8	19	25	19	8
	70代	25	5	10	9	3	6
	80代	2	0	1	0	0	0
	不明	0	0	1	1	0	1

ブロック名		中南部ブロック			
学区名		平野	膳所	富士見	晴嵐
相談者数		116	228	110	236
性別	男性	87	168	69	170
	女性	29	59	41	66
年代別	10代	0	0	0	0
	20代	10	23	10	25
	30代	26	35	18	40
	40代	29	48	28	56
	50代	22	69	25	68
	60代	13	36	14	35
	70代	15	15	13	11
	80代	1	0	1	1
	不明	0	2	1	0

ブロック名		南部ブロック			
学区名		石山	南郷	大石	田上
相談者数		170	102	63	132
性別	男性	101	71	48	97
	女性	69	31	15	35
年代別	10代	0	0	0	0
	20代	18	17	11	19
	30代	29	14	8	28
	40代	35	27	14	27
	50代	35	20	15	21
	60代	31	9	8	21
	70代	19	12	7	12
	80代	2	2	0	2
	不明	1	1	0	2

ブロック名		東部ブロック					
学区名		上田上	青山	瀬田	瀬田南	瀬田東	瀬田北
相談者数		19	31	165	195	158	273
性別	男性	13	23	114	126	107	193
	女性	6	8	51	69	51	80
年代別	10代	0	0	1	0	0	2
	20代	1	3	34	26	34	49
	30代	1	3	25	34	30	63
	40代	7	6	38	52	43	54
	50代	5	14	44	46	34	69
	60代	3	3	19	25	11	24
	70代	2	0	3	11	4	8
	80代	0	1	1	1	0	1
	不明	0	1	0	0	2	3

実人数 4198

6) 法外援護及び法外扶助事業（本会取り扱い分）

やむを得ない事情で生活困窮に陥った低所得世帯を、緊急的な一時支援として法外援護費を給付した。また、給付に伴い、生活再建にむけた自立支援を「生活困窮者自立支援事業」と一体的に行っており、新型コロナウイルス感染の影響を受け、住居を失った方への支援や就労の為の交通費の支給を行うことで自立に向けた支援を行った。

また、所持金の紛失などにより援護を求めた方には、最低限度額の旅費等を法外扶助費として支給した。

法外援護費	19 件	151,880 円
法外扶助費	40 件	10,530 円（旅費等）

※上記のほか、学区社協では、独自に法外援護として貸付けを実施。

・顧問弁護士による相談事業

本会では、平成 15 年度より、顧問弁護士に、助言・指導をいただいている。令和 3 年度は月 2 回、計 24 回の定例弁護士相談を実施した。

令和 3 年度は新型コロナウイルスの感染防止対策を図りながら、定例相談を継続した。また、コロナ禍の長期化による経済の長期低迷により、債務相談等の弁護士相談が増加した。

顧問弁護士：土井法律事務所（黒田啓介弁護士・堀田直美弁護士）

相談実件数は 95 件（令和 2 年度 69 件）となった。その内、定例の弁護士相談以外で電話や訪問対応を実施したのは 11 件であった。

また、相談延べ件数は 128 件（令和 2 年度 101 件）（重複した相談を含む）となった。

令和 3 年度 顧問弁護士の相談件数

相談内容	件数	相談内容	件数	相談内容	件数
生計・多重債務	44 件	結婚・離婚	11 件	年金	0 件
財産・遺言	13 件	職業・生業	2 件	問い合わせ	2 件
人権・法律	11 件	事故	3 件	母子父子福祉	0 件
家族	7 件	障がい者福祉・虐待	0 件	教育・青少年	0 件
住宅	13 件	児童福祉・虐待	0 件	医療	1 件
権利擁護・後見	6 件	高齢者福祉・虐待	0 件	自殺願望	1 件
近隣トラブル	5 件	悪徳業者・消費生活	2 件	その他	7 件

合計 128 件

・顧問司法書士による相談事業

本会では、小額の借金や住宅の相談など、家計再建にかかる法律的な支援を必要とする相談が増加したことから、平成 26 年度より司法書士と顧問契約を締結し、きめ細かい相談事業を展開した。令和 3 年度より、月 2 回、計 24 回の定例相談を実施している。

顧問司法書士：羽田司法書士事務所 羽田慎二司法書士

相談実件数は、44 件（令和 2 年度 27 件）となっており、市社協で実施している各相談事業の強い後ろ盾となった。また、相談延べ件数は 62 件（令和 2 年度 41 件）（重複した相談を含む）となった。定例相談以外の相談は 6 件だった。

令和3年度 顧問司法書士の相談件数

相談内容	件数	相談内容	件数	相談内容	件数
生計・多重債務	27件	健康・保健・衛生	0件	人権・法律	0件
財産・遺言	17件	高齢者福祉・虐待	1件	問い合わせ	1件
住宅	9件	事故	0件	母子父子福祉	0件
家族	1件	障がい者福祉・虐待	0件	教育・青少年	0件
年金	0件	児童福祉・虐待	0件	結婚・離婚	0件
権利擁護・後見	2件	近隣トラブル	0件	職業・生業	0件
医療	0件	悪徳業者・消費生活	2件	その他	2件

合計 62件

・大津市子ども・若者総合相談窓口業務（市受託事業）

子ども・若者総合相談窓口は、ひきこもり、不登校、ニート、非行等、社会生活を円滑に営む上で様々な困難を抱える子ども・若者に対する相談支援を通して、子ども・若者が健やかに成長し、職業的な自立を含めて、社会生活を円滑に営むことができるようになることを目的とする。

令和3年度も、昨年度同様、新型コロナウイルス感染症拡大への対応で面談、訪問の制限を実施するなどの対応が続く年となった。滋賀県の新型コロナウイルス感染対策の指標に合わせて、面談や訪問、同行を延期する対応を行い、やむを得ない面談については15分を目安に実施することとした。コロナ禍における対応として、相談員から相談者への定期連絡の電話や手紙の郵送を実施した。

また、出口支援の一環として、面談と就労体験の中間的な居場所となるWAI WAI スポット（大津市子ども・若者総合相談窓口相談室での軽作業）を実施した。ひきこもり支援に関しては、令和3年度は滋賀県社会福祉協議会から「ひきこもり者・家族が孤立しない地域支援体制づくり事業」助成を受け、以下の2つの取り組みを実施した。

1) 「リモティープロジェクト」（リモートを活用したコミュニティづくり）

障害のある方の通所型就労支援事業である「れもん会社」と、ひきこもり支援機関「一般社団法人えこー」との協働による、在宅就労のはたらき方の実践及び検証を行った。

【対象者】 在宅での作業：3名

子ども・若者総合相談窓口相談室での作業：5名（WAI WAI スポット）

【内 容】 木工作品の研磨作業、刺繍用糸の糸巻き作業

【対象者ごとの取り組み目標】 別紙あり

【実施期間】 令和3年10月～令和4年2月

2) 「ひと・まちぐるみの若者応援プロジェクト」

①湖ぼプロ

ひきこもり経験のある若者自らが、主体となって地域活動への参加やボランティア活動に取り組む団体を組織化し、仲間と一緒に社会参加を果たしながら、企画や活動だけでなくグループとしての運営等を通して、社会性やコミュニケーション力の向上を図った。また、社会課題や、ひきこもり当事者への当事者による支援など、組織化のねらいやビジョンを確認しながら、次年度の取り組みを協議・検討した。令和4年3月28日には、第1回湖岸清掃を実施し、当事者6名が参加された。

- 【実施内容】
1. 当事者、ボランティアセンター、と月例ミーティングを開催
 2. グループ名の決定 「湖ぼプロ」
 3. 缶バッジ作り(会員証及び参加者の証として製作)
 4. ゴミ拾い活動のための竹ハサミづくりワークショップの開催
 5. 湖岸清掃 (Activities of Biwako Cleaning/ABC作戦)

②まかせて応援団

相談者が自ら通える場所と役割を見つけてマッチングを行った。就労の自信のない若者を対象に、コミュニケーション力を養うため、地域の社会資源の中で受け皿となる事業所や活動の開拓を行った。令和3年度は、福祉作業所や寺院、中間支援組織、NPO法人など、5か所で活動実績があった。活動内容としては、パソコンでのデータ入力、農作業、食品加工、お菓子作りなどであった。

(その他取り組み)

①ファジー会議の開催 (R3 年 12 月)

大津市保健所、県ひきこもり支援センター、子ども発達相談センター、市文化・青少年課、大津市社協においてひきこもり支援を中心とした関係機関とのつながりづくりを実施。

②子若・サポステケース検討会議 (R3 年 6、8、10、R4 年 2 月)

個別ケースで連携することが多い「滋賀県地域若者サポートステーション大津常設サテライト」と、2か月に1回、ケース検討を実施した。

③臨床心理士相談 (11 回。8 月のみ中止)

令和3年度も、月1回の臨床心理士によるケース相談を実施した。11回で、計29ケースの相談・検討を行った。そこでのアドバイスを実際の相談支援に生かすことができた。

④ひきこもり一斉電話相談 (R3 年 2 月、R4 年 2 月)

滋賀県社会福祉協議会主催による「ひきこもり一斉電話相談」に参画した。大津市社会福祉協議会には合計2件の相談があった。(県内全体の相談件数は16件)

1) 相談体制

常勤1名、嘱託1名、臨時2名 *1日当たり3名出勤体制

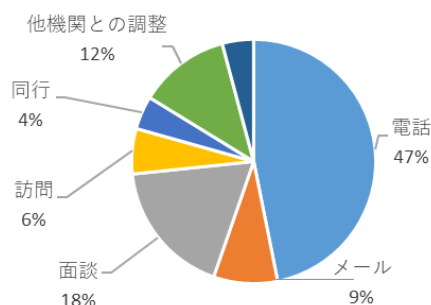
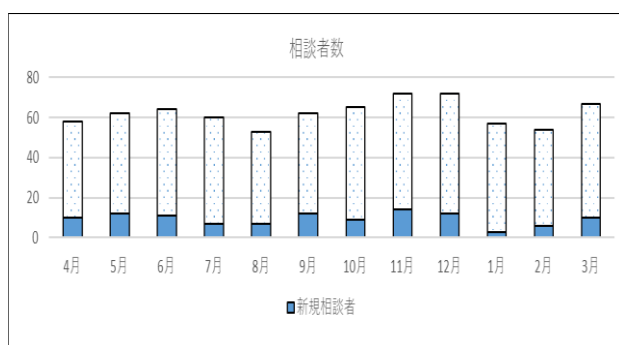
2) 相談状況

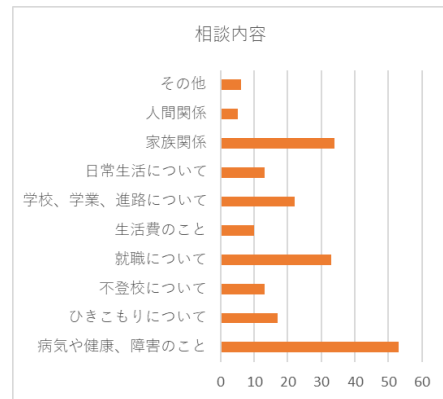
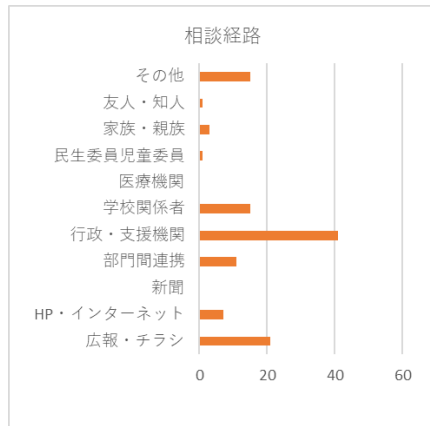
1. 相談件数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
新規相談者	10	12	11	7	7	12	9	14	12	3	6	10	113
継続相談者	48	50	53	53	46	50	56	58	60	54	48	57	633
合 計	58	62	64	60	53	62	65	72	72	57	54	67	746
相談件数	175	152	180	173	158	145	213	145	173	144	166	185	2009

(単位: 件)

コロナ禍で訪問や面談が難しい中、電話やメール、手紙で、つながりが切れないように工夫した。

対応種別





・大津市高齢者等地域見守りネットワーク事業

1) 目的

地域をフィールドに活動する企業・団体と見守りネットワークを構築し、異変等を発見した際に迅速に対応できる体制を確保することにより、高齢者等が住み慣れた地域で安心した生活を送れるよう支援する。

2) 内容

協定締結事業所が日常業務、営業活動の中で「普段と様子が違う」「おかしい」「ちょっと心配」などの異変を感じた場合、代表窓口となる本会に連絡いただくと、市民生委員児童委員協議会連合会など関係機関と連携し、支援を行う。ただし、受付時間は平日午前9時から午後5時までとし、休日や緊急を要する場合は事業者より警察、消防等へ通報した後、本会へ連絡をいただいている。

3) 事業主体

社会福祉法人大津市社会福祉協議会
大津市民生委員児童委員協議会連合会
大津市
市内事業所

4) 見守りネットワーク協定締結事業所

	事業所	締結日
1	読売販売店大津地区販売店 17 店舗	平成 26 年 5 月 23 日
2	明治安田生命保険相互会社 滋賀支店	平成 27 年 2 月 1 日
3	ヤマト運輸株式会社 滋賀主管支店	平成 27 年 3 月 27 日
4	大津市企業局	平成 27 年 4 月 1 日
5	布亀株式会社	平成 27 年 6 月 22 日
6	株式会社プロテクト (サンライズ坂本・移動スーパーとくし丸)	平成 27 年 12 月 22 日
7	京滋ヤクルト販売株式会社	平成 28 年 8 月 1 日
8	京都新聞滋賀県専売会大津ブロック	平成 29 年 2 月 1 日
9	レーク滋賀農業協同組合	平成 29 年 3 月 28 日
10	生活協同組合コープしが	平成 29 年 11 月 16 日
11	ワタミ株式会社	平成 30 年 10 月 1 日
12	大津市コンビニエンスストア協会	平成 30 年 11 月 15 日
13	公益社団法人 大津市シルバー人材センター	平成 30 年 12 月 21 日
14	株式会社 大津衛生社	平成 31 年 3 月 5 日
15	株式会社セブン-イレブン・ジャパン	令和元年 10 月 1 日
16	株式会社 平和堂	令和元年 10 月 1 日
17	株式会社 スズケン 大津支店	令和 3 年 1 月 19 日
18	びわ湖ブルーエナジー株式会社	令和 3 年 4 月 28 日
19	日本管財株式会社	令和 4 年 3 月 24 日

5) 活動状況

①連絡件数：10 件（前年度 8 件）

②活動内容（抜粋）

日 時：令和 3 年 4 月 16 日

事業所：コープしが

内 容：「一週間前に配達した商品がそのまま残っており、心配」

⇒本人宅へ訪問した。応答がなかったため警察へ通報したところ自宅で亡くなっていたことが判明し、コープしがからの通報により、早期に発見することが出来た。

日 時：令和 3 年 12 月 22 日

事業所：読売新聞

内 容：「5 日以上新聞がたまっている。」

⇒本人宅へ訪問したところ安否を確認。その後、本人の親族に連絡をしたところ本人の介護のことでお悩みになっていたため、あんしん長寿相談所を紹介し、支援につなげた。

6) 大津市高齢者等地域見守りネットワーク協定事業所情報交換会

日 時：令和 3 年 11 月 2 日（火）14：00～15：30

会 場：大津市役所（Webex meeting）

参加者：11 事業所、民児協連会長、長寿政策課、市社協

内 容：事業所紹介、事業所見守りの現状共有、意見交換



・いのちのバトン推進事業

1) 事業目的

本事業は、救急医療情報キット「いのちのバトン」の配布を通して、救急時に役立てるとともに、健康面やひとりであることに不安を抱えながら在宅生活を送る方の安心感の確保や、学区社協を中心に小地域において声掛け、訪問活動の促進及び地域のつながりづくりによる地域福祉の充実を図ることを目的としている。

2) 事業実施主体

学区社協が主体となって学区内の実情に応じて、地区民児協・学区自治連合会等の関係機関・団体と協働して取り組んでいる。

3) バトンの配布先

原則 75 歳以上の独居高齢者を対象としているが、その他学区の実情に応じて年齢等の条件設定をしていただき配布した。

4) 配布本数

1,063 本（令和 3 年度）

59,287 本（累計）

5) 救急隊の活用件数

2 件（令和 3 年度）

46 件（累計）

(3) 相談を受け止め、対応する力の向上

① 地域の中での相談力の向上を図ります		
概要	令和3年度の取り組み	5次計画の総括
困りごとを抱えた方の「SOS」を身近な地域でいち早くキャッチすることができるよう、民生委員児童委員を対象にした相談活動セミナーのほか、傾聴ボランティア講座、福祉委員の研修等を通じて、地域の中での相談力の向上を図ります。	民生委員児童委員を対象にした相談活動セミナーは、5回シリーズで開催し64名が修了しました。次年度地域のふれあい相談員として活動予定です。 今年度の傾聴ボランティア養成講座では18名が修了し、傾聴ボランティアとしての活動を希望されている方も複数名あります。 福祉委員研修会もコロナ禍で自粛される学区もありましたが、時期をずらしながら実施する等の工夫がされました。	傾聴ボランティア養成講座については、5年間で119名が受講され、実際に傾聴ボランティアとして活躍されています。ただ、コロナ禍で傾聴ボランティア活動自体が休止していることもあり、活動の場の確保が必要であります。 福祉委員研修については、民生委員との合同研修等、各学区で相談の連携にむけた工夫が見られました。

主な事業

・傾聴ボランティア講座の開催

高齢者に寄り添ってお話を聴く「傾聴ボランティア」を養成するとともに、ボランティア活動に必要な「コミュニケーション力＝聴くこと」の大切さや、「聴き方」の基本を研修や実践をとおして学んでいただいた。

今年度は、感染症拡大予防の観点から、加者を公募せず、令和2年度に受講できなかった方より応募を募り、19名が修了した。

また、修了者のうち3名が傾聴ボランティアダンボの会に入会され、傾聴活動に参加される予定である。

日時及び会場		内 容	講 師
講義①	令和3年11月9日(火) 10:00-12:00	ボランティア活動について	講師：大津市ボランティアセンター
講義②	令和3年11月15日(月) 13:30-15:30	傾聴とは ～実践に役立つ演習～	講師：大津市社会福祉協議会 扇田 宗親
講義③	令和3年1月29日(月) 13:30-15:30	傾聴ボランティアグループ ダンボの会 ～傾聴ロールプレイング に挑戦～	講師：傾聴ボランティアグループ ダンボの会

※場所はすべて明日都浜大津4階大会議室



1日目の様子



2日目の様子



3日目の様子

・民生委員児童委員の相談セミナーの開催支援

大津市民生委員児童委員協議会連合会が主催する相談活動セミナーの開催を支援した。民生委員児童委員活動に必要な“相談を受けとめる力”を高めることを目的に、総合ふれあい相談所の相談員の養成も兼ねて、具体的な事例を検討する内容を盛り込んで開催した。

またコロナ対策として、同内容で午前午後に分け毎回2部制で開催した。

	日 時	内 容	講 師	参加者
1	6月11日	「ひとりで抱え込まないために」	前市民児協連 研修部長 一色誠三 氏	73名
2	7月30日	「子どもたちの実態を知り活動に活かそう」	大津市子ども家庭相談室 麻生いづみ 氏 山本一代 氏	76名
3	10月20日	「法律相談との連携」	土井法律事務所 弁護士 黒田啓介 氏	77名
4	11月22日	「話を聴くということ」	大津市社会福祉協議会 扇田宗親	72名
5	12月20日	「相談・面接の進め方」	大津市社会福祉協議会 山口浩次	72名

(4) コーディネーション力の高い専門職の充実

① コミュニティソーシャルワーカー、ボランティアコーディネーター、生活支援コーディネーター等の充実と質の向上を図ります

概要	令和3年度の取り組み	5次計画の総括
コミュニティソーシャルワーカーやボランティアコーディネーター、生活支援コーディネーター等のコーディネート力が向上するよう、研修等を充実します。	3年に渡り開催した地域支援勉強会の学びを活かし、令和3年度にスタートしたメンター制度やOJTを行いました。地域担当の変更があった際にも地域福祉が円滑に推進していくよう努めました。	3年に渡り大学の研究者を招いた勉強会を開催し、専門職としての質の向上を図ったほか、勉強会での学びを共有し標準化を行いました。

主な事業

・CSW7名の配置。個別支援と地域支援活動を担当

コミュニティソーシャルワーカー（CSW）は、地域において、支援を必要とする人々の生活圏や人間関係等の環境面を重視した援助を行うとともに、地域を基盤とする支援活動を発見・開発して支援を必要とする人につなぎ、家族や地域住民、公的制度との関係を調整する地域福祉の専門職員である。

1) コミュニティソーシャルワーカー相談援助件数 (延べ：件)

相談内容	令和元年度	令和2年度	令和3年度
市社会福祉協議会関連	680	706	5,006
学区社会福祉協議会関連	1,519	1,608	2,049
民児協関連	236	2,785	4,869
心配ごと相談 (高齢・障害・病気・孤立・地域)	4,659	3,349	8,188
生活困窮・学習支援 (子ども・ひとり親・困窮)	983	4,550	5,278
その他	213	3,434	13,039
合計	8,290	16,432	38,429

・職員研修会の実施

令和3年度は多くの新任職員が入力したこともあり、基礎的な研修を中心に実施した。また、幹部向けの研修として県内社協の財務諸表から各社協の実態について数値の面から学ぶ研修を実施した。

1) 幹部研修

日 程	講 師	内 容
10 月 21 日 (木)	大津市社会福祉協議会 顧問会計士	令和 2 年度滋賀県の市町社会福祉協議会の財務分析

2) 職員研修

日 程	講 師	内 容
7 月 27 日 (火) 8 月 3 日 (火)	大津市社会福祉事業団 大津市社協元事務局次長	各種規則・規約についての基礎と ルールを学ぶ
10 月 18 日 (月)	土井弁護士事務所	コンプライアンス研修

(5) 権利擁護支援の充実

① その人らしく地域で生活するための権利擁護のしくみづくりに努めます		
概要	令和 3 年度の取り組み	5 次計画の総括
地域福祉権利擁護事業や成年後見制度等の利用支援を進めるとともに、親族後見人、専門職後見人以外の受け皿を確保するため、法人後見事業を推進し、その人らしく地域で生活するためのしくみが安心して利用できるよう取り組みます。	地域福祉権利擁護事業では、権利侵害から護ることを目的に今年度新たに 27 名の契約を締結し、援助を行いました。法人後見事業については、2 件の支援困難案件を受任しました。また、おひとり様ずっと安心事業については、3 名のモデル対象者と契約を締結し、安否確認のほか、入退院時のサポート、死後事務等を実施しました。	地域福祉権利擁護事業や法人後見事業を通して、市民の権利擁護に努めました。 しかし、地域福祉権利擁護事業は契約件数が常に飽和状態で推移しています。令和 3 年度は年度末の件数で 2 年度よりも 10 件増。法人後見事業は 20 件となっており、地域福祉権利擁護事業から法人後見事業への移行を進める必要があります。

② 権利擁護関係機関などとの連携強化を図ります		
概要	令和 3 年度の取り組み	5 次計画の総括
地域の関係団体や事業者同士、市の関係機関、社会福祉協議会等、地域福祉に関わる関係組織が連携し、介護保険や障害福祉事業等の制度間の連携を図り、総合的に地域福祉を推進していきます。	介護・障害等の支援機関と連携し、コロナ禍における緊急対応や金銭トラブル、住まい、など日常の暮らしにかかる様々な支援調整を行いました。 金銭管理の課題があることから、相談は地域福祉権利擁護事業で対応していますが、契約までのサポートで現状をしのぐことができているケースもあります。その場合、多くは各事業所が連携して業務枠内にとどまらない支援で対応することが多いです。	単一の支援機関で抱え込むことで支援者が疲弊しないように、利用者に対して複数の支援機関でネットワークを構築しました。支援に行き詰った際には、関係機関で会議を実施し、方針を立て直しました。利用者によっては地域の民生委員児童委員にも情報を共有することで当事者理解を広げるように努めました。

主な事業

・法人後見事業の実施

成年後見制度の利用促進がすすむ中、法人の果たすべき役割のひとつとして、平成 28 年度より実施している。令和 3 年度末の時点で受任件数は後見 9 件、保佐 10 件、補助 2 件の計 21 件となっている。権利擁護サポートセンター運営委員会に参画し、市内の弁護士・司法書士・社会福祉士会との研修会で感染予防対策を実施した。

1) 類型別受任及び終了状況 (人)

	後 見		保 佐		補 助		合 計	
	受任	終了	受任	終了	受任	終了	受任	終了
平成 28 年度	0	0	1	0	0	0	1	0
平成 29 年度	8	1	6	0	2	0	16	1
平成 30 年度	1	0	2	0	0	0	3	0
令和元年度	1	1	0	0	0	0	1	1
令和 2 年度	1	1	1	1	0	0	2	2
令和 3 年度	1	0	1	0	0	0	2	0
合 計	12	3	10	0	2	0	25	4

2) 障害類型及び居所別受任状況 令和 4 年 3 月末現在 (人)

	認知症高齢者	知的障害者等	精神障害者等	合計
在宅	1	5	3	9
福祉施設	8	0	0	8
病院	3	0	1	4
合計	12	5	4	21

3) 障害類型別支援状況 (件)

障害類型内訳	支援内容							合計
	契約 行為	代理 行為	同意 行為	ケース 会議	連絡 調整	訪問	支払 手続き	
高齢	11	81	7	0	250	29	260	638
知的	1	62	0	2	157	56	228	506
精神	2	25	2	2	115	17	208	371
合計	14	168	9	4	552	102	696	1515

年度当初より、感染予防対策を講じながらの継続訪問や緊急対応を行った。

ケース会議など関係機関との連携においてオンラインを使った会議が増えた。

病院等の面会もオンラインによる面会になることがあった。

・地域福祉権利擁護事業の実施

判断能力に困難性のある方や財産管理に不安をもっておられる方と契約を交わし、①福祉サービスの利用援助 ②日常の金銭管理サービス ③書類預かりサービスを中心に、日常生活における代理、代行、同行等の様々な支援を行った。こうした日常的なかかわりの中で、生活状況の変化を察知し、医療・福祉・行政などさまざまな関係機関と連携を図っている。

また認知症の進行をはじめ判断能力の低下が進み、法律行為に不安のある利用者は大津市権利擁護サポートセンター・弁護士・司法書士等関係機関と連携し、成年後見制度への移行に向けて支援した。

1) 相談援助件数 (延べ件数) (件)

	認知症高齢者	知的障害者	精神障害者	不明・その他	合 計
令和元年度	4,595	5,614	3,637	460	14,307
令和 2 年度	4,117	6,062	4,969	511	15,639
令和 3 年度	2,252	4,744	4,086	301	11,383

2) 契約締結件数 (件)

	認知症高齢者	知的障害者	精神障害者	不明・その他	合 計
令和元年度	15	7	4	0	26
令和 2 年度	13	7	11	2	33
令和 3 年度	9	11	6	1	27

3) 契約終了件数 (件)

	認知症高齢者	知的障害者	精神障害者	不明・その他	合 計
令和元年度	16	6	4	0	26
令和 2 年度	12	9	6	3	30
令和 3 年度	6	8	5	2	21

※令和３年度終了件数内訳

(件)

	認知症高齢者	知的障害者	精神障害者	不明・その他	合 計
本人の希望	0	7	1	1	9
死亡	1	0	2	1	4
成年後見制度移行	5	0	2	0	7
その他	0	1	0	0	1

４）年度末実利用人数

(件)

	認知症高齢者	知的障害者	精神障害者	不明・その他	合 計	生活保護
令和元年度	34	71	36	12	153	48
令和２年度	35	69	41	11	156	55
令和３年度	38	72	42	10	162	52

５）年代別契約状況

(件)

年代	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	90代	100歳以上	合計
令和元年度	1	25	17	22	18	17	28	19	6	0	153
令和２年度	3	25	15	24	21	18	24	20	6	0	156
令和３年度	2	23	22	24	22	15	22	26	6	0	162

・おひとり様ずっと安心モデル事業

家族機能の低下に伴い、一人暮らし高齢者を取り巻く環境は、著しく変化している。なかでも、住まいの問題や日常の見守り、入退院時の支援や死後の事務など、既存の制度では解決できない困りごとについて支援を行い、最期まで安心して心豊かに暮らせる新たな事業展開にむけ、モデル事業を令和２年度から継続して実施した。令和３年度でモデル事業を終了し、令和４年度からは事業化に向けて協議・検討を進める。

- １）モデル対象：大津市内在住のひとり暮らし高齢者
- ２）対象人数：３名（うち２名死亡）
- ３）実施体制：各種支払い行為・調整（権利擁護支援グループ）、伴走支援・関係機関連携（地域支援グループ）、出納管理（総務グループ）など、部門間連携による実施
- ４）支援内容：①入退院時のサポート
 - ②火葬・葬儀・納骨等に関する手続き
 - ③遺品整理・家財処分に関する手続き
 - ④賃貸物件の解約・退去に関する手続き
 - ⑤行政官庁等の諸届
 - ⑥公共料金、医療費等精算及び解約手続き

・専門性の向上に対する取り組み

相談支援における援助技術はもとより、障害の理解や医療・福祉・社会保障などの様々な施策や社会資源など、幅広い知識が求められる。そこで、権利擁護支援の実践的な専門性を高めるため、積極的に研修に参加した。令和３年度においても、令和２年度に引き続きコロナ禍の影響により、ZOOM研修による参加となった。

【参加者数】

- 滋賀県社会福祉士会基礎研修Ⅰ １名
- 滋賀県社会福祉士会基礎研修Ⅱ １名
- 滋賀県社会福祉士会基礎研修Ⅲ ３名

(6) 大津市における地域包括ケア体制の構築

① 誰もが参加できる地域包括ケアに向けた地域力の向上を目指します		
概要	令和3年度の取り組み	5次計画の総括
市民や行政、専門職が協力して地域包括ケアに取り組んでいくため、日頃からのつながりを構築し、課題解決へのサポートが得られるよう、地域力の向上を目指します。	コロナ禍において地域活動が制約を受ける中、ふれあいサロンなど集まる機会が激減しましたが、集まらなくてもつながりを絶やさない工夫について、ふれあいサロンの運営者に生活支援コーディネーターが伝えることができました。お便りなどを添え訪問による見守りの取組が自然と広がりました。	平成29年度から保健福祉7圏域に第2層協議体を設置・運営し、各地域の課題把握に努め、日頃からのつながりの大切さを伝え、実状に合った取組を推進しました。

② 地域での助けあい、支えあい活動の把握と連携の充実に努めます		
概要	令和3年度の取り組み	5次計画の総括
市民と専門職同士、また、市民と専門職等のネットワークを強化し、困難を抱えている人に必要な支援を提供できるよう、地域での助けあい、支えあい活動を把握するとともに、生活支援におけるコーディネート機能を充実します。	「ささえ合い活動講座」「移動・外出支援研修会」を開催し、今年度は学社会福祉協議会からの参加を呼びかけ、3団体以上が参加し学区内でのささえ合い活動や移動・外出支援の取組について検討される機会をつくりました。	介護保険サービスなど行政のサービスや制度だけに頼るのではなく、学区・自治会単位など小地域での助けあい、支えあいにより困難を抱える人を支援できる取組について、住民の関心が高まっています。

主な事業

・生活支援体制整備業務

1) 事業の目的

本事業は、高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らし続けることができるよう「生活支援コーディネーター」の配置と「協議体」の設置により、地域での助け合いやささえ合い活動を育み、地域力の向上を目指すことを目的としている。

2) 実施主体

大津市（大津市より受託）

3) 事業の内容

生活支援コーディネーター（※1）の活動と、協議体（※2）などによるつながりづくりから、地域に高齢者の生活を支える仕組み、高齢者の活躍できる場づくりを推進する。

※1「生活支援コーディネーター」

高齢者の日常生活における困りごとを把握・共有しながら、地域の実情に合わせた仕組みづくりを行っている。そのために、地域の社会資源である人と人、人と活動、活動と活動を「発掘・つながり・発信」し、助け合いや支え合いの推進役である。

※2「協議体」

地域のみなさんと高齢者の生活支援に携わる介護事業所、福祉施設、法人、企業、ボランティア団体など多様な主体が、それぞれの知恵や工夫を活かして暮らしやすい地域づくりを進める話し合いの場である。

令和3年度	生活支援コーディネーター	協議体
大津市全域(第1層)	1名(第2層兼務)	1ヶ所
7保健福祉ブロック(第2層)	7名	7ヶ所

① 協議体の運営

大津市が開催する第1層(大津市域)協議体、あんしん長寿相談所が開催する第2層(7保健福祉圏域)協議体に企画段階から参画し協議体の運営に協力した。

ア) 第1層(大津市域)

第1層協議体の運営について						
大津市の第1層協議体は平成27年度から設置されていますが、委員を増やししながら「高齢者等地域見守りネットワーク事業」に締結いただいたり、地域に向け貸スペースをつくってくださったり、第2層協議体へ参画いただくなど連携が進んでいます。						
開催日時	第1回	令和3年12月21日（火）14：00～15：30				
	第2回	令和4年 3月24日（木）14：00～15：30				
開催場所	第1回	明日都浜大津ふれあいプラザ4階（ホール） & オンライン（Zoom）				
	第2回	大津市役所新館7階（第会議室） & オンライン（Zoom）				
参加者		委員	本会の職員	市の職員	あんしん長寿相談所の職員	
	第1回	5名	9名	4名	7名	
	第2回	6名	8名	3名	8名	
委 員 名		所 属	役職等	氏 名	第1回	第2回
		大津市老人クラブ連合会	会長	松田 輝男	会場	会場
		社会福祉法人大津市社会福祉協議会	事務局次長	山口 浩次	会場	会場
		生活協同組合コープしが	西地区運営事務局事務局長	藤澤 克哉	Zoom	欠席
		大津市コンビニエンスストア協会	事務局長	久保 敏彦	Zoom	会場
		京都信用金庫	大津支店 支店長	岡本 望	Zoom	Zoom
		レーク滋賀農業協同組合	JA デイサービスセンター湖都里 管理者	亀本 美和	欠席	欠席
		株式会社平和堂	総務課長	西 政明	欠席	Zoom
		公益社団法人大津市シルバー人材センター	業務福祉課長	中野 正	欠席	会場
	内 容	第1回	司会：大津市社会福祉協議会 地域福祉課長 井ノ口 浩士 1. 開会挨拶/長寿政策課地域包括ケア推進室 室次長 岩村 聡 2. 参加者紹介 3. 第1層協議体連携会議について /長寿政策課地域包括ケア推進室 主査 原田 真弓 4. 高齢者の暮らしについて （1）コロナ禍アンケートからみえる高齢者の暮らし 資料 /長寿政策課地域包括ケア推進室 主任 金森 有紀 （2）あんしん長寿相談所・市社協から ▶ 高齢者の現状とあったらいい資源 5. 高齢者の暮らしを〇〇するために〇〇したい！～自由な発想で～ ＊コロナ禍アンケート、現状-課題をうけてわたしたちが実現できそうな、 高齢者の暮らしに向けた取組みについて話しあう。			

		(1) ワーク *参加者+事務局もグループで「シート」を記入する。   (2) 発表   (3) まとめ *第1層協議体での取り組みを1つに絞る（多数決） わたしたちは、高齢者の暮らしを安心・安全なものにするために、 日頃の変化に早期に気づくようにしたい！
	コメント	「わたしたちは、高齢者の暮らしを安心・安全なものにするために、日頃の変化に早期に気づくようにしたい！」という内容は、久保委員の発言のとおり、どのグループの協議内容も盛り込むことができる包括的な取組である。そのため、次年度に向け具体的な取組ができるよう、第2回協議体連携会議までに準備を進めたい。
	第2回	司会：第1層生活支援コーディネーター 森野 道代 1. 開会挨拶 /長寿政策課地域包括ケア推進室 室長 西本 美和 2. 参加者紹介 3. 第1層協議体連携会議について /長寿政策課地域包括ケア推進室 主任 金森 有紀 4. 第1回の振り返り 5. わたしたちの思いの実現に向けて  [まとめ] 案① 見守りのスキームを活用し、相談先も記載し周知する。 案② 決まった日に見守りを強化する取り組み。 案③ ①②あわせて、月に1回、2ヶ月に1回などで見守りを強化する。 ↓ 情報誌で発信したり、店舗にチラシを貼らせていただいたり… 見守りの意識化を進める   

イ) 第2層 (7保健福祉圏域)

＜志賀ブロック＞		
おおつ ゴートプラン 2021	【基本目標】 みんなが主役のまちづくり 【生活支援体制整備の推進】 第2層協議体を「地域で高齢者と共に暮らすために」をテーマに3回／年開催する。 地域で活動する各種団体の活動（民間事業者含）の情報や地域課題について、地域関係者と共有します。 【活動指標】 移動や買い物の支援方法が具体化されたか	
	第1回	令和3年10月7日（木） 移動支援について
	第2回	令和3年10月20日（水） 移動支援について
	第3回	令和3年11月17日（水） 移動支援について
	イベント	令和4年1月17日（月） わにまち協によるコミュニティバス勉強会
メンバー	学区社協会長、事務局長、福祉施設、民児協、自治連	
成 果	各団体長と移動支援の具体化が困難であることの意識を統一することができた。それに伴い協議体運営方針の変更、メンバー再編を検討した。	
内 容	昨年度に引き続き、協議体の検討課題を「移動」とし、地域の現状共有を行った。また、R3年度にコミュニティバスの運行をスタートしたわにまち協を講師に移動支援の勉強会を行ったが、各種団体の賛同が得られず、移動買い物の支援方法は具体化できなかった。例年の志賀健康いきいき祭は日程調整まで行うものの、コロナ禍で中止。初のふれあいサロン交流会もコロナ禍で中止せざるを得なかった。	
次年度の 方 向 性	移動支援の検討は終結し、地域課題を再考証した上で方針を検討する。	
 		

＜北部ブロック＞			
おおつ ゴートプラン 2021	【基本目標】 高齢者が役割を持ち、地域とのつながりを保ちながら自分らしくいきいきと暮らすことができる地域。 【生活支援体制整備事業の推進】 第2層協議体のテーマを「地域で安心して暮らすためにみんなで一緒に見守り力を高めあおう！」とした会議を開催します。 市民や地域の各種団体と地域課題を共有し、住民主体で見守りができるよう進めていきます。 【活動指標】 第2層協議体の開催：3回／年以上		
	仰木学区協議体		
	第1回	令和3年7月30日（金）	第5回 令和4年1月27日（木）
	第2回	令和3年8月27日（金）	第6回 令和4年2月25日（金）
	第3回	令和3年10月22日（金）	第7回 令和4年3月25日（金）
	第4回	令和3年12月23日（木）	
メンバー	コアメンバー：自治連合会会長、民児協会長、学区社協会長・事務局長 参加者：自治連合会副会長、平尾自治会長、平尾担当民生委員、健推代表		
成 果	仰木学区の見守りの仕組づくりの第1歩として、まずはモデル地区に平尾自治会を選び、お互いに気かけあえる関係づくりとして住民主体で「声かけ運動」が始まった。		
内 容	令和4年度は仰木学区で協議体を開催しました。まずは、メンバーから仰木について話してもらい「近所づきあいや気軽に話せる環境が残っている」ところが良い所。この強みをいかし、高齢化率40%に近い地域で、住民に向けてどのような取組みができるか検討する		

	こととなった。当初は自治会単位で「見守り活動」の取組みを始めることを目指していたが、話し合いを重ね、モデル地区を平尾自治会に設定し、見守り活動を取組めるような地域の地盤づくりが重要ではないかと声があがり「声かけ運動」から始めることになった。普段の生活の中で、ゴミ捨ての時、畑で作業をしている時、散歩をしている時…誰かと出会ったら“ひと声”かけ気かけあう関係づくりを意識的に行います。
次年度の方 向 性	モデル地区である平尾自治会の声かけ運動を評価することで、ひきこもりがちな高齢者が外出できる場所や機会について検討することを想定している。声かけ運動から見守り活動へとつなげる。 平尾自治会から他の3自治会の見守りへの機運を高める方法を検討し、広げていく。
  	

＜比叡ブロック＞①			
おおつ ゴールドプラン 2021	【基本目標】 共に助け合いながら安心して暮らし続けられる地域～いきいきと自分らしく～ 【生活支援体制整備事業の推進】 第2層協議体については、福祉に関わる団体と地域団体との協働テーマに実施します。 福祉的なサービスを提供する団体（民間事業所やボランティアを含）と地域住民とのつながりを構築し、協働にむけた活動を検討します。 【活動指標】 第2層協議体の開催：2回／年		
	唐崎みまもりねっと会議		
第1回	令和3年5月25日（火）	第4回	令和3年10月15日（金）
第2回	令和3年7月14日（水）	第5回	令和4年1月12日（水）
第3回	令和3年9月22日（水）	第6回	令和4年3月1日（火）
イベント	令和3年2月20日（土）	唐崎学区社協「福祉のまちづくり講座」で登壇	
メンバー	唐崎学区社協会長・事務局長、民生委員児童委員会長、中学校の先生・生徒、福祉委員		
成 果	① 学区内の見守りを行う団体が立ち上がった。 ② 協力店舗を表すステッカーを地元の中学生の協力を得て作成できた。		
内 容	学区内の銀行から「銀行に来られるお客様について心配に思う場面が見られる。現状のまま家に帰られるが、本当にこれでいいのか？」と認知症を懸念する高齢者の生活を心配する声が聞かれた。 学区内の民生委員と、本事業の協力企業の連携で行う見守り活動について話を進めている。協力店舗に貼って頂くステッカーを作成し、福祉のまちづくり講座を通して民生委員に事業の説明を行った。		
次年度の方 向 性	参加企業に対してこの事業の説明、グループワークを通して参加者の意見を聞く・見守り活動について理解を深める取り組みを行う。		
			
＜比叡ブロック＞②			
第1回	令和3年3月22日（火）	第1回おむすびネット比叡	
メンバー	福祉施設（高齢者、障がいなど）		
成 果	地域に対して何が出来るかという点を再度検討してもらう機会になった。コロナ禍の地域活動には福祉施設としてはある程度の対策を講じて取り組む必要がある。		
内 容	福祉施設が地域に対して出来ることを参加施設		

	の方々と話し合った。 「わくわくクラブ心彩」 ・介護保険で対応できない支援を行う有償ボランティア ※受けられる困りごとの範囲について ※支援者の募集について ※対応学区について	
次年度の方 向 性	支え合い活動を検討している事業所がある。この活動の内容の共有、協力者を募る等の話し合いを重ねていく	

＜中部ブロック＞			
おおつ ゴールドプラン 2021	【基本目標】 高齢になっても安心して一人暮らしが続けられる地域		
	【生活支援体制整備事業の推進】 第2層協議体のテーマを「地域の和を深める」とし地域の関係者（商店街、スーパー、薬局、銀行、交番等）を交えた会議を年3回開催し、地域でのつながりや見守り、助け合いを強化します。		
	【活動指標】 地域関係者の会議に毎回参加		
	第1回	令和3年7月8日（木）	第1回 中部ブロック協議体連携会議
	第2回	令和3年12月16日（木）	第1回 中部ブロック協議体連携会議コア会議
	第3回	令和4年3月9日（水）	第2回 中部ブロック協議体連携会議
メンバー	学区社協会長・事務局長、地区民児協会長・副会長、学区自治連合会会長、特別養護老人ホーム施設長、薬局代表・薬剤師、警察署、信用金庫、商店街振興組合、スーパー、住職、一般企業		
成 果	○コア会議の設立 事務局と協議体の方向性を検討していただくコアメンバーとして8名が手をあげてくださった。コア会議ではコロナ禍でもできるアイデアを出し合った。また、全体の第2層協議体連携会議では、コアメンバーから積極的に発言・提案をいただき、次年度に向けた方向性を具体的に決めることができた。		
内 容	生活圏域が重なる長等・逢坂・中央の3学区が対象エリア。 ①つながりをつくる②見守りの目を増やす③小さな単位で支え合う仕組みをつくる という3つの目標を掲げている。昨年度から協力してくださるメンバーが20名を超えるほど拡大したことから、今年度は協議体の中心人物となるコアメンバーへの協力を呼びかけ、コア会議の体制を採用している。		
次年度の 方向性	コロナ禍でも人と人がつながるきっかけとして、「ラジオ体操」をナカマチ商店街で定着させることに取り組む。密とならずに屋外で実施でき、また誰もが知っており気軽に参加しやすい利点がある。次年度はまずはラジオ体操から取り組み、今後＋αとして健康相談会やマルシェ等、発展できる取り組みを検討する。		



協議体体制図

第2層協議体

学区社協 自治連合会 民生委員児童委員 福祉施設
(長等・逢坂・中央)【機能】定期的な情報の共有、連携の強化

薬局・商店 企業
お寺 交番
あんしん長寿相談所
市社協

コア会議
【機能】第2層協議体で取り組むテーマ設定や進め方について検討する。

活動体

長等

活動体

逢坂

活動体

中央

連携

連携

<中南部ブロック>	
おおつ ゴールドプラン 2021	【基本目標】 高齢者が自分らしく安心して暮らし続けられる地域づくりを推進する 【生活支援体制整備事業の推進】 第2層協議体を「高齢者がすみやすい街づくり」を目的に対象学区において3回／年開催し、地域で活動する各種団体の活動（民間事業者含）の情報共有と地域課題について検討します。

	第2層協議体において、買い物や移動等高齢者が日常生活で直面している課題と取組について検討します。 【活動指標】 地域課題を抽出し、必要な取組について検討できる。	
＜中南部ブロック①＞ 高齢者のお悩み共有会(晴嵐・富士見版)		
第1回	令和3年 5月 26日(水)	第12回 高齢者のお悩み共有会(晴嵐・富士見版)
第2回	令和3年 7月 7日(水)	第13回 高齢者のお悩み共有会(晴嵐・富士見版)
第3回	令和3年 12月 15日(水)	第14回 高齢者のお悩み共有会(晴嵐・富士見版)
メンバー	晴嵐学区、富士見学区の地域活動従事者（自治会長、民生委員、学区社協など）	
成 果	お買い物支援を行っている事業所を一覧にしたリーフレットの作成	
内 容	※リーフレットの作成について 前年度に、地域住民の方対象にアンケートを実施した。その結果、地域の困りごととして日常のお買い物が大変だということがわかる。この結果を受けて、地域でお買い物支援を行っている業者（コープしが・平和堂）にゲストスピーカーとして、協議体に参加していただき、取り組みの紹介をしていただいた。 取り組みの紹介の後、協議体メンバーからは「こんな便利なものがあるのに知らなかった、地域住民の方にも、知ってもらいたい」という声があがり、地域でお買い物支援を行っている業者を一覧にしたリーフレット作成することとなる。 リーフレットの作成については、地域の方の意見を聞きながら作成しており、リーフレットに掲載する店舗に関しては、協議体のメンバーとともに店舗を訪問し、掲載の許可と取り組みの聞き取りを行った。	
次年度の方 向 性	次年度についてはリーフレットの完成と配布方法を中心に協議体メンバーと協議していく。	
  		
＜中南部ブロック②＞ 高齢者のお悩み共有会(膳所・平野版)		
第1回	令和3年 6月 3日(木)	第1回 高齢者のお悩み共有会(膳所・平野版)
第2回	令和3年 10月 11日(月)	第2回 高齢者のお悩み共有会(膳所・平野版)
メンバー	膳所学区自治連・膳所学区社協・平野学区自治連・平野学区社協・平野地区民生委員、介護事業所	
成 果	地域課題の解決や深掘りを行うために、膳所学区・平野学区の協議体を分けることが出来た。	
内 容	事業所×地域の取り組みについて 福祉事業所と地域住民で地域の課題を解決するために事業所としてできること、住民としてできることを話し合い、地域の不安の声、自慢の声を整理し、そのなかで出来ることを考えた。しかし、現在参加している協議体メンバーでは地域全体の話はできるが、各自治会などのより小さい範囲の事情が分からないため、地域課題の深堀りや、解決は難しいという声があがった。その結果、膳所学区・平野学区で協議体を分割し、高齢者お悩み共有会（膳所・平野版）としては終結した。	
次年度の方 向 性	膳所学区・平野学区で個別に地域課題の解決に努める。	
  		

＜中南部ブロック③＞ 高齢者のお悩み共有会(膳所版)		
第1回	令和3年10月28日(木)	第1回 高齢者のお悩み共有会(膳所版)
第2回	令和3年11月30日(火)	第2回 高齢者のお悩み共有会(膳所版)
メンバー	膳所学区自治連・膳所学区社協・平野学区自治連・平野学区社協・平野地区民生委員、介護事業所	
成 果	いのちのバトン 緊急医療情報用紙 膳所学区版の作成	
内 容	膳所学区において、いのちのバトンを見守りのツールとして救急の時だけでなく支援者間での情報の共有をいのちのバトンを見ることで、その方がどのようなサービスを受けているかが一目で把握できるものを作成し、配布する。 現在は、包括・支所長・警察・学区社協で緊急医療情報用紙の内容といのちのバトンの配布方法について検討している。	
次年度の方 向 性	緊急医療情報用紙の内容については、民生委員の名前や、ケアマネ等の名前の記入欄を追加するなど内容に関しては固まりつつあるが、配布方法に関しては全戸配布を目標としているが、自治会に加入していない方への配布などの課題があるため、次年度に向けては、配布方法の検討について、自治連合会との連携も視野に入れ取り組んでいく。	
 		
＜中南部ブロック④＞ 高齢者のお悩み共有会(平野版)		
第1回	令和3年12月22日(水)	平野学区自治連合会 会長との打ち合わせ
メンバー	平野学区自治連	
成 果	平野学区自治連合会に地域の課題を抽出するため、各自治会への聞き取りへの協力の約束を得た	
内 容	地域の課題を深堀していくにあたって、自治会ごとに地域住民や自治会の役員の方に話を聞かないと難しいため、高齢化が進んでいる100世帯以上ある自治会に絞って調査して行く必要がある。 聞き取りの内容としては、自治会での見守り活動やふれあいサロンの実施状況などを検討している。	
次年度の方 向 性	地域課題の抽出のために、各自治会への見守り活動やふれあいサロンの実施状況聞き取りを行っていく。聞き取りを行うにあたって自治会の定例会等に参加し、聞き取りの依頼を検討している。	

＜南部ブロック＞		
おおつ ゴールドプラン 2021	【基本目標】 安心して暮らし続けられる地域づくりの推進 【生活支援体制整備事業の推進】 地域課題の把握・共有のため、地域の組織・各種団体を交えて、第2層協議体を開催します。 【活動指標】 第2層協議体の開催：3回／年	
＜南部ブロック①＞ 田上学区地域づくり連絡会		
第1回	令和3年 6月 2日(水)	第1回 田上学区地域づくり連絡会
第2回	令和3年 11月 17日(水)	第2回 田上学区地域づくり連絡会
第3回	令和4年 3月 23日(水)	第3回 田上学区地域づくり連絡会
メンバー	学区社協(会長・事務局長)、民協(会長・副会長・民生委員)、居宅介護支援事業所、ふれあいサロン代表者	
成 果	① 相談取次所の設置 R4年度から介護事業所や福祉委員に「相談取次所」窓口として依頼する。 ② 介護予防体操「田上みるみる元気体操」の創作と取り組み	
内 容	① 相談取次所について 南あんしん長寿相談所から、田上学区は介護に関する問題が深刻化してから相談されるケ	

	ースが多いと情報提供がある。住民さんからは「田上的人是我慢強い。」「自分らで何とかしようと頑張る。」そういう気質があるという声があがった。そのため、困った時に SOS を出しやすくできるよう、身近な場所に相談取次ぎができる窓口をつくることになった。地域の介護事業所をはじめ医療・福祉関係の事業所や商店などに協力を依頼することになった。また、福祉委員の役割の 1 つにこの相談取次窓口をお願いすることとした。 ② 介護予防体操について 田上では公民館講座として「いきいき百歳体操」に取り組まれているが、もっと身近な地域で介護予防体操に取組めないか検討が始まった。親しみやすいように、体操の愛称を「田上みるみる元気体操」とした。さらに、せっかくならオリジナルの体操をつくり広めよう！と来年度は地域の介護事業所に協力を仰ぎ、介護予防体操をつくり楽しく介護予防に取り組むこととなった。
次年度の方 向 性	① 「相談取次所」窓口として福祉委員研修会で福祉委員に依頼する。介護事業所などに窓口を依頼し「相談取次所」を広げる。 ② 「田上みるみる元気体操」を介護事業所や医療機関の協力を得て住民さんと共に創作し、小地域で介護予防体操に取り組む体制をつくる。



<南部ブロック②> 石山学区懇談会

月 1 回	定例会議	石山学区懇談会
第 1 回	令和 3 年 8 月 4 日(水)	第 1 回石山学区ボランティア交流会
第 2 回	令和 3 年 10 月 26 日(火)	第 2 回石山学区ボランティア交流会
第 3 回	令和 3 年 11 月 29 日(月)	第 3 回石山学区ボランティア交流会
第 4 回	令和 3 年 12 月 15 日(水)	第 4 回石山学区ボランティア交流会
イベント	令和 4 年 3 月 20 日(日)	小地域福祉講座プレ「石山学区サロン」
メンバー	学区社協(会長・事務局長)、民協(会長)、ボランティア 2 名	
成 果	① モデル事業「UR 石山団地ゴミだしお助けサポーター」R3.5 月開始 ② 「石山学区サロン」プレ開催 (R3.3.20) R4 年度開始予定	

内 容	石山学区では令和 3 年度から「お助けサポーター」モデル事業として、石山 UR 団地で高齢者の生活支援として、ゴミ捨て支援を始めている。ゴミ捨ての支援をしているボランティアさんと、ボランティアを希望された方の 2 名を石山学区懇談会へ参加していただき 8 月「ボランティア交流会」の機会を持った。交流会では石山学区の誰もが参加できる「石山学区サロン」について話題にあがった。石山市民センターでの開催を軸とし、自治会単位など小地域に向けた出張サロンも検討している。石山学区社会福祉協議会主催の小地域地域福祉講座において令和 4 年 3 月 20 日プレ「石山学区サロン」を開催した。プレ開催で「石山学区サロン」のコンセプトを説明し、協力者を募り令和 4 年度から定期的に開催することになった。 また、参加者からは「お助けサポーター」に関心をもち、自治会単位で「ささえ合い活動」をしたいという声もあがっている。
次年度の方 向 性	令和 4 年度は「石山学区サロン」と「お助けサポーター」を学区全体へ広げる取組みを進める。



＜東部ブロック＞		
おおつ ゴールドプラン 2021	【基本目標】 医療・福祉・地域が支えあい安心して生活できるまち	
	【生活支援体制整備事業の推進】 ①第2層協議体「住みまちプロジェクト」のテーマを「ボランティア(ボランティアに興味はあるが、始めるきっかけがない)」とし、アンケート結果を元に出会いのボランティアカフェを開催します。	
	【活動指標】 ボランティアカフェの参加者アンケートにより、ボランティア活動の理解が深まったと回答した人の割合：70%	
	②居場所(住んでいる地域に気軽に集まれる場所がほしい)の維持及び居場所の活動グループを増やすため、ボランティアカフェ参加者を居場所の活動につなげます。	
	【活動指標】 1か所以上	
第1回	令和3年 6月24日(木)	令和3年度 第1回 住みまちプロジェクト
第2回	令和3年 8月19日(木)	令和3年度 第2回 住みまちプロジェクト
イベント	令和3年10月20日(水)	出会いのボランティアカフェ リハーサル
イベント	令和3年11月23日(火)	出会いのボランティアカフェ
第3回	令和4年 3月 9日(水)	令和3年度 第3回 住みまちプロジェクト
メンバー	地域のボランティア実践者、民生委員児童委員、瀬田商工会、東老人福祉センター	
成 果	・協議体を東部ブロック出会いのボランティアカフェの企画会議として実施し、11月にイベントとして開催した。開催に向けた準備や打合せによって、東部ブロックのボランティア活動をより深く知ることができ、社会資源の把握につながった。 ・これによって、個人をボランティアにつなぐ調整を行うことができた。 ・ボランティア団体同士の交流のきっかけとなった。 ・ボランティアカフェでは、「地域に住みながらボランティア活動をまったく知らなかったの参考になった」「ボランティア活動が非常にバラエティに富んでいて驚いた」「地元で長年、地道に活動されている方の頑張りが分かり参考になった」等、参考になった、ボランティア活動に対する理解が深まったとの声が多数挙がった。	
内 容	・令和2年度に完成したリーフレットの配布。 ・出会いのボランティアカフェの企画および開催。	
次年度の 方 向 性	第3回協議体にて、令和4年度に取り組んでみたいこととお聞きしたところ、 ①ボランティア団体がそれぞれ活動をPRできる日(ボランティアフェスティバル)の開催 ②生きづらさを抱えた子どもを対象とした生きる力を育む取組 が挙げられた。令和4年度はこの声に即して活動を進めていく。	
    出会いのボランティアカフェの様子。コロナ禍のためオンラインを活用して開催した。 (右は展示コーナー)		

② 地域に期待される新たな担い手の養成

ア) 地域福祉の担い手を養成する研修会の開催

高齢者の暮らしを支える課題について、市内の各ブロックで移動・外出支援があがる。また、学区単位、自治会単位など小地域におけるささえ合いの活動に関心が高くなっている。また、地域で高齢者を支えるボランティア活動がしたいと希望される方も少なくない。このように、地域から期待される担い手の養成を目的に研修会を開催した。

ささえ合い活動講座の開催			
新型コロナウイルス感染拡大により、地域福祉活動やボランティア活動は大きな影響をうけました。しかし、地域におけるささえ合い活動を通し、見守りやひとり暮らし高齢者の孤立を防止するなど、ご近所のささえ合いの大切さが見直される機会となりました。そこで、改めて地域におけるささえ合い活動の実践について学び、学区社協をはじめ小地域でささえ合い活動が広がることを目的に「ささえ合い活動講座」を開催しました。			
開催日時	令和4年1月18日（火）10:00～12:15		
開催場所	明日都浜大津ふれあいプラザ5階（大会議室）		
参 加 者	本会の参加者数	5名	参加者数 25名
内 容	1. はじめに ▶ 講座の目的について説明 ▶ オリエンテーション 2. 活動紹介 📺 日吉台ささえあいの会 ／日吉台学区社会福祉協議会 岡井 信太郎 副会長 竹村 幸子 事務局長 北村 稔 事務局次長 3. 講 演 📝 ご近所力が地域力～『大きなお世話で大成功！』 ／夢こらぼ 松尾やよい 主宰		
	  		

イ) 移動・外出支援について考える研修会の開催

大津市の交通に関する現状として運転手不足により、公共交通（特に路線バス）の減便や廃便が余儀なくされた。このような中、地域の支え合いによりボランティアが高齢者の生活における移動・外出の支援にあたっている。そこで、令和2年度は高齢者の移動支援に係る実践者を対象に移動支援交流会を開催し、互いの経験談に学び合った。

令和3年度は高齢者の移動・外出支援の取り組みが学区社協をはじめとする地域団体が主体となり、大津市内にひろがることを目的に「移動・外出支援について考える研修会」を年2回開催した。

第1回				
開催日時	令和3年8月3日（火）10：00～12：00			
開催場所	明日都浜大津ふれあいプラザ5階（大会議室）			
参 加 者	本会の参加者数	7名	大津市職員の参加者数	2名
	参加人数	28名（会場19名・オンライン9名）		
内 容	はじめに			
	▶ 令和2年度の経過と今年度の研修会の目的について説明 ▶ オリエンテーション			
内 容	講 演①🖋️「大津市における地域交通の現状とこれから」 ／大津市建設部地域交通政策課 課長補佐 田中 仁史 主査 長谷川 祐介			
	1. 大津市における地域交通の現状 2. 大津市における地域交通のこれから 3. 大津市における交通施策事例紹介			
内 容	講 演②🖋️「葛川コミュニティ・カーシェアリング」 ／葛川まちづくり協議会 会長 佐々江 勝氏			
	▶ 葛川カーシェアリングの特長 ▶ コミュニティ・カーシェアリングにおすすめの地域 ▶ 運営のための取り決めについて ▶ 利用者・運転ボランティアの募集について ▶ 車両について			





第2回			
開催日時	令和3年10月4日（月）10：00～12：15		
開催場所	明日都浜大津ふれあいプラザ5階（大会議室）		
参 加 者	本会の参加者数	7名	
	参加人数	18名（会場16名・オンライン2名）	
内 容	1. はじめに ▶ 第1回の研修会概要と目的について説明 ▶ オリエンテーション		
	2. 事例報告■ グリーンスローモビリティ（GSM）～まちづくりと移動・外出支援～ 		

③ 生活支援体制整備関係者の連携・協働の仕組みづくり

ア) 生活支援体制整備関係者勉強会

地域福祉を専門分野とする佛教大学キャリアサポーターセンター講師 金田喜弘氏を講師にお招きし、生活支援体制整備関係者の連携・協働をテーマとし、本事業の計画的推進について勉強会を開催しました。

第1回				
日 時	令和3年7月2日(金)14:00~:16:00			
場 所	中央市民センター4階(大会議室)			
参加者	本会の参加者数	9名	市職員の参加者数	3名
内 容	1. はじめに/第1層生活支援コーディネーター 森野 道代 - 趣旨説明 - 自己紹介(所属・氏名) 2. 生活支援体制整備における計画的推進 (1) 講 義① 生活支援体制整備を進める際のキーワードを考える * ①~④ 各グループで個人ワーク→グループワーク (2) 地域福祉(実践)を評価する際の視点			



					
	課題の優先順位				
	スケジュール(期間)				
	評価方法	大ゴールに向けた評価			
		手段の評価			
		協議体の成長段階の評価			
	現状分析	地域アセスメント			
		HOW アンケート・インタビュー			
		地域の困りごと			
		地域の課題			
	役割分担				
	目標	方向性を合わせる「わたしたちは～」(共通の目標)			
		目標レベル、具体性			
		大ゴール(目標)＝「オーガナイズングセンテンス」			
メンバー・チーム		話し合いのメンバー、実践のメンバー			
他のモデル、実践例					
場所					
お金		助成金、個人の会費、寄付、行政			
計画策定のための社会資源		ボランティア、地域住民、企業・商店、各種団体、当事者団体、公共交流、制度、マンパワー、ヒト、モノ、カネ			
手段		例)見守り会議・寄り添い帖・サロン立ち上げ・ボラカフェ…			
第2回					
日 時		令和3年7月2日(金)14:00～:16:00			
場 所		中央市民センター4階(大会議室)			
参加者		本会の参加者数	9名	市職員の参加者数	8名
内 容	1. はじめに/第1層生活支援コーディネーター 森野 道代 資料① 資料② ・趣旨説明 ・第1回の振り返り 2. 計画シートの説明/中あんしん長寿相談所 関守 英幹 資料③ 3. ワーク (1) グループで計画シートを深める ※ 感想、ポイント、記入が難しそうな点など (2) 共有タイム				
	金田先生コメント ・ 関係性 関係性により、シートをいつ、どのように共有するか ・ 見える化 専門職同士、地域住民と協働には見える化は有効 ・ みんなで素案を作成 ・ カナカナ 誰もがわかるような言葉に変換することが大切 ・ 画面で一緒に作成 確認しながら項目を記入することは有効 ・ 一緒につくる難しさ ・ シートの加工が必要 ・ みんなで宣言(共有) 				

	▶ 評価基準 何を評価するか。根拠という言葉は難しいが、何をどう評価したかが大切。 ▶ ☆4つ 「普通」という評価を取ってなくすのはあり。☆の数より評価の根拠が大切。
	4. ミニ講義/佛教大学 専門職キャリアサポートセンター 講師 金田 喜弘 先生 テーマ：「生活支援体制整備における計画的推進 ～計画シートを用いた地域福祉の実践を目指して～」 (1) 地域福祉(実践)を評価する際の視点 (2) 評価のポイント (3) インプット・アウトプット・アウトカムの関係 (4) 地域支援における評価はどこにある？ (5) 計画シートを改めて見てみると (6) 計画的推進に向けて

イ) 生活支援体制整備関係者会議

本会の生活支援コーディネーターとあんしん長寿相談所の事業担当者が定期的に情報共有を行った。

・市域会議 (5 回/年)

本会の生活支援コーディネーターと長寿政策課地域包括ケア推進室、あんしん長寿相談所の事業担当者が連携・協働に向け、定期的に情報共有や勉強会を行った。

・エリア会議 (1 回/月)

本会の第 2 層生活支援コーディネーターと各あんしん長寿相談所の事業担当者を中心に地域課題の共有や、協議体の設置・運営について検討した。

・コミュニティソーシャルワーカー会議 (1 回/月)

本会の第 1 層生活支援コーディネーターと第 2 層生活支援コーディネーターが地域課題や事業の進捗状況を共有した。

④ 生活支援体制整備関係者の質の向上

大津市の生活支援体制整備推進のため、質の向上に向け、あんしん長寿相談所の職員・本会の生活支援コーディネーターが研修へ参加しています。

ア) 研修会などへの参加

生活支援コーディネーター基礎研修への参加				
滋賀県・滋賀県社会福祉協議会が生活支援コーディネーター業務の基礎的な知識やスキル等を習得するとともに、市町における生活支援基盤体制整備事業の共通基盤の整備を図ることを目的とし、事業担当経験 1 年～2 年目を対象に開催する「令和 3 年度生活支援コーディネーター基礎研修」に参加しました。				
日 時	令和 3 年 7 月 29 日 (金) 10:00～16:00			
場 所	G ネットしが 男女共同参画センター (近江八幡市鷹飼町 80-4)			
参加者	本会の参加者数	4 名	市職員の参加者数	7 名
	全 体	48 名		
内 容	〔事前学習〕動画配信、資料による 30 分の事前学習を受講した。 「生活支援体制整備事業について」 ／滋賀県医療福祉部医療福祉推進課 主任主事 松田 浩明 氏			
	1. 講 義 「地域福祉の推進における生活支援コーディネーターの役割」 ／武庫川女子大学 文学部 松端 克文教授			
	2. 休 憩			
	3. 導 入			
	4. 事例報告「彦根市における生活支援体制整備事業の進め方と役割について」 ／彦根市 医療福祉推進課 関谷 幸子氏 ／彦根市社会福祉協議会 地域支援課 第 1 層生活支援コーディネーター 森 恵生氏			

	第2層生活支援コーディネーター 谷澤 健一氏			
	5. グループトーク			
	6. 質問への回答			
	7. 個人ワーク・共有			
	8. 1日のまとめ			
	9. 閉 会			

第1回 生活支援コーディネーター学習・情報交換会への参加				
開催日	令和3年12月15日（水）10：00～11：30			
方 法	オンライン（Zoom）			
参 加 者	本会の参加者数	1 名	市職員の参加者数	1 名
内 容	1. 開会・趣旨説明 2. 生活支援体制整備事業の取組状況について ～令和3年度滋賀県生活支援体制整備事業状況調査結果から～ 3. 1層圏域の生活支援体制整備事業の推進について 話題提供：大津市第1層生活支援コーディネーター 森野 道代 4. 情報交換 5. 全体共有 6. まとめ			

第2回 生活支援コーディネーター学習・情報交換会への参加				
開催日	令和4年1月24日（月）10：30～15：30			
方 法	ボランティア交流コーナー、ミーティングルーム（Zoom）			
参 加 者	本会の参加者数	4 名	市職員の参加者数	6 名
講 師	全国コミュニティライフサポートセンター 理事長 池田 昌弘氏			
内 容	1. 開会・趣旨説明 2. 講義「生活支援コーディネーターとしての動き方と協議体について」 3. 休憩 4. 実践報告			

第3回 生活支援コーディネーター学習・情報交換会への参加				
開催日	令和4年2月18日（金）13：00～16：30			
方 法	ボランティア交流コーナー、ミーティングルーム（Zoom）			
参 加 者	本会の参加者数	4 名	市職員の参加者数	1 名
内 容	1. 開会・趣旨説明 2. 講義「地域における移動と外出を考える～買い物手段確保の現状と取組事例～」 /NPO法人全国移動サービスネットワーク 関西STS連絡会 日常生活支援ネットワーク 柿久保 浩次氏 3. 事例紹介「岡山県における外出手段の確保の手法について」 /移動ネットおかやま 代表 横山 和廣氏 4. 実践報告「移動支援活動の立ち上げと生活支援コーディネーターの役割」 ～日野町東桜谷移動支援事業「おたすけカゴヤ」の取組みから～ /東桜谷おしゃべり会 代表 外山 章氏 移動支援分科かい 会長 麻原 喜代次氏 日野町社協 生活支援コーディネーター 橋元 成子氏			

イ) 滋賀県生活支援体制整備推進委員会

本会の第1層生活支援コーディネーターが滋賀県生活支援体制整備推進委員として委員会に参画し滋賀県の生活支援体制整備推進を進めている。

滋賀県生活支援体制整備推進委員会		
開催日	第1回	令和3年6月28日
	第2回	令和3年10月22日
	第3回	文書決議

本会の参加者	生活支援体制整備推進委員として1名(第1層生活支援コーディネーター)
内 容	1. 生活支援コーディネーター基礎研修について 2. 生活支援コーディネーター学習・情報交換会について 3. 令和3年度滋賀県生活支援体制整備事業の振り返り 4. 滋賀県的生活支援体制整備の推進について

⑤ 退職シニアの参加促進

ア)「おやじの連絡帳 vol.6」の発行

地域で活動されている男性の姿を記事にし、退職後の男性が活躍できる場が広がることを期待し作成している。Vol.6は地域×防災=おやじの出番とし、男性が関心の強い傾向にある、防災に関連した活動をしている男性にスポットをあて作成しました。

イ)「おやじマイスター通信の発行」

本会では退職シニア男性の社会参加を啓発するため、平成30年度、令和元年度の2年に渡り「おやじ塾」と題し講座を開催した。新型コロナウイルスの感染拡大により、昨年度の同窓会で提案した「大津市災害ボランティアセンター」の運営協力をお願いしたが、コロナの感染拡大が収まらず今年度は見送りを決定した。つながりを絶やさないために、同窓生の近況や一言メッセージを添え、「おやじマイスター通信」を作成し配布した。

・車いすの貸出し事業

緊急の利用や旅行、帰郷などに支障がある人に対し、2カ月間を限度に車いすを貸出した。
(無料)

車いすの貸出し事業の利用状況 (件)

	貸出	返却	更新	寄付	合計
令和3年度	65	64	69	3	201

※上記のほか、学区社協では独自に車いすの貸出を実施している。

・地域包括支援センター職員派遣事業

大津市の地域包括支援センターに社会福祉士を9名派遣した。

配置場所：和邇1名、堅田2名、比叡2名、中1名、膳所1名、南1名、瀬田1名

・ふれあい給食事業の推進

一人暮らし高齢者に対し、栄養と健康の増進をはかるとともに、地域との交流を深めるために学区社協が主体となって実施している。

今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、配食を中止された学区や副食に変更された学区もあり、各学区で工夫を凝らしながら実施された。

1) ふれあい給食サービス事業実施一覧

①実施学区 24学区

(葛川、伊香立、真野北、堅田、仰木、仰木の里、日吉台、坂本、下阪本、唐崎、滋賀、藤尾、長等、逢坂、中央、平野、膳所、富士見、晴嵐、大石、田上、瀬田、瀬田南、瀬田東)

②利用者(実人数) 1,402名

③年間給食数 13,734食

2) ふれあい給食サービス事業研修会

ふれあい給食サービス事業に従事する方が施設の衛生管理や食品の取り扱いなどについて学び、食中毒などの事故の発生を防ぐとともに、従事者が安心・安全にふれあい給食サービスに取り組むことができるよう、大津市保健所の衛生講習を受けることを目的に毎年、研修会を開催しています。

開催日時	第1回	南部：令和3年7月 2日（金）10:00～11:30
	第2回	北部：令和3年7月13日（火）10:00～11:30
参加者	第1回	南部：会場15名・オンライン2名
	第2回	北部：会場23名・オンライン4名
開催場所	明日都浜大津ふれあいプラザ5階（大会議室）& オンライン（Zoom）	
講師	大津市保健所衛生課 食の安全推進係 石田 和久 氏	
内 容	講演：食品衛生講習会✍ 資料 📄 PPT・記録用紙・チラシ2種 ・食中毒予防3原則「清潔」「迅速・冷却」「加熱」 ・お弁当をつくる工程に沿った注意事項 ・記憶より「記録」を残す ・ワンポイントアドバイス「使い捨て手袋の衛生管理」 質疑・応答 🖐	
	  	

・ふれあいサロン育成事業

ふれあいサロンのボランティアが出会い情報交換することで意欲的に活動を進められるよう、例年ふれあいサロン交流会を開催している。

令和3年度は、感染症予防対策をしつつ研修会を開催した。各サロンの情報交換は十分に行えなかったものの、「元気が出た」「グループの皆で聞きたい話だった」などの感想が出るなど、コロナ禍で意気消沈している代表者の想いを励ます研修となった。

また、本会に登録されているふれあいサロンに対して、ボランティア行事用保険料の一部助成を通して活動支援を行った。

引き続きコロナ禍によって活動自粛されたサロンが多く、昨年度比 72% の助成となった。

1) ふれあいサロン登録数（令和4年3月31日現在）

- ①登録数：193 団体
- ②利用者数：約 1,700 名
- ③ボランティア数：約 800 名
- ④年間開催総数：1,800 回

2) ふれあいサロンボランティア行事用保険助成

- ①助成団体数：28 団体 7,934 人（令和2年度 46 団体 10,897 人）
- ②助成金額：119,010 円（令和2年度 163,455 円）

3) ふれあいサロン研修会

日 時：令和4年3月22日（火）10:30～12:00

場 所：明日都浜大津ふれあいプラザ 5 階 大会議室

参加者：ふれあいサロン 45 か所 45 名

講 師：夢こらぼ 主宰 松尾やよい氏



目標 2) 一人ひとりが生きる力を高めあい支え合える地域コミュニティづくり

(1) 福祉学習の推進

① 新たな福祉学習の開発に努めます		
概要	令和3年度の取り組み	5次計画の総括
個別のニーズに対応したプログラムを提案します。また、子どもの頃から福祉体験ができるよう、福祉教育担当者の情報交換会や社会福祉施設での受け入れについて調整を図ります。	令和3年度は学校と相談し、感染対策に配慮した上で、社会福祉施設や地域住民と連携し、講師による福祉体験学習が実施できました。また、オンラインを活用しての同時配信での講師による講話、学校内を広く使うことで密を避ける形での福祉体験などコロナ禍で工夫しながら実施される学校も増えてきた。	福祉学習については、コロナ禍で実施が難しい状況が続きました。施設連絡会や学区社協の協力で、学校への出向いてのメニューなどを実施しました。今後は、経済的不安などの社会情勢に対し、社会保障など生きるためのメニューづくりが必要です。

② 地域の中で福祉を学べる場を増やします		
概要	令和3年度の取り組み	5次計画の総括
身近な地域で福祉学習ができる機会として、福祉のまちづくり講座を学区社協で開催し、地域の力を活用した福祉学習の場づくりを推進します。	コロナ禍の中であったが、各学区で開催の時期や方法を工夫して実施された。市社協としては、講師の調整等、学区からの相談に応じながら推進しました。	福祉のまちづくり講座を福祉委員と民生委員の連携の場にしたり、避難所運営ゲームを活用する等、各学区で住民に福祉への参加のキッカケづくりを行いました。

主な事業

・福祉教育・体験事業

人権教育や他者理解を進めるため、福祉教育・体験事業をつうじて、学校や団体、企業、地域で行われる講座や体験などの企画の相談、講師の紹介及び調整、体験用具の貸出（下記5種類）など、様々な支援を行った。

1) 福祉体験・企画相談 43件（前年よりも4件増）

（小学校 29件、中学校 5件、高等学校 1件、専門学校 1件、大学 1件、その他 6件）

2) 体験用機材保有数

- ・車いす …10台
- ・アイマスク …100枚
- ・点字器 …150枚
- ・白杖 …1本
- ・高齢者体験グッズ…20セット

新型コロナウイルス感染症の影響もあり、秋以降の実施が多かった



小学校での体験の様子

地域や福祉施設の方にもご協力いただき、楽しく安全に学ぶことができました。

・福祉のまちづくり講座助成事業

学区社協では、安心して暮らし続けることのできる福祉のまちづくりを目指して、各種の講座やつどいが開催された。

実施学区：21 学区

実施講座：41 講座

参加人数：1,542 名

コロナ禍で中止を余儀なくされる中、それぞれ工夫しながら実施された。

・実習生の受け入れ

本会では、社会福祉士のための実習、司法修習生の実習など、様々な実習生を受け入れている。今年度はコロナ禍により司法修習生や実習依頼も少なかった。2 名の実習生は、学生の立場から生活困窮課題に対し課題解決に向けたアクションを起こし、新たな事業を職員とともに企画・実施した。また、共同募金の助成についての審査会にも参画し、実習を通して地域福祉を学び、実践する機会となった。

日 程	学 校	人数
11 月 1 日 ～12 月 6 日 (23 日間)	龍谷大学	2
延べ合計 23 日間		2 名

・大津市社会福祉協議会表彰式典の開催

社会福祉の向上にご尽力いただいた方々に対して、本会会長より表彰状、感謝状の贈呈を行った。本年は、新型コロナウイルス感染症の影響により式典のみで参加者も表彰者のみで開催した。

- 1) 日 時 令和 3 年 11 月 10 日 (水)
- 2) 会 場 スカイプラザ浜大津 7 階 スタジオ 1
- 3) 内 容 表彰状及び感謝状の贈呈 (個人 65 名、10 団体)

(2) 生きる力を育む場づくり

① 一人ひとりの受援力を高めるとともに、地域で助けあえる関係づくりを進めます		
概要	令和 3 年度の取り組み	5 次計画の総括
「自分のことは自分です」という考えが、悩み事を抱えたときには「人に頼ることは恥ずかしい」という要因になってしまい、孤立化にもつながることが考えられます。一人ひとりが自己責任ではなく、普段から「助けて」と言いあえる関係づくりを進めます。	「ささえ合い活動講座」を開催し当事者団体に加え、学区社協からの参加をえて、地域での活動の目が出ました。コロナ禍において特に「助けて」と言いあえる関係づくりの大切さに、住民自らが気づき行動を始めることができました。	第 2 層生活支援コーディネーターとあんしん長寿相談所が協働し、協議体において地域に相談取次所や見守り協力店など、悩み事などを「助けて」と言いあえる関係づくりを進めました。特例貸付など地域のニーズを共有することで、助け合いの機運が高まりました。

② 地域のニーズにあわせた新しいしくみをつくります		
概要	令和 3 年度の取り組み	5 次計画の総括
支えあい、見守りは実際には各 地域で行われている取り組みで す。それぞれの地域で手助けや 気遣いの気運を高め、お互いに 地域での生活を支えていけるよ	第 2 層生活支援コーディネーターが仰木学区において見守り会議を進める中、住民から昔ながらの顔見知りが多いという強みをいかし、まずは日頃の挨拶やひと声かける「声かけ運動」を	地域においてコロナ禍でもふれあい給食や敬老事業を通し、住民が見守り活動の大切さを改めて実感しました。そのような中、地域の実情に合った見守り活動のあり方を各地域で第 2 層

う、地域に応じた活動づくりを支援します。	始めることとなりました。まずは、地域の中で気遣いや心配りの気運が高まっています。	生活支援コーディネーターが住民と共に検討しました。
----------------------	--	---------------------------

主な事業

・生活支援物資の受け入れと活用

本会では、経済的に困窮しておられる方の相談が、年間を通じて多く寄せられており、生活福祉資金等の貸付や生活保護などの公的制度を受けるまでの間、緊急的な支援として食料品を提供している。

この取組みは、広報「ひまわり」や学区社協や地区民児協を通じて生活支援物資の提供をお願いし、市内の地域住民や企業等からの寄付で成り立っている。皆様から提供いただいた生活支援物資については、生活困窮者自立支援事業と一体的に行い、大津市生活福祉課、地域包括支援センター、NPO法人大津夜まわりの会、子育て支援団体等と連携し、支援の必要な方へ効果的に提供した。

新型コロナウイルスの影響が長引き、生活困窮の相談が多数寄せられており、特例貸付があったことから支援物資を提供する機会が例年より少なかった。

特例貸付を利用されたひとり親世帯を対象に、生活支援の一環で令和3年8月に子育て応援フェア、コロナ困りごと応援プロジェクトを実施。令和3年12月にはひとり親等歳末応援プロジェクト、令和4年1月には龍谷大学と連携し、経済的に困っている学生を対象とした学生応援プロジェクト開催し、生活支援物資の提供を行った。

令和3年度 提供件数

(件)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計
30	34	34	59	41	45	42	52	57	56	41	35	583

(令和2年度 合計 508 件)

ご寄附いただいた生活支援物資の内容と量

米	2,209 k g	缶詰	1,161 点
インスタントラーメン	5,607 食	レトルト食品	2,803 食
パスタ・乾麺	247 点	のり・調味料	2,317 点

効果：地域の皆様からご寄附いただいた支援物資の活用によって、相談者の不安が軽減できており、よりスムーズな相談援助ができています。

令和3年度は子育て応援フェアに加えて、学生応援プロジェクトでも生活支援物資を活用。大学生もアルバイトが出来ない中、生活支援物資をいただき、とても助かったとの声をいただいた。

・子どもの学習支援事業

1) 寺子屋プロジェクト

長期休暇中等の宿題、学習及び生活学習の支援並びに地域でのつながりや居場所づくりを目的に、地域の子どもを地域で育む地域福祉活動。

実施学区：19 学区社協

木戸・和邇・小野・真野・真野北・雄琴・坂本
下阪本・唐崎・山中比叡平・藤尾・逢坂・石山
南郷・上田上・瀬田・瀬田南・瀬田東

実施時期：長期休暇中、休日等

参 加 者：延べ 3,188 名の子どもたち

ボランティア・スタッフ：延べ 1,093 名

大津市内 36 箇所に設置の目標を掲げていたがコロナ禍の影響もあり、19 学区に留まった。しかし、新しく実施する学区が 1 学区増えている。

効果：長期休暇中も外出の機会は少ない。子ども居場所を作る事によって活動的な様子が伺えた。学校の先生も宿題の進み具合を確認しており、夏休み中の様子を確認する機会になった。

内 容：宿題支援、居場所づくり、
社会学習、スポーツ 等



宿題支援の様子



地域の大人と遊ぶ小学生

2) フリースペース

フリースペースは、トワイライトステイと同様、しんどさを抱える子どもが安心して過ごせる夜の居場所である。週に1回、福祉施設を活用し、子どもが支援者やボランティアと一緒にご飯を食べたり、お風呂に入ったりして過ごす。コロナ禍により中止せざるを得ない時期もあったが、福祉施設、子どもと専門的に関わるワーカーやボランティアがチームになり、子どもの居場所を地域で作った。

フリースペースカーサ	
実施日時	毎週木曜日 18:00～20:20
参加者	小学生4名
場所	特別養護老人ホーム カーサ月の輪
開始時期	平成27年3月
実施回数	25回



学習支援の様子

フリースペースかなで	
実施日時	毎週金曜日 17:00～20:00
参加者	中学生1名・小学生1名
場所	特別養護老人ホーム 紬
開始時期	平成27年7月
実施回数	33回（別で11回は弁当配付）



食事の様子

※フリースペースアイリス・しんせいは、コロナ禍により
年間通して中止であった

3) 子ども食堂

地域ぐるみで子どもを大切にする垣根のない居場所として、食事、学習、遊び等を通して、子どもが安心してだれかとともに過ごすことができる場所を地域の人々の思いと工夫で作っている。コロナウイルスの感染者数や、小、中学校の学級閉鎖の状況を確認し子ども食堂の活動を行っている。市内では新たに5カ所の子ども食堂開設の相談を受けている。

令和3年度相談中の子ども食堂

No.	学区	子ども食堂名	特徴	実施場所
1	和邇	Smile's kitchen	ケア型の子ども食堂。障がいを抱える子どもの居場所になりたい。	和邇コミュニティセンター
2	下阪本	シモサカ Aステーション	学区内の中学生を対象とした子どもの居場所を作りたい。参加していた子ども達が、ボランティアスタッフとして参加できる仕組みを作り卒業後も見守りたい。	グループホーム やすらぎの郷

3	滋賀	スペースぽかぽか	学習支援を中心に学区内の子どもにとっての居場所を作りたい。	天理教滋賀分教会
4	富士見	食堂名：未決定	学習支援を中心に長期休暇中の子どもの居場所を作りたい。	ファミリーホーム だんらん
5	唐崎	食堂名：未決定	自宅を利用し、学習支援を中心に唐崎学区、滋賀学区の子どもを受け入れる子ども食堂。	自宅

4) 学習支援ネットワーク会議

子どもの居場所事業実施団体同士の情報を共有、ネットワーク形成のために行う。また学習支援コーディネーターが支援現場の困り事把握するためにも定期的な情報共有の場を主催した。今年度はコロナ禍の開催となったため参加団体が多い会では zoom を用いたオンラインと会場のハイブリット開催も行っている。今年度は 5 回のネットワーク会議を開催した。

No.	会議名	日時	目的	開催場所
1	大津市内の子ども食堂情報交換会	6 月 18 日	大津市内の子ども食堂の情報交換・交流・ネットワーク作りのために開催	明日都浜大津
2	子どもに関わるボランティア	7 月 11 日	大津市内の高校生・大学生に対して、子どもの支援ボランティアの紹介、ボランティアに参加している方のはな	明日都浜大津
3	瀬田北小学校連携会議	7 月 30 日	フリースペースカーサを利用している世帯について学校と情報共有を行う場を設ける	瀬田北小学校
4	子どもの学習支援ネットワーク会議	10 月 26 日	大津市内の今後の子どもの居場所づくり事業について求められる事や、今後連携していくために必要なことについて話し合いの場を設けた	こどもソーシャルワークセンター事務所
5	大津市内の子どもの居場所づくり事業実施団体による意見交換会	1 月 18 日	大津市内の子どもの支援団体が連携して子どもを支えることが出来るシステムのたたき台を作成する	長等支所

5) コーディネーター業務

子どもの支援団体、子どもの支援団体利用世帯に対する個別訪問。子どもの居場所づくりの新規立ち上げ相談、またその際に必要な関係機関との顔合わせ。子どもの支援団体に贈られる寄付物品の配分調整や、子どもの支援をしたいという方のボランティア調整などを行っている。

- ① 支援団体への訪問件数 : 60 件
- ② 家庭訪問件数 : 12 件
- ③ ボランティア相談件数 : 12 件
- ④ 寄付金、寄付物品の調整件数 : 135 件

・アディクションフォーラム実行委員会の運営支援

薬物・ギャンブル・アルコール依存症など様々な依存症（アディクション）を抱えた当事者や家族、関係機関や住民が依存症の理解を深めることを目的としてアディクションフォーラム in 滋賀を毎年開催している。実行委員会は事務局を滋賀県精神保健福祉センターと大津市社会福祉協議会が担い、当事者、家族、関係機関、弁護士、司法書士等専門職が実行委員メンバーとして構成されている。令和 3 年度は新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、オンラインで開催となった。

第14回 アディクションフォーラム in 滋賀

仲間を見つけた、希望を見つけた

～生きづらさはどこからくるの？～

日時：令和4年1月29日（土）13時30分～15時30分

会場：オンライン（ZOOM）開催

内容：講演「AC（アダルトチルドレン）と共依存」

～アディクションの原点を考える～

講師 信田 さよ子 氏

参加者：オンライン 180 名

実行委員会：13 回



・大津市ファミリーサポートセンター

大津市ファミリーサポートセンターは、育児の援助をしてほしい人（おねがい会員）と援助できる人（まかせて会員）が会員となって育児の相互援助活動を行い、地域の子育て支援、福祉の向上を図ることを目的とし、安心して生活できる環境づくりを応援している。

1) 活動状況について(令和3年度4月～3月)

会員数

おねがい会員の登録は、小学校卒業年度までとしている。それ以上の方は、順次確認して退会の処理を行っている。

	令和3年度 3月末会員数	年度内入退会		
		入会	退会	増減
おねがい会員	1,331 人	103 人	186 人	-83 人
まかせて会員	415 人	24 人	28 人	-4 人
どっちも会員	338 人	14 人	23 人	-9 人
合 計	2,084 人	141 人	237 人	-96 人

		依頼者側		援助者側	
会員の 状況	(区 分)	おねがい会員	どっちも会員	まかせて会員	
	対象者数	1,331 人	338 人	415 人	
	年齢分布	～30 代 36%	～30 代 27%	～40 代 19%	
		40 代 54%	40 代 56%	50 代 28%	
		他 10%	他 17%	60 代～ 53%	

子ども年齢別活動集計

年 齢	0 歳～2 歳	3 歳～5 歳	6 歳～12 歳	13 歳以上	合 計
件 数	770 件 (20.4%)	929 件 (24.6%)	1,736 件 (46.1%)	335 件 (8.9%)	3,770 件

活動内容・件数

(単位:件)

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合 計
保育所・幼稚園の登園前の預かり				2									2
保育所・幼稚園の送り	49	26	40	40	32	28	28	40	53	32	31	43	442
保育所・幼稚園の迎え	66	44	67	28	15	40	35	57	59	33	45	22	511
保育所・幼稚園の帰宅後の預かり	16	21	27	24	17	24	19	26	25	7	27	20	253
児童の登校前の預かり	23	18	22	12	4	21	19	22	16	18		16	191

児童の学校等の送り	80	104	93	72	2	104	94	64	44	52	72	37	818
児童の学校終了後の迎え	8	15	32	4		9			7	5	17	6	103
児童の学校終了後の預かり	9		2										11
児童クラブの迎え	21	20	30	28	19	11	30	26	26	22	18	23	274
児童クラブ終了後の預かり	4	6	10	4			6	2	11	6	3	4	56
子どもの習い事等の場合の援助	33	33	38	28	21	20	22	28	35	17	16	13	304
保育所・学校等休みの時の援助	2			4	7		3	1	3	6		6	32
保育所等施設入所前の援助									1				1
保護者等の短時間・臨時的就労の場合の援助	28	35	32	30	40	29	38	46	57	34	28	44	441
保護者等の求職活動中の援助				1									1
他の子どもの用事の場合の援助	4	7	5	6			6		2	2	1	4	37
保護者等の外出の場合の援助		3	5		1				1	2	1	2	15
保護者等の病気、その他急用の場合の援助				3	1		1						5
保護者在宅時の援助	29	16	8	27	15	32	29	29	29	20	12	16	262
その他				2			1			2	6		11
合 計	372	348	411	315	174	318	331	341	369	258	277	256	3,770

内 訳	保育所・幼稚園にかかわる援助	小学校・児童クラブにかかわる援助	そ の 他
	1,208 件 (32%)	1,453 件 (38.6%)	1,109 件 (29.4%)

※活動状況について

- ・令和3年度の活動件数は3,770件で、前年度(3,626件)程度の依頼件数となった。令和元年度と比べると2,000件余りの減となっているが、コロナ禍で、保護者が在宅勤務・校園が休校、休園・習い事が休みなどの理由で送迎援助や預かりが必要なくなり、従来の依頼が大きく減る結果となっている。
- ・一方で、“母が在宅時の育児サポート”も多く、家事の間のサポートや、子育てを助けてほしいなど、周りに頼る方がなく、育児不安・社会不安を抱えることで、利用されるケースがある。

2) 講習会・交流会

回	日 時	内 容	参加人数	備 考
1	6月15日(火)	「地域のなかで子育て、子育て、世代をこえて育ちあうために」 講師：NPO法人カズン理事 西田久美子氏		コロナ感染拡大防止のため中止する。
2	6月24日(木)	「救命講習」 講師：大津市消防局 警防課職員	13名	援助会員が5年に一度の受講が必修となったため今年度は大津市消防局に依頼して、年2回の救命講習を開催する。
3	7月9日(金)	「子どもの成長と心の発達」 講師：子ども発達相談センター 発達相談員 平野 美香 氏	18名	年齢毎の子どもの発達と子どもとの関わりについて講義いただく。 幼児期の遊びを充実させることが大切であることを学ぶ。
4	9月15日(水)	「子どもの気になる姿・障害についての理解とかかわり」 講師：子ども発達相談センター 発達相談員 平野 美香 氏		コロナ感染拡大防止のため中止する。

5	10月26日(火)	「赤十字幼児安全法①」 講師：日本赤十字社 滋賀県支部 岩永 止美子 氏	18名	幼児安全法の教本と資料を使って「子どもの応急手当」「子どもの病気と看病の仕方」について具体的に学んだ。 
6	10月27日(木)	「赤十字幼児安全法②」 講師：日本赤十字社滋賀県支部 岡江 美佐江氏	18名	
7	11月9日(火)	「救命講習」 講師：大津市消防局 警防課職員	19名 (託児3名)	
8	11月14日(木)	「願い紡いで しあわせづくり」 講師：NPO法人カズン理事 西田 久美子氏	11名 (託児3名)	会員同士の交流とワークシートを用いてのグループワーク形式で行う。 和気あいあいとした雰囲気のなか、語り合いでの交流が深まった。



講習会「救命講習」



講習会「地域の子育て」

3) まかせて(援助)会員の登録増をめざして

「ファミリーサポートセンター」を広く市民に周知すると共に、まかせて会員の登録募集を目的に、広報おおつにお知らせを掲載した。また、知り合いの方を紹介していただいたり、講習会の参加者に呼びかけたりした。結果、今年度は24名の登録に繋がった。

4) ファミサポ通信の発行

会員相互の情報誌として年2回(40号・41号)ファミサポ通信を発行した。

講習会の案内・報告やサポートの報告など行なうとともに、昨年度に引き続き、おすすめ絵本の紹介をするなど紙面工夫を行った。



・追悼事業

1) 無縁墓地、旧大津陸軍墓地の法要

無縁仏ならびに旧陸軍墓地に埋葬納骨されている諸英霊の冥福を祈るため総合法要を実施した。(巡回法要は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から取り止めとし、総合法要は、規模を縮小し開催した。)

日 時 令和3年8月26日(木)
巡回法要 取り止め
総合法要 西福寺(大津市春日町6-10)
導 師 西福寺 黒川 上人(総合法要、旧陸軍墓地)

2) 功労者顕彰碑法要

本会に功績があり、故人となられた方に対して感謝の意を表する「功労者顕彰碑」前において追悼法要を実施した。

日 時 令和3年8月26日(木)
場 所 西福寺(大津市春日町6-10)
導 師 西福寺 黒川 英正 上人

(3) 小地域における福祉のまちづくりの基盤強化

① 学区社協の運営と活動への支援を行います		
概要	令和3年度の取り組み	5次計画の総括
学区社協において、地域のニーズを地域で考え、課題を解決していくことができるよう、学区社協地域福祉活動計画の作成及びそれに基づく活動を支援するなど、地域福祉活動の基盤づくりを行います。	地域福祉活動計画(学区社協の手引き)の作成するにあたり、地域団体との懇談会を行い、学区社協が実施する事業の意義を確認し、学区社協活動を周知するための意見交換を行いました。	学区社協のほか各種地域団体とも連携を深めながら、withコロナ時代の新たな地域福祉活動を創出する。

② 福祉委員の役割の明確化を図ります		
概要	令和3年度の取り組み	5次計画の総括
福祉委員は身近な地域でのサロン活動や見守り・声かけ、支えあい活動の中心となり、自治会と学区社協とのつなぎ役を担っています。今後も福祉委員の役割や位置づけ、民生委員児童委員との関係を明確にするとともに、あり方について検討を行います。	各学区から主体的に活動に参画する福祉委員が選出されることを目指し、学区社協会長会役員会で福祉委員のあり方・役割を改めて検討した。自治会から提出していただく福祉委員報告書の様式を変更し、市自治連合会定例会で案内した。	学区地域福祉活動計画(学区社協の手引き)を14学区で作成し、作成過程の懇談会等で、各参加者が地域を見つめなおす機会となり、各団体の活動の整理にもつながりました。

主な事業

・民生委員児童委員の活動支援

市内36地区の民生委員児童委員協議会連合会の事務局として、民生委員児童委員を対象とした相談活動セミナーや民生委員児童委員活動を支援した。新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、会長会理事会、各種部会、人権研修、民生委員大会等の一部を中止せざるを得なかった。

- ・役員会(毎月)
- ・定例の会長会、理事会(毎月)※オンラインの活用
- ・民生委員大会(中止)、総会(文書)、一泊研修会(中止)、人権研修会、OB会(湖風会)
- ・各専門部会(高齢者部会、児童部会、生活支援部会、障害者部会、主任児童委員部会、広報部会)

・学区社協活動の運営の支援

1) 定例学区社会福祉協議会会長会議

学区社協では、地域の福祉活動を進め、実践や体験をととして住民福祉の向上のため様々な取り組みを実施している。そこで、本会の活動方針の伝達や福祉情報の提供、さらには

学区相互の交流をはかるとともに、福祉問題について協議することを重点に学区社協会長会議を開催した。コロナ禍でやむを得ず中止した月もあったが、ブロックごとに分かれての開催、会場のレイアウト変更等の工夫を施しながら実施した。

学区社協会長会議の日程

月	種 類	開 催 日	場 所
4	定 例	4 月 15 日(木)14:00～	ホール
5	定 例	5 月 20 日(木)14:00～	ホール
6	事務局長合同→会長のみに変更	6 月 14 日(月)14:00～	ホール
7	定 例	7 月 16 日(金)14:00～	ホール
8	文 書	文書送付	—
9	定 例	文書送付 (コロナ禍)	—
10	定 例	10 月 21 日(木)14:00～	ブロックごと
11	文 書	文書送付	—
12	休 会	—	—
1	定 例	文書送付 (コロナ禍)	—
2	文 書	文書送付	—
3	事務局長合同→会長のみに変更	3 月 17 日(木)14:00～	大会議室

2) 学区社協会長会役員会

平成 29 年度に会則を定め、学区社会福祉協議会会長会に関する運営事項等を定め、ブロック毎に 7 名選出し、会長 1 名、副会長 6 名を 5 月の学区社協会長会にて選任(書面評決)した。

	氏名	ブロック	学区
会 長	呉屋 之保	比 叡	日吉台
副会長	高野 裕	志 賀	小 野
副会長	濱口 恒	北 部	真野北
副会長	楠本 耕之	中 部	山中比叡平
副会長	戸知谷 俊治	中南部	平 野
副会長	上野 壽久	南 部	田 上
副会長	山内 英幸	東 部	青 山

学区社協会長会役員会においては、年間を通した議題を設定し、全役員で集まり活発に話し合いを進めた。

主な議題

- ・共同募金の減少と地域福祉活動の継続について
- ・福祉委員活動について
- ・今後の学区社協事業について
- ・共同募金増収のための取組について

日程・場所

月	開 催 日	場 所
5	5 月 18 日(火)10:00～	小会議室
6	6 月 10 日(月)10:30～	ボランティア活動室
7	7 月 5 日(木)10:00～	ボランティア活動室
10	10 月 25 日(木)10:00～	ボランティア活動室
12	12 月 16 日(木)14:00～	ボランティア活動室
3	3 月 14 日(月)10:00～	ボランティア活動室

・ブロックごとの社協連絡会の実施

ブロック別学区会長・事務局長連絡会議の開催

隣接学区の社協が、お互いに情報交換をすすめながら、全市的に統一された組織活動へと発展するために、市内を7ブロックに分け、ブロック別に会長・事務局長の定例的な連絡会や各種の講座・研修会を実施した。

ブロック社協代表学区会長名簿（敬称略）

ブロック	代表学区社協	会 長
志 賀	小 野	高野 裕
北 部	真野北	濱口 恒
比 叡	日吉台	呉屋 之保
中 部	山中比叡平	楠本 耕之
中南部	平 野	戸知谷 俊治
南 部	田 上	上野 壽久
東 部	青 山	山内 英幸

志賀ブロック社協連絡会（平成18年8月スタート）4学区社協

テーマ：地域福祉の充実～つながろう志賀の福祉のまちづくり～

（小松、木戸、和邇、小野：事務局→小野学区）

回	日時	場所	特記議題内容
1	6月8日（火）10：00	木戸支所	事業報告・決算／事業計画・予算について 共同募金街頭募金について
2	8月23日（月）10：00	木戸支所	志賀健康いきいき祭の実施可否について
3	10月21日（火）14：00	木戸支所	歳末たすけあい募金封筒について 下半期ブロック事業について
4	3月8日（火）10：00	木戸支所	令和4年度事業について 情報交換

※第9回志賀健康いきいき祭は、令和3年11月13日（土）に開催予定をしていたが、コロナ禍で中止。

※ブロックふれあいサロン交流会は、コロナ禍で中止。

学区社協と福祉施設の勉強会・懇談会

日 時 令和3年12月8日（水）10：00～

会 場 木戸公民館

参加者 学区社協4名、福祉施設4名

内 容 ・学区社協と福祉施設の連携事業について
・コロナ禍の活動や対応について情報交換



北部ブロック社協連絡会（昭和42年4月スタート）7学区社協

テーマ：「小地域における福祉活動の活性化」

～つなぐ、つながる、広がるふれあいの地域づくり～

（葛川、伊香立、真野、真野北、堅田、仰木、仰木の里：事務局→真野北学区）

回	日 時	場 所	特記議題内容
1	6月25日（金）14：00～	真野北市民センター	令和2年度事業報告・決算報告 令和3年度事業計画・予算 各学区での福祉委員活動について 情報交換

2	11月26日(金)14:00～	真野北市民センター	令和3年度事業について 堅田あんしん長寿相談所・真野あんしん長寿相談所からの情報提供 共同募金街頭募金について コロナ禍でのサロン活動について 情報交換
3	3月25日(金)13:30～	真野北市民センター	令和4年度事業について 北部ブロック7学区社協の手引きについて 情報交換

北部ブロック7学区社協の手引き

令和元年から順次作成してきた、7学区社協の手引きを1冊の冊子にした。最後のページには7学区の事業一覧をまとめた



地域福祉講座 ➡ コロナ禍により中止

日 時 令和4年2月17日(木) 13:30～15:30
内 容 『人生100歳時代 生き方が問われる』
講 師 健康・福祉総研理事長 元滋賀県知事 國松 善次 氏

※北部ブロックふれあいサロン交流会、視察研修会ともにコロナ禍により中止。

比叡ブロック社協連絡会 (平成12年4月スタート) 5学区社協

テーマ:「住民同士が支えあうあたたかいまちを目指して」

(雄琴、日吉台、坂本、下阪本、唐崎 : 事務局 → 日吉台学区)

回	日 時	場 所	特記議題内容
1	5月19日(水)10:00～	坂本学区体育振興会事務所	決算、予算、計画、テーマ、情報交換
2	10月13日(水)13:30～	坂本学区社協事務所	地域福祉交流研修会について 学区毎のいのちのバトンについて 情報交換
3	3月11日(金)13:30～	坂本学区社協事務所	令和3年度の支出報告 コロナ禍の社協活動・地域の現状に関する情報交換 情報交換

※比叡ブロック社協「先進地視察研修会」はコロナ禍で中止。

地域福祉交流研修会

日 時 令和3年11月15日(月)10:00～11:30
内 容 with コロナの時代の地域福祉活動
『みんなで聞いてみよう!これからどんなことが出来るかな?』

会 場 比叡ふれあいセンター

講 師 あそびの工房もくもく屋 コミュニケーションデザイナー 田川 雅規 氏

参加者 40名(学区社協、民生委員児童委員)



中部ブロック社協連絡会（平成 12 年 4 月スタート）6 学区社協

テーマ：コロナ禍における社協活動を考える

（滋賀・山中比叡平・藤尾・長等・逢坂・中央：事務局→中央学区）

回	日 時	場 所	議 題 内 容
1	6 月 2 日（水）10：00～	比叡平自治会館 やまびこ	令和 2 年度事業報告・決算報告 年間テーマ、予算・事業計画
2	9 月 1 日（水）10：00～	明日都浜大津 大会議室	ブロック事業について 令和 3 年度 8 月豪雨に関する情報交換
3	12 月 1 日（水）10：00～	明日都浜大津 視聴覚室	ブロック事業の振り返り
4	3 月 3 日（水）10：00～	明日都浜大津 視聴覚室	仮決算について コロナ禍における社協活動について

地域福祉講座

日 時 令和 3 年 11 月 1 日（月）14：00～15：30

内 容 「With コロナ ワクワクがとまらない！
あんなこともできる、こんなことも…」

会 場 旧大津公会堂 ホール

講 師 あそびの工房もくもく屋 コミュニティデザイナー
田川 雅規 氏

参加者 27 名（学区社協、民生委員児童委員、福祉委員）



※先進地視察研修会コロナ禍により中止。

中南部ブロック社協連絡会（平成 13 年 4 月スタート）4 学区社協

テーマ：

（平野、膳所、富士見、晴嵐：事務局→平野学区）

回	日 時	場 所	議 題 内 容
1	6 月 2 日（水）15：00～	平野市民センター	令和 2 年度 事業報告・決算報告について 令和 3 年度 事業計画・予算（案）について 各学区情報交換
2	12 月 1 日（水）15：00～	平野市民センター	テーマ ・地域課題の共有 ・令和 3 年度ブロック社協事業について
3	3 月 2 日（水）14：00～	平野市民センター	・各学区情報交換 ・令和 4 年度ブロック社協事業について

※中南部ブロック地域福祉講座は、コロナ禍で中止。

南部ブロック社協連絡会（平成 12 年 4 月スタート）4 学区社協

テーマ：地域力を生かし支えあう福祉のまちづくり

（石山、南郷、大石、田上：事務局→田上学区）

回	日 時	場 所	議題内容
1	6 月 23 日（水）	ふれあいプラザ	事業報告、事業計画、活動テーマ決定
2	3 月 17 日（木）	ふれあいプラザ	令和 2 年度振り返り、決算報告

※南部ブロック研修は、コロナ禍で中止。

東部ブロック社協連絡会（平成12年4月スタート）6学区社協

テーマ：「子どもから高齢者まで安心して暮らせるまちづくりをめざして」

（上田上、青山、瀬田、瀬田北、瀬田南、瀬田東：事務局→青山学区）

回	日 時	場 所	特記議題内容
1	10月21日(土)14:00～	青山市民センター	令和2年度事業報告・決算報告 令和3年度予算・事業計画 情報交換①いのちのバトンについて 情報交換②学区社協活動について
2	3月29日(木)14:00～	青山市民センター	令和3年度決算 情報交換①学区社協と福祉施設の連携について 情報交換②学区社協活動について

ブロック社協活動

『東部ブロックおたすけ電話帳※』の全戸配布

※生活支援体制整備事業における東部ブロック協議体で作成した、高齢者等の生活や社会参加に役立つ情報を掲載したリーフレット

・ **学区社協追悼助成事業**

戦争により戦死をされた方への英霊供養及び戦争の悲惨さ、平和の尊さを次の世代に正しく伝えるため、地域で行う戦没者追悼事業を実施する学区社協に対して助成金を交付した。

事業を実施した学区一覧

学区名		実施場所
1	伊香立	伊香立環境交流館
2	真野	神田神社
3	堅田	浮御堂、福聚院
4	仰木	仰木忠魂碑前
5	中央	乗念寺
6	石山	西連寺
7	南郷	西連寺
8	田上	田上忠魂碑前
9	瀬田北	常楽寺
	瀬田東	

（４） **災害時にも強い支援体制づくり**

① 常設災害ボランティアセンターの充実を図ります		
概要	令和3年度の取り組み	5次計画の総括
非常時の被災者支援活動を円滑に進めるため、平常時から各種団体との連携を強化するとともに、ネットワークを構築し、調査・研究、訓練を継続的に行うなど、非常時にセンターの機能が速やかに発揮できるよう取り組みます。	3月に現地サテライト設置訓練を和邇学区で実施する準備を進めていましたが、コロナ禍のため、2年続けて延期となりました。災害ボランティア事前登録者については、積極的に啓発を行ったこともあり、前年度よりも個人、団体とも増えていきます。災害ボランティア養成講座については、現地訓練が中止となったこともあり、2回のみの開催となりましたが、オンラインも含め、約30名の出席がありました。	電気自動車による非常電源確保や資機材の整備等の基盤強化を図りました。また、災害ボランティア養成講座を通して、平常時の人材育成を行うとともに、実際の災害により具体的な体制を構築できた。

② 地域の力を活かした災害時の体制づくりに努めます		
概要	令和3年度の取り組み	5次計画の総括
大学や企業、福祉施設等との連携を図り、人材や知識、情報などの資源を活用し、安全で安心して暮らすことができる災害に強いまちづくりを目指します。	コロナ禍で福祉施設や大学との連携が難しい中、地域や企業に対し防災出前講座を16回（受講者495名）実施しました。8月の大雨土砂災害の際には、登録団体から災害ボランティアとしての協力が得られました。	令和3年度の大雨土砂災害の際には、事前登録いただいている団体や個人から災害ボランティア活動の協力がスムーズに得られました。引き続き、学区社協を中心とする災害ボランティアセンターサテライトの設置を目指します。

主な事業

・大津市災害ボランティアセンター（被災者生活支援センター）

毎年繰り返される大規模・広域的な災害に対応するため、常設型大津市災害ボランティアセンターでは、平常時の取り組みでは災害ボランティア活動やセンター設置・運営する人材育成に力点を置き、災害ボランティア事前登録者の更なる確保を図るとともに、大津市社協災害対応ガイドラインに基づく職員情報伝達・安否確認訓練を定期的実施した。

災害ボランティア事前登録者を対象に「災害ボランティア養成講座」を3回シリーズで開催する予定であったが、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、第3回目の実地訓練のみ中止となった。防災出前講座については16回開催できた。

被災市町の災害ボランティアセンター支援に伴う職員派遣は、令和3年度は8月の大雨の際に災害ボランティアセンターを立ち上げ、復旧ボランティア活動の支援を9日間行った。また、1月の大雪の際に除雪ボランティアを災害ボランティアの調整を行った。

防災倉庫である浜大津基地について、災害時資機材の搬入出のため、車の乗り入れをスムーズに行えるように舗装工事を行い、隣接する組合にも改めて緊急時の通行について了承を得た。

1) 災害ボランティア事前登録制度の推進

災害時のボランティア活動が迅速かつ効果的に行なえるように、災害ボランティア活動を希望する個人又は団体の事前登録を推進した。また、事前登録者に対して、災ボラ通信を送付した。

- ・令和3年度末現在の事前登録者数 327名（個人：67名 団体：7団体260名）
※令和2年度末 317名（個人：55名 団体：6団体262名）

さらに、災害時の支援を迅速・的確に進めるため、災害ボランティア活動に対する一定の知識と技量を高めることを目的として、事前登録者を対象とした下記の講座を企画したが、中止となった。

令和3年度災害ボランティア養成講座実施状況

	日 時	内 容	講 師	参加者数
第1回	R3. 10. 2(土)	・大津市ボランティアセンターの概要について ・災害ボランティア活動について	日本防災士会滋賀県支部 笠原恒夫氏	会場：14名 Zoom：10名
第2回	R3. 12. 11(土)	災害ボランティア活動に対する安全対策について	滋賀県防災支援赤字奉仕団 前田健世氏	会場：16名 Zoom：3名

第3回	R4. 3. 11(金)	現地サテライト設置訓練 →中止		
-----	--------------	--------------------	--	--

2) 大津市総合防災訓練において災害ボランティアセンター設置・運営訓練を企画

例年各学区持ち回りで開催される大津市総合防災訓練で、災害時を想定した災害ボランティアセンターの開設・運営訓練を実施することにより、①災害対応ガイドライン・運営マニュアルの検証、②関係機関と協働した災害ボランティアセンターの運営、③職員のスキルアップの3つを目的に計画を進めていたが、コロナ禍で中止となった。

日 時 令和3年9月19日(日) 7:00～12:00

場 所 膳所学区



3) 災害支援

令和3年度は、8月の大雨の際に災害ボランティアセンターを立ち上げ、復旧ボランティア活動の支援を9日間行った。また、1月の大雪の際に除雪ボランティアを災害ボランティアの調整を行った。



【8月大雨災害復旧ボランティア活動】

ボランティア募集期間：8月23日(月)～8月31日(火)

8月16日(月) 滋賀学区 個人宅支援1件 職員4人

8月17日(火) 滋賀学区 個人宅支援2件 職員6人

8月23日(月) 滋賀学区 個人宅支援1件 ボランティア(団体5人、個人2人) 職員4人

8月30日(月) 逢坂学区 お寺宅支援1件 ボランティア(団体8人、個人4人) 職員5人

8月31日(火) 滋賀学区 個人宅支援1件 ボランティア(団体10人、個人2人) 職員4人

一般申込延39人、団体申込延39人 合計78人確保 →一般活動延8人、団体活動延23人、合計活動延31人、実人数：23人(一般5人、団体18人)



【1月除雪ボランティア活動】

1月17日(月) 葛川学区 個人宅支援1件、職員4名

1月18日(火) 葛川学区 個人宅支援1件、ボランティア2名

これまでの職員派遣経験を通じて、今後検討していく課題は以下のとおりです。

- ①現地サテライト開設に伴う人材確保および早期の被災者ニーズの聞き取り把握
- ②災害ボランティアの確保(特に平日)や資機材の整備と活用
- ③本会の停電対策、業務の優先順位、災害ボランティアセンターの費用の確保
- ④行政(市福祉部局)との連携強化

今後は、上記の内容を踏まえて、大津市社協災害対応ガイドライン・本部運営及び現地拠点運営マニュアルの見直しや体制整備につなげる。

4) 防災出前講座の実施

本会職員が講師となり学区社協や民児協をはじめ、地域の各種団体、施設などへ伺い、最新の防災情報、大津市災害ボランティアセンターの活動内容、本会の事業等を啓発することで、地域福祉の推進や各々の防災対策の一助となることを目的に防災出前講座を実施した。

令和3年度防災出前講座の回数 16回 参加者数 495名

	講座テーマ・内容	実施日	実施場所	参加人数
1	真野学区社協・民児協合同研修	6/12（土）	真野市民センター	40
2	ファミリーサポートセンター講習会	6/24（木）	ふれあいプラザ	13
3	長等学区自主防災会研修	7/11（日）	長等市民センター	5
4	龍門町ふれあいオアシス	7/22（木）	龍門町自治会館	30
5	防災出前講座（桐生防災まち歩き）	7/25（日）	桐生自治会館	30
6	真野学区寺子屋事業	7/26（月）	真野市民センター	45
7	防災出前講座（青山防災まち歩き）	8/1（日）	青山自治会館	30
8	防災出前講座	8/2（月）	大津別院	10
9	大津市民児協連生活支援部会	10/3（日）	和邇文化センター	118
10	晴嵐学区自主防災会防災研修	10/30（土）	晴嵐市民センター	46
11	ファミリーサポートセンター講習会	11/11（木）	ふれあいプラザ	19
12	南郷地区民児協防災研修	11/12（金）	南郷市民センター	23
13	ファーストタワー大津マリー自治会	11/17（水）	大津マリー集会所	40
14	木戸地区民児協防災研修	12/8（水）	木戸市民センター	15
15	真野北地区民児協防災研修	12/10（金）	真野北市民センター	16
16	雄琴学区社協（子供向け）	12/27（月）	雄琴市民センター	15

5) 職員の安否確認訓練などの実施

組織体制の変更や職員の増加などで、大津市災害ボランティアセンター（被災者生活支援センター）・大津市社協災害対応ガイドラインに明記している「災害警戒職員配備体制（発災時）」の一部修正を行い、緊急時に災害警戒職員配備体制が機能するか検証するため、地震災害を想定した職員安否確認訓練を以下の日程で実施した。

回数	日 時
1 日目	4 月 28 日（水）
2 日目	9 月 1 日（火）
3 日目	3 月 11 日（木）

また、9 月 1 日にはシェイクアウト訓練を実施した。電気自動車（日産リーフ）を活用した非常電源確保訓練、防災備蓄倉庫資機材の整備（点検及び取り扱い訓練）についても年 3 回実施した。資機材については、経年劣化した物などの買い替えも行った。

6) 災害復興基金

市内外において発生した地震、豪雨等による災害時又は災害復興支援に伴う経費及び防災のための経費に充てる財源として積み立てしている。

災害復興基金額 18,910,885 円（令和 4 年 3 月末現在）

7) 日本防災士会滋賀県支部の支援

災害時のボランティアセンター運営にあたり、コーディネーターや災害ボランティアの協力が必要です。当支部には、防災に関する知識を有する方が多数在籍され、災害時にはボランティアセンターの運営に多大な協力を得られるものです。平常時には、本会の災害対応ガイドラインや災害ボランティアセンター運営マニュアルにも助言をいただき防災出前講座の資料提供など、相互に支援を進めた。

・災害時助け合いネットワーク事業にかかる市との協働

1) 災害時助け合いネットワーク事業

災害時のためのネットワークの充実を図るため、日ごろの地域見守り活動の一環として、民生委員児童委員によるネットワーク台帳の推進に取り組んだ。

ネットワーク台帳登録数

令和4年3月31日現在 (件)

	対象区分							
実人数	寝たきり	認知症	独居	高齢者のみ	昼間独居	障がい	要支援	他
20,495	305	706	6,528	8,966	1,222	2,502	1,295	2,555

・募金型自動販売機の設置

1) 募金型自動販売機の設置

地域福祉活動の財源の一部として活用した。

国会広報ひまわりを掲示し、広報活動としても活用した。

今年度は新たに和邇市民体育館に2台、石山市民体育館に1台設置した。

2) 募金型自動販売機の設置状況

No.	設置場所	詳 細
1	明日都浜大津3階	プロムナード入り口
2	市役所新館2階	新館2階の総合防災課前
3	木戸支所	市民センター内自販機コーナー
4	木戸老人福祉センター	木戸老人福祉センター広間
5	明日都浜大津2階	2階ガス灯広場
6	瀬田北支所	市民センター前植え込み付近
7	瀬田東支所	市民センター右手植え込み付近
8	堅田駅前	堅田駅前駐輪場
9	滋賀支所	市民センター駐車場側
10	大津聖苑	待合ロビー付近
11	大津市葬祭センター	センター出入口付近
12	志賀聖苑	待合ロビー付近
13	志賀葬祭センター	センター出入口付近
14-16	(株)大津衛生社	会社設置の自販機により支援
17-18	和邇市民体育館	グラウンド倉庫横
19	石山市民体育館	体育館

目標 3) 新しい参加とつながりを生み出すしくみづくり

(1) ボランティアやNPO活動の推進

① 市社協ボランティアセンターの機能の充実に努めます		
概要	令和3年度の取り組み	5次計画の総括
多様化するボランティアニーズに対応するため、幅広い視点や連携のもと、相談援助機能の充実やボランティアリーダーの育成など、ボランティアセンターの機能強化を図ります。	ボランティア活動のけん引役を育てるために、ボランティアコーディネーション力検定3級の受験費用の一部を助成しており、2名が受験し合格されました。そのうち1名は、ボランティアセンター運営委員としてご活躍いただいています。ボランティアセンター運営委員会も年3回開催し、そこでの意見を次年度の事業計画にいかすことができました。	この5年間で、ボランティアセンター運営委員会での意見を、事業や計画策定に積極的にいかせる体制作りに取り組みしました。今後、事業や企画に運営委員への参画を求めます。

② ボランティアやNPOとの連携の場をつくります		
概要	令和3年度の取り組み	5次計画の総括
地域で展開される活動は、人や団体がつながっていくほか、「思いがけない活動」や「楽しい活動」に発展していくことが期待できます。今後も、地域で活動している人や団体が活動を通じて多様な「つながり」をつくることできるよう、連携・交流の場づくりを推進します。	今年度は出会いのボランティアカフェを2回開催しました。1回は、子どもに関するボランティアを希望される方を対象に、もう1回は地域を限定した形（東部ブロック）での開催でありました。対象を限定することで、一体感が生まれ、参加者が実際にボランティア活動につながった事例もありました。	コロナ禍で、「つながり」をつくる場の確保すること自体が難しい状況でありました。その中でボランティアカフェを開催することで、横のつながりを確保することができました。また、子どもの支援関係団体のネットワーク会議を通じたつながりづくりを構築しました。

・ボランティアセンター運営事業

(1) 新型コロナウイルス感染症対策

1) ボランティア活動室の利用

- ・利用の都度、テーブル等の消毒と利用者の記録（氏名・体温等）をとった。
- ・令和4年2月～3月まで、市社協としてステージがレベル3に引き上げられたため、利用の自粛要請を行った。

(2) 啓発事業

ボランティアを発掘・育成するために、様々な広報媒体を利用して活動紹介等を行い、市内のボランティア活動を紹介することでボランティアに関する情報を広く市民に提供した。

- ・紙媒体…社協ニュースひまわりにボランティア活動を紹介する記事を掲載した。
…ボランティアセンターニュース
- ・WEBの活用…市社協ホームページや、フェイスブック、twitterを活用して、ボランティア活動への参加を呼びかけた。

(4) 登録グループの研修会

大津市ボランティアセンター登録グループを対象に、コロナ禍でも安心して活動が続けられるよう、感染症予防をテーマとした研修会を開催した。

感染症対策として、ZOOMでの参加を取り入れたが、皆さんスムーズに参加いただけた。

名 称 令和3年度 登録グループ研修会

日 程 令和4年3月15日(火) 10:00～11:30

会 場 明日都浜大津5階 ふれあいプラザ大会議室

内 容 テーマ:「正しく知ろう 新型コロナ感染症対策とボランティア活動」

講 師:大津市保健所保険予防課

新型コロナウイルスワクチン接種対策室 副参事 栗本 亮氏

各グループの活動も簡単に説明を行いました。

参加者 各グループより1名

21グループ21名の参加(会場参加:15名 ZOOM参加:6名)



会場参加とZOOMの併用で開催



講師 栗本氏

(5) ボランティア保険加入窓口の設置

①ボランティア関係保険加入手続き

・基本プラン	5320人(令和2年	5,666人	前年度比93%)
・天災プラン	443人(	370人	119%)
・ボランティア行事保険	1183件(	993件	119%)
・福祉サービス総合補償	52件(	52件	100%)
・送迎サービス補償	2件(	2件	100%)

②事故報告件数 20件(26件 77%)

内訳	・ボランティア活動保険	10件
	・ボランティア行事用保険	2件
	・福祉サービス総合補償	8件

感染症予防のため、行事を中止されることが多く、行事用保険の返戻手続きに追われた。

(6) 民間団体助成金推進事業

ボランティアグループや市民活動団体が、新たな事業の推進や展開が図れるよう、民間団体による助成事業の広報や助成に伴う相談支援を行った。

また、社会福祉協議会の推薦が必要な助成事業で、本会が推薦した助成事業と交付決定状況は下記のとおり。

助成金の内訳	推薦件数	決定件数
第36回「老後を豊かにするボランティア活動資金」助成 みずほ教育福祉財団	7	4
2021年度公益財団法人大阪ガスグループ「高齢者福祉助成」	14	13

2021 年度公益財団法人大和証券福祉財団「ボランティア活動助成」	2	1
2021 年度ニッセイ財団「児童・少年の健全育成助成」	1	1
イーパーツリユース PC 寄贈プログラム	1	1
2021 年度しがぎん福祉基金	8	6
合 計	33	26

(7) ボランティアグループ、NPO、市民活動センターとの連携

ボランティアの調整をしている機関との情報共有や各機関が主催する事業に参画してボランティアセンターのPRを行うと共に、相互に広報などに協力するなどボランティア活動や市民活動を推進するため連携した。

①滋賀県レイカディア大学「地域活動体験学習」に関わる支援

今年度は、コロナ対策で開催時期がずれ、体験への支援依頼が無かった

②21 文字メッセージプロジェクト実行委員会への参加

京阪電車 21 か所にちなんだ 21 文字のメッセージを全国に公募して、選ぶ事業
個人ボランティアを含む実行委員会形式で実施。

事業費を初めてクラウドファンディングで募集し、ネクストゴールにも挑戦して、約 54 万円を集めた。

- ・事務局会議 36 回、プロジェクトミーティング 9 回参加

- ・応募作品 4,285 の中から、100 作品が選ばれた。

- ・授賞式(ZOOM 開催)および入選作品集を発行した。

③おおつ障害者週間「ほかほかまつり」実行委員会への参加

- ・感染症予防のため中止となった。

④労福協まつりでの市社協・共同募金事業啓発

- ・感染症予防のため中止となった。

⑤人と動物の福祉を考える会議

- ・生活困窮者・高齢者・障がい者の支援を進めるうえで課題となっているペットの問題に、人と動物の両側面からアプローチするネットワークを気づくことを目的に、関心のある市民や団体が「人と動物の福祉を考える会議」として集まり、緩やかに情報交換や課題解決について話合う場として月 1 回程度開催した。

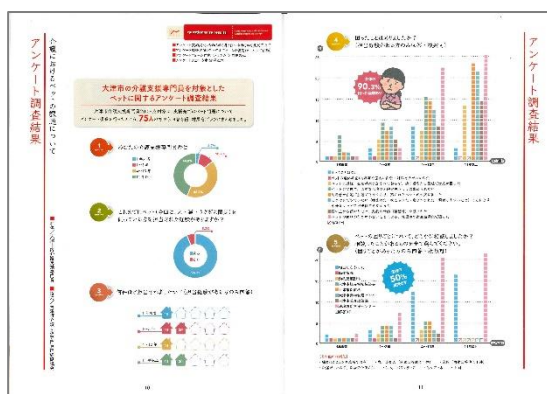
・アンケート調査の実施

対 象：大津市内の介護支援専門員約 200 名

回答数：75 名を

アンケート内容：ペットの課題について

報告書：3 月末に 2,000 部を発行し、アンケート協力者や関係者に配布した。



(8) 大津市ボランティアセンター運営委員会の開催

多角的な視点から市内のボランティア活動を取り巻く現状を把握し、ボランティアセンターの適切な運営に活かしていくため、大津市ボランティアセンター運営委員会を開催した。

1) 委員名簿 任期：令和3年11月～令和5年11月（敬称略）

氏名（※新委員）	所 属
筒井 のり子	龍谷大学
金山 幸子	おおつ傾聴ボランティアダンボの会
山口 寿津子	堅田おしゃべりボランティアグループ
山本 和彦	特別養護老人ホーム 真野しょうぶ苑
※中野 千奈美	和邇学区社会福祉協議会
※白井 恭子	特定非営利活動法人まちづくりスポット大津
※栗田 一人	瀬田商工会絆づくりビジネスネットワーク Life x fun project
※松村 優輝	龍谷大学ボランティア・NPO活動センター
浅野 和成	大津市教育委員会 学校教育課
横山 輝弘	大津市福祉子ども部 福祉政策課

2) 役員会の開催

委員会を開催するにあたり、当日の議題などを協議するため役員会を開催した。

- ①令和3年6月29日（火）10：00～11：30
- ②令和3年10月12日（火）10：00～11：30
- ③令和4年1月24日（月）10：00～11：30（オンライン開催）



運営委員会役員会の様子

3) 委員会の開催

第1回 日 程 令和3年7月6日（火）14：00～15：30

会 場 明日都浜大津1階 会議室

内 容 報告事項 ・令和3年度4～6月の活動状況
・コロナワクチン接種予約支援活動
協議事項 ・令和3年度大津市ボランティアセンター事業
・大津市ボランティアセンターNews

第2回 日 程 令和3年10月19日（火）14：00～15：30

会 場 明日都浜大津1階 会議室

内 容 報告事項 ・大津市ボランティアセンター上半期事業報告
協議事項 ・令和4年度大津市ボランティアセンター事業計画案
・ボランティア基金を活用した新たな助成金

第3回 日 程 令和4年2月21日（月）10：00～11：30

会 場 明日都浜大津5階 中会議室（会場とオンラインのハイブリッド）

内 容 報告事項 ・令和3年度大津市ボランティアセンター事業報告
協議事項 ・令和4年度大津市ボランティアセンター事業計画案
・ボランティア基金を活用した助成金

(9) ボランティア基金運営事業

大津市における地域福祉の向上を目指して福祉活動にかかわるボランティアグループの自主的で継続的な活動を育成・助長するため、安定した財源を確保することを目的として、「大津市ボランティア基金」を設置している。

ボランティア基金は「ボランティアセンター運営委員会」において管理運営しており、基金の運用益を活用して、ボランティア活動の発展・ボランティアグループの育成につなげている。

◎ボランティアコーディネーション力検定 3 級検定受講料一部助成

対 象：学区社協役員、施設職員、学校教員、登録ボランティアグループのうちコーディネーター検定を受験して合格した方

助成額：17,600 円（2 人×@8,800 円/人）

ボランティアセンター登録グループから 2 名受験し合格された。

(10) 職員のスキルアップ・他市町との連携 県社協の研修が中止となり参加無し

(2) 新しい参加者を巻き込んでいく取り組みの推進

① 退職シニアの参加促進を図ります

概要	令和 3 年度の取り組み	5 次計画の総括
ボランティアなどの地域福祉活動に興味を持ちながら実践に結びついていない市民を掘り起し、サラリーマンや団塊・シニア世代が、地域福祉の担い手として活躍できるよう、参加機会の拡充や継続的な支援を充実します。	男性に向け社会参加のきっかけづくりに『おやじの連絡帳 vol.6』を発行しました。災害ボランティアをテーマに男性が地域で活躍できる場を紹介し、若年から地域活動を通し地域とのつながりづくりができるよう働きかけました。 平成 30 年度、令和元年度『おやじ塾』受講生に向け、コロナ禍においてどのように過ごしているか共有する「おやじマイスター通信」を発行しました。	退職シニア世代については男性にスポットを当て、地域活動を通し地域とのつながりづくりができるよう働きかけてきました。しかし、退職年齢が上がり 65 歳を超えても就労している方も多く、新たな地域福祉の担い手として活躍してもらうことが難しかったです。

② 若者の参加促進を図ります

概要	令和 3 年度の取り組み	5 次計画の総括
中高生や大学生などにボランティア活動や地域活動に参加する機会を提供するとともに、地域への愛着を醸成するなど、まちづくりの活性化を目指します。	大学生の実習生とともに、コロナ禍で生活に困窮されている大学生に対する食糧支援を実施しました。大学のボランティアセンターの学生の参画によりスムーズな実施ができました。 子どもの居場所づくり事業を推進することで、地域の子どもたちを地域で見守り育成する体制づくりに取り組んできました。令和 3 年度は 12 名のボランティア希望者を子どもの居場所につなげました。	コロナ禍で大学生のボランティアの参画が難しい時期が続きましたが、子どもの居場所事業に対し、高校や大学のボランティアサークル等と連携しました。また、若者を対象にしたボランティアカフェを開催し、子どもの居場所事業へ新たな参加者の拡大を進めました。

主な事業

・ボランティア講座・研修事業

(1) 出会いのボランティアカフェの開催

ボランティア活動を始めてみたい方を対象に、毎回テーマを設定しボランティアグループの“活動紹介”と“体験”をメニューに組み入れつつ、参加者どうしがカフェ形式で情報交換しあえる内容で開催した。

今年度は、子どもを対象にした活動へ学生の参加が増えるよう「子どもと関わる」を一つのテーマとし、もう一つのテーマを「ブロック単位」のボランティアカフェの開催とした。

1) こどもにかかわるボランティア

- ・対 象：市内在住または在学する高校生・大学生・専門学校生で、寺子屋プロジェクト事業やこども食堂などのこどもにかかわるボランティア活動に関心のある方
- ・日 程：令和3年7月11日（火）10：00～11：30
- ・場 所：明日都浜大津5階ふれあいプラザ 中会議室
- ・内 容：寺子屋プロジェクト事業や子ども食堂など子どもを支援する事業に関わる学生ボランティアに、活動のきっかけや活動内容、エピソード等を話してもらい、活動への参加を促す。
- ・ゲストスピーカー：平野学区社協 戸知谷会長
雄琴学区社協 平井民生委員、井口民生委員
NPO 法人 CASN 谷口理事長
- ・参加者：会場参加 10名、ZOOM 参加 1名
- ・参加者の声：学校の掲示を見たり、関係者に声をかけてもらって参加した。
既に活動をしている学生もいて多彩な意見交換ができた。
自分では考えつかない意見もあり、実践に活かしたい。



2) 東部ブロック 出会いの★ボランティアの集い

（東部ブロック協議体と大津市ボランティアセンターの共催）

- ・対 象：東部ブロック在住で関心のある方
- ・日 程：令和3年11月23日（火・祝）10：00～11：30
- ・場 所：瀬田市民センター
- ・内 容：東部ブロックで活動する3つのボランティアグループからの活動報告を受け、ボランティア活動について知ってもらう。
感染症拡大予防のため、公民館の4部屋を貸し切り ZOOM で中継して進行した。

- ・ ゲストスピーカー：絆サークル（瀬田川新緑苑自治会での助け合い）
瀬田しじみの会（手話サークル）
森の風音（びわこ文化公園内の里山整備）
公民館の４部屋を ZOOM でつなぎ
- ・ 参加者：会場参加 27 名、ZOOM 参加 1 名
- ・ スタッフ 瀬田あんしん長寿相談所 7 名、実習生 1 名
瀬田第二あんしん長寿相談所 1 名
大津市社協 2 名、実習生 2 名、ボランティア 1 名
- ・ 参加者の声：ボランティア活動が非常にバラエティに富んでいて驚いた。
地域に住みながら、ボランティア活動を全く知らなかったの
で参考になった。

（３） 地域で活動している人や団体の新しいつながりづくり

① 学区社協地域福祉活動計画作成を通してつながりを広げます		
概要	令和３年度の取り組み	５次計画の総括
学区社協や地域で活動するさまざまな団体、福祉関係者などの参加により、地域の問題解決や活動のさらなる発展を図るため、全学区での地域福祉活動計画の策定を目指します。また、策定過程で学区内の課題を共有し、地域福祉活動への参加の拡大を目指します。	地域福祉活動計画（学区社協の手引き）の作成するにあたり、地域団体との懇談会を行い、学区社協が実施する事業の意義を確認し、学区社協活動を周知するための意見交換を行いました。	学区地域福祉活動計画（学区社協の手引き）を 14 学区で作成し、作成過程の懇談会等で、各参加者が地域を見つめなおす機会となり、各団体の活動の整理にもつながりました。

② 社会福祉施設・団体・事業所との連携を図ります		
概要	令和３年度の取り組み	５次計画の総括
地域福祉の実践に取り組む社協には、新たな福祉ニーズに積極的に取り組むことが期待されています。特に、支援を必要としている人と支援者、また、団体と団体等を調整し、つなぐ役割が求められていることを重視し、社会福祉施設・団体・事業所との連携を推進します。	市内 148 施設が連携し、地域と連携した活動の検討をおこないました。 コロナ禍で集まるのが難しい中、オンラインも活用し、各福祉分野の課題や現状について共有を行いました。 また、福祉施設と地域団体の連携の場をつくり、双方の課題解決に向けた話し合いが進みました。他に、施設間で連携し、生活困窮への対応なども行いました。	福祉施設の連絡会である施設連絡会を、社会福祉法人だけでなく NPO 法人や企業団体である福祉施設も共に、会員数を徐々に増やしました。 福祉施設と地域の団体（学区社協）との勉強会・懇談会を通して課題共有を行い、連携事業の検討が進みました。

主な事業

・ 歳末たすけあい募金配分事業

市内社会福祉施設配分状況

施設数 90 施設 （令和２年度 79 施設）

金額 980,000 円 （ ” 1,240,000 円）

※令和３年度は、施設へのお見舞金にあわせて、絵手紙カレンダーを各施設へ配付した。

・学区社協地域福祉活動計画及び手引きの作成事業

学区社会福祉協議会が中心となって、住民や地域団体・関係機関等に呼びかけて策定する、学区の地域福祉活動（福祉のまちづくり）に関する中長期の計画を活動計画とし、学区社協や福祉委員活動を周知するパンフレットを手引きとして作成を進めている。

作成学区数

	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	R1	R2	R3	計
学区社協地域福祉活動計画	1	0	1	1	1	1	0	0	0	0	1	6
学区社協の手引き	-	-	-	-	-	-	-	-	9	3	2	14

（４） 地域福祉を協働で進める取り組みの推進

① 社会福祉法人との連携と支援に取り組みます		
概要	令和３年度の取り組み	５次計画の総括
支援が必要な高齢者や障害のある人、子育て家庭等へ、適切な支援策を見出すため、市内社会福祉法人とのネットワークを構築します。また、地域支援と専門支援を融合した多職種間による地域福祉推進力の拡大を図ることにより、新しい日常生活支援のあり方を検討します。	施設連絡会 148 施設が、顔の見える関係づくりを進めました。が、コロナ禍で引き続き集まることが難しい状況でした。高齢者等の生活の安心をささえる「ずっと安心モデル事業」に高齢者福祉分野の視点で参画していただきました。また、福祉実習生の受入れを通じた福祉人材育成について施設間で共有し、養成校との連携を行いました。	分野を超えた施設間の協働、福祉施設と地域の協働など、施設連絡会を通して、子どもの居場所づくりや福祉学習の支援、ひきこもりの就労支援、ひとり暮らし高齢者の安心に向けた活動、人材育成の取り組みなど協働の地域福祉が進みました。
② 大学との連携を図ります		
概要	令和３年度の取り組み	５次計画の総括
大学との連携・協働の機会を充実するため、学生や市民が活動情報の取得や相談等を気軽にできるよう、大学との連携の強化を図ります。	コロナ禍における学生への支援として、生活支援物資を活用した「学生応援プロジェクト」を実施しました。龍谷大学や地区民児協と連携し、134名への支援を行うことが出来ました。	地域・ボランティアでは大学と繋がる機会もあったが、コロナ禍においては、学生の困りごとが顕在化し、大学やボランティア・民生委員等の協力を得て学生支援を実施したことで大学との連携強化につながりました。
③ 企業などとの連携による取り組みを進めます		
概要	令和３年度の取り組み	５次計画の総括
団体や関係施設が、企業の社会貢献活動の展開や地域福祉活動に参画できるよう、民間活力と連動した地域福祉の推進を図ります。	災害ボランティアセンターの事前登録を市内企業に働きかけるとともに、実際の災害支援活動に参加していただき、災害支援の中心的役割を担っていただきました。コロナ禍の生活困窮対応に多くの企業から物資や金銭の提供をいただき、生活支援等に活用しました。	災害の現状やコロナによる困窮状況等地域課題を積極的に情報発信することで、地域と企業の「助けて」と「何かしたい」をうまくマッチングでき、地域課題解決の一端を担えました。

主な事業

・大津市社会福祉協議会施設連絡会について

大津市社会福祉協議会施設連絡会（以下、「施設連絡会」という。）では、①分野を超えた横断的なつながりづくり、②地域における公益的な取組及び地域と連携した取組の実施を目指し、保健福祉ブロックごとの活動を軸に設立以来進めてきました。

令和3年度は、前年度に引き続き新型コロナウイルス感染症が拡大し、年明けにはオミクロン株により各施設で感染対応に追われることとなりました。

本来なら、「社会的孤立の脱却と防止」をキーコンセプトとし、施設間連携と地域との協働により、希薄化する人と人とのつながりづくり、地域のつながりの再構築の一役を担うところではありましたが、感染防止の観点から積極的に連絡会や活動が行えない1年でした。

そのような中、オンラインを活用した総会を開催したり、アンケート調査等できる取組を実施しました。

1) 総会の開催

日 時 令和3年4月16日(金) 14:00～
参加者 34施設参加、70施設委任状/145施設
方 法 オンライン開催 (zoom)
議 事 令和2年度事業報告(案)について
令和3年度事業計画(案)について
役員改選について



研修会 講演『社会福祉専門職養成の現場から』～人材育成の課題～
講師 龍谷大学 社会学部現代福祉学科 教授 山田容氏

2) 幹事会の開催

	日 時	場 所	内 容
1	7月9日(金)10:00～	明日都浜大津	・会員状況について ・R3年度事業計画について ・お仕事体験会の状況について ・ずっと安心モデル事業について、 ・実習生受入れアンケートについて ・情報共有
2	2月1日(火)13:30～	オンライン	・R3年度上半期中間報告について ・R4年度総会について ・R4年度事業について ・情報共有
3	3月16日(水)13:30～	オンライン	・R4年度総会について ・R3年度事業報告(案)について ・R4年度事業計画(案)について

3) 保健福祉ブロックごとの連絡会の開催

ブロック	日 時	場 所	内 容
志賀	7月9日(金)10:00～	木戸市民センター	・情報交換 ・R3年度事業について ・学区社協との懇談会について
	12月8日(水)13:30～	木戸市民センター	・学区社協との懇談会 ・情報交換
北部	2月22日(火)	訪 問	・来年度事業アンケートについて ・学習支援冊子更新について ・災害連絡表の更新について
比叡	2月22日(火)	訪 問	・来年度事業アンケートについて

中部	12月14日(火)14:00～	明日都 浜大津	・これまでの振り返り ・情報交換
中南部	3月3日(木)	訪 問	・来年度事業アンケートについて
南部	9月24日(金)10:00～	オンライン	・振り返り ・情報交換 ・今年度事業について
東部	3月3日(木)、4日(金)	訪 問	・来年度事業アンケートについて

4) 施設連絡会ネットワークシステムの活用

施設連絡会会員施設同士の情報共有や情報発信等をスムーズに行うため、平成30年度に構築したシステムを活用しました。(R4.3.14 現在)

項 目	R3 年度	R2 年度
お知らせ	13	16
ニュース	2	1
会議案内	4	5
その他	1	0
あげる(寄付)	18	6
ほしい	0	0
レンタル	0	0
合 計	36	28

実習生受入れ問い合わせ

各施設からも物資提供の
発信あり

5) ニュースレターの発行

Vol.9

- ・総会報告
- ・施設連システムの活用
- ・重層的支援体制整備事業共有

Vol.10

- ・実習生アンケート結果報告
- ・ボランティア受け入れアンケート結果報告
- ・実習生生活支援物資提供依頼

6) 会員施設状況 (R4.3.14 現在)

- ・目標会員数：200 施設 → 現状 148 施設

分野	施設数	
	R3 年度	R2 年度
高齢	49	49
障がい	51	48
児童	8	8
保育	36	36
その他	4	4
合 計	148	145

ブロック	施設数	
	R3 年度	R2 年度
志賀	11	11
北部	18	17
比叡	29	30
中部	22	21
中南部	24	24
南部	15	14
東部	29	28
合 計	148	145

7) 地域との連携強化

① 学区社会福祉協議会や地区民生委員児童委員協議会との連携

志賀ブロックでは、学区社会福祉協議会と福祉施設との懇談会を実施しました。

地域課題について共有したのち、学区に分かれ学区社協役員と福祉施設が、地域や施設の課題や連携事業の検討などを行いました。

コロナ禍で地域イベント(お祭り)など開催できず、地域と施設が初めて顔を合わす学区もありました。懇談会を通して、学区社協の子どもの居場所活動に福祉施設も参画されたり、学区社協の広報誌に福祉施設の記事を掲載するなど連携が広がりました。



8) 生活困窮者やひきこもりの若者の活躍支援

①お仕事体験会の継続実施と受け入れ福祉施設の拡大

今年度も新型コロナウイルス感染症防止対策により、施設において外部からのボランティア等の受入れのむずかしさはありませんでした。その中で実施した4回では、20代から50代の参加者が作業量と時間を自ら管理して作業を行ったり、作業の中で役割分担をして効率的な作業を進めるなど、自宅から出ること、公共交通を利用すること、作業を行うこと、仲間と活動することなど、スモールステップを重ねました。(R2年度3回)

【実施回数】 4回

【受入れ施設数】 3施設

【参加者総数】 18名

【参加者実人数】 16名

【登録施設】 25施設

	受入れ施設	体験日	体験例	参加者
1	働き教育センター	7月27日(火)	ブルーベリー収穫	3
2	働き教育センター	7月29日(木)	ブルーベリー収穫	3
3	大津市社会福祉協議会	8月18日(水)	赤い羽根共同募金資材準備 ・配布資材の袋詰め ・チラシの数え作業 など	8
4	よいこのもり保育園	12月12日(木)	落ち葉清掃	4
合計	3施設 4回			18名



興味があり、一度やってみたかった。いい体験になった。



空気の良いところで朝から体を動かして気持ち良かった。

②困窮実習生に対する食糧支援

福祉施設からの依頼で、受入れ実習生が困窮状態であり、一日1食で生活している学生がおられ、実習中の基盤を整えるため、生活支援物資提供の呼びかけがありました。

ニュースレターやネットワークシステムで発信したところ、他の福祉施設から食料等の提供があり、実習生も体調を崩すことなく、無事実習を終えられました。

9) 支援を必要とする子どもたち等の学習・生活支援

①子どもの学習・生活支援等の実施および協力

支援を必要とする子どもの夕方から夜の居場所づくり事業「フリースペース」について、コロナ禍で、緊急事態宣言等を受けて一部休止をされたり、参加者を分けて開催するなどの工夫をしながら2施設で実施されました。食の確保が不安定な家庭に向けては、休止中も配食を通して、状況確認等も実施していただきました。

実施施設	開催回数	子ども 総数	子ども 実人数	スタッフ 総数
カーサ月の輪	24	49	4	45
時の奏	37	57	2	78



「老人福祉施設で仕事をしているけれど、社会福祉の専門職としての自覚を持つようになった」。目の前の利用者の問題を解決するだけでなく、地域課題等にアンテナを張ることができる人材育成につながる。



10) 地域のひとり暮らし高齢者等への支援

①かぎ預かり事業の充実

本事業は、ひとり暮らし高齢者等の自宅の鍵を預かることを通じて、利用者が自宅で安心して生活できる環境を整え、孤独死などの事故を防止することを目的としています。

令和3年度は前年度に引き続き3施設で4名のかぎ預かりに変更はなかったものの、1件のSOS対応を行いました。自宅で倒れておられたところ、預りのかぎにおいて開錠し、救急搬送したことで、一命を取り留められました。



◎実施・準備福祉施設

1	2	3	4	5	6
真野 しょうぶ苑	福寿荘	夕照 たまのうら	長等の里	やすらぎの郷	桐生園

②ひとり暮らし高齢者等の安心事業の新規事業の検討

家族機能の低下に伴い、一人暮らし高齢者を取り巻く環境は、著しく変化しています。なかでも、住まいの問題や日常の見守り、入退院時の支援や死後の事務など、既存の制度では解決できない困りごとについて支援を行い、最期まで安心して心豊かに暮らせる新たな事業展開にむけ、おひとり様ずっと安心モデル事業への高齢福祉施設の参画について検討を行いました。

11) 災害時対応に関する取組み

①災害備蓄品や資源の共有

忘れる前にやってくる近年の災害に対し、特に大雨や土砂災害の危険度の高い志賀ブロック・北部ブロックにおいて、各福祉施設の災害時の連携を目的に平成30年に災害時連絡表（施設間の備品のリストの共有化）を作成しました。令和3年度は、緊急連絡先、食料の備蓄状況、貸出備品の情報、車両の情報、人材派遣の情報、災害時の困りごとについて連絡表の更新を行いました。



1 2) 人材育成に関する取組み

①社会福祉士、介護福祉士、保育士等の実習生の受け入れに関するアンケート実施

実習生の受入れを通して、福祉人材を育成するとともに、人材確保の一助となることを目的に、社会福祉士、精神保健福祉士、介護福祉士、保育士等の実習生の受け入れに関するアンケートを実施し、福祉施設の実習生受け入れの現状を把握するとともに、実習生を職員として雇用されている工夫や課題について共有しました。また、実習生受け入れ情報を養成校に提供いたしました。

回答数

ブロック	回答数／施設数(回答率)
志 賀	6／11 (54.5%)
北 部	13／18 (72.2%)
比 叡	12／29 (41.4%)
中 部	9／21 (42.9%)
中南部	18／24 (75.0%)
南 部	8／15 (53.3%)
東 部	9／28 (32.1%)
合 計	75／146 (51.4%)

分 野	回答数／施設数(回答率)
高 齢	24／49 (49.0%)
障がい	25／49 (51.0%)
児 童	5／8 (62.5%)
保 育	18／36 (50.0%)
その他	3／4 (75.5%)
合 計	75／146 (51.4%)

問 1 実習生の受け入れの有無（回答していただいた 75 件の内）（件）

分 野	受け入れている	受け入れていない
高 齢	8	16
障がい	9	16
児 童	3	2
保 育	18	0
その他	2	1
合 計	40	35

問 3 実習生から職員の採用の有無（問 1 で受け入れている 40 件の内）（件）

分 野	採用あり	採用なし
高 齢	4	4
障がい	3	6
児 童	2	1
保 育	15	3
その他	0	2
合 計	24	16

②地域および小中高校で実施される福祉学習、福祉体験への協力

次世代を担う子どもたち（小～大学生や専門学校生含む）に福祉をより身近に感じていただくことを目標に、志賀ブロック・北部ブロックでは社会福祉施設で協力できる福祉学習や職場体験を「社会福祉施設における福祉学習・職場体験受入れ先一覧」として平成 30 年度に取りまとめました。

令和 3 年度は新たな会員施設の情報を更新し、学校へ冊子の配布を行いました。

・ 大津市と大津市社協連携会議

日 時：令和 3 年 5 月 11 日（水）13 時 30 分～15 時 10 分

場 所：ふれあいプラザ 4 階視聴覚室

参加者：福祉子ども部 堀井子育て推進監、小石福祉政策課長、

井上やまびこ総合支援センター所長、

畑先子育て総合支援センター所長、

藤川子ども家庭相談室長、中嶋福祉政策課補佐

健康保険部 西本長寿政策課長、二ノ宮事業所・施設整備室長

大津市社協職員

- 内 容：大津市社協の取り組み報告
- ・各課グループから事業説明
 - ・質疑応答

・ 70周年記念事業の取組

令和4年度に、本会が設立されて70周年の記念の年を迎えるにあたり、記念事業実施に向けて職員参加によるプロジェクトチームで検討を行った。これまで記念誌を20周年、40周年、60周年ごとに発行していた経過を踏まえて70周年記念誌を作成するとともに、記念式典や特色のある取組みを検討した。

プロジェクト	検討会回数	メンバー数	検討内容
記念誌	20	4	記念誌の構成 概要版 付録 寄付の募集 など
記念式典	8	4	会場と参加人数 オープニングイベント 表彰式典 記念講演 など
その他	8	11	動画作成 記念グッズ作成 ロゴマーク など

貸し付けで支えられるのか 自問

コロナ困窮者の支援策 職員葛藤



貸し付けを利用した人々の声。「何とか生活している状態。ギリギリ」といった切迫した状況がうかがえる

特例貸し付け

無利子・保証人不要でお金を貸すコロナ禍の特例制度。実施主体は都道府県の社会福祉協議会、窓口は最寄りの市区町村の社協となる。緊急小口資金は、休業などで収入が減った人を対象に生計を維持するために緊急で20万円を上限に貸す。総合支援資金は失業者を含め、収入減で生活が苦しい人を対象に生活再建までの資金を貸し付ける。2人以上の世帯では最大月20万円を9ヵ月間、計180万円を貸す。いずれも返済時に住民税が非課税世帯の場合は、返済が免除される。

「正しい状況の人に借金をさせている。これが悩ましいのか疑問に思う」

全国の社協の職員1184人を対象にしたアンケートには、現場のこんな声が寄せられた。3月に「関西社協コミュニティワーカー協会」が公表した。

政府は昨年3月、コロナの影響で収入が減った世帯を対象に、生活費を貸し付ける制度の条件を緩和、使いやすくした。無利子で、条件を満たせば一部の人は返済を免除する。「緊急小

口資金」と「総合支援資金」の名称で、最大で計200万円を借りられる。窓口となる各地の社協には申し込みが殺到している。二つの資金の貸付総額は全国で計842億9500万円、申請件数は209万4千件（4月1日）。特に2月に貸し付けの上限を増やして以降、申請が急増傾向にある。

危機が長期化するにつれ、窓口の職員からは、貸付額が増えるばかりで生活再建まで行き着かない、といった疑問の声が出ている。

「貸し付け以外の支援策がいまだに打ち出されてないことが、相談現場で苦しい」

「貸しさが募ってしまっています。先が見えないのに、返済前提の貸し付けを延々と続けるのは私たちの仕事ではない」

生活再建つなげず

「貸し付け以外の支援策がいまだに打ち出されてないことが、相談現場で苦しい」

「貸しさが募ってしまっています。先が見えないのに、返済前提の貸し付けを延々と続けるのは私たちの仕事ではない」

アンケートにもそんな本音がのぞく。貸付制度について「有効性への疑問」を感じたかどうかをたずねている。有効性への疑問が「非常にあった」と答えたのは49%。「あった」の42%を合わせた全体の91%に達した。

職員は膨大な申請への対応に忙殺され、生活保護などほかの支援につなぐことも難しくなっている。アンケートでは、「丁寧な相談支援ができないジレンマ」が「非常にあった」との回答が32%、「あった」が44%と、合計76%に及んだ。

国の理想とズレ

貸し付けを受けた側はどのような状況にあるのか。大津市の社会福祉協議会では、申請者1283人の声をまとめた。

「生活費の借入れで」とても助かった。子どものランドセルなどを買うことができて、本当によかった」（30代、正社員）

「小売業。今年1月の利益は3万円弱しかない」（70代、自営業）

「コロナ禍により妻がパート収入がなくなり、中学3年生の子どもの学習塾を辞めざるを得なくなった」（40代、パート）

「母子家庭。子どもが3歳で保育園に。コロナのために退職となりもう。別の仕事を探しているが、なかなか見つからない」（30代、正社員）

「体調はよくないが病院に行っています。精神的にかなりまいっています」（40代、自営業）

大津市社協は2020年度、8519件の支給を決めた。19年度の約150倍だ。集まった声からは、コロナによって年齢を問わず貧困が広がっていることが浮き彫りになっている。山口裕次・事務局長は

「コロナの当初は命をつなぐ役割を果たした。ただ、長引くなかで貸し付けをずっと続けても生活再建につながりづらく、現場にはジレンマがある」と話す。

申請者は、社会的に孤立している人も少なくない。支援への接点をつくるため、大津社協では手書きの手紙を送ったり、自宅を訪問したりする試みが続く。

政府も「一次（の支援制度）につなげていくことが重要」（田村憲久厚生労働相）と強調するが、国が思い描く理想と現場の実態とのズレがうかがえる。

生活困窮者への貸付制度に詳しい日本福祉大学の角崎洋平准教授は「新型コロナウイルスが感染拡大した初期のころは、緊急で生活費を行き渡らせる意味で貸し付けは評価できる」とする一方、「コロナが長期化するなか、この制度に頼りすぎていく」と懸念。丁寧な相談対応ができず、ほかの低所得者支援の仕組みにつなぐことが十分にできていない問題があるという。

角崎准教授は「資金の貸し付けで十分だったのか、危機に对应できる社会保障制度に向け、検証が必要だ」と指摘する。（久永隆一）

コロナ特例貸付1兆円超

上限まで利用31万世帯

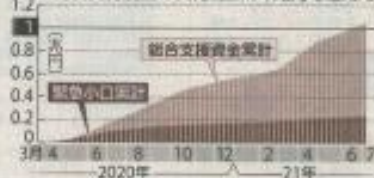
新型コロナウイルスの影響で収入が減った人へ生活資金を貸し出す「特例貸付制度」を上限まで利用し、新たな貸し付けを受けられなくなっている世帯が約31万世帯に上ると、厚生労働省への取材でわかった。制度の利用世帯は1千万世帯以上で、貸付総額は1兆円を超えている。コロナ禍の収束が速くない中、生活をやりくりで維持していた人たちが困難に陥る恐れがある。(松本裕幸)

■所持金減り

「死のうしろすがた、死にきれなかった」と。先月14日、大津市社会福祉協議会(社協)を訪れた男性(30)は、妻を亡くしながら、職員から出されたカップ麺をかみしめるように食べていた。男性は親類縁者として飲食店で店員を務めていたが、コロナ禍で勤務日数が激減。月給は以前の3分の1の10万円に落ち込んだ。自宅の家電や光熱費を支払うとほとんど手元に残らず、5月に退職したが、仕

生活再建へ重い返済負担

●特例貸付制度の貸付総額は1兆円を超えた



■「借金」

昨年3月に始まった生活福祉資金の特例貸付制度は、国の困窮者支援の柱。事は見づからなかった。所持金が100円になり、市に相談に行ったとき、社協を紹介されたという。男性は、その場で特例貸付制度を申し込み、1週間後、20万円が振り込まれた。男性は「国に頼るのは恥づかしい」と思っていたが、もらえたとわかった。と声を詰まらせた。

特例貸付は、緊急小口貸付金を利用した上で、組合支援資金を申し込むケースが一般的だ。緊急小口貸付の上限は18万世帯、31万7672世帯は組合支援資金を上限まで借り、これ以上借りられなくなっている。大津市の社協では、月末までに貸付金を約3300世帯に計約38億円貸し付け、160世帯が上限に達した。3050世帯の現役世代が半数超、自営業や非正規雇用が目立つという。

兵庫県では、約6万5000世帯のうち約2万世帯が上限に達した見込みだ。県内で鮮魚店を営む男性(50)は、取引先の飲食店が廃業し、約50万円あった月収が5分の1に。特例貸付は上限まで借り、「借金を増やした」と、返済に不安を覚える。

「関西社協コミュニティワーカー協会」が今年1月に全国の社協職員に実施したアンケートでは、特例貸付について、引当金が十分に確保されていると回答した割合は約7割にとどまった。大津市の社協では、担当者も当初の2人から一時は30人にまで増えたが、今は原則として電話と郵送で対応している。この1年で3人が退職したという。山口浩次事務局長は「特例貸付で助かった人は多いが、返済に苦しんでいる人も少なくない。返済の負担が重い」と打ち明けた。

「関西社協コミュニティワーカー協会」が今年1月に全国の社協職員に実施したアンケートでは、特例貸付について、引当金が十分に確保されていると回答した割合は約7割にとどまった。大津市の社協では、担当者も当初の2人から一時は30人にまで増えたが、今は原則として電話と郵送で対応している。この1年で3人が退職したという。山口浩次事務局長は「特例貸付で助かった人は多いが、返済に苦しんでいる人も少なくない。返済の負担が重い」と打ち明けた。

住居の給付金でも

政府は特例貸付制度以外にも様々な支援策を打ち出している。減収で住居を失うおそれがある人には「住居確保給付金」があり、最大15か月間家賃の相当額を補助される。また、休業になったパートやアルバイトなどに、資金の原則8割を支給する休業支援金・給付金がある。いずれも返済の必要はないが、住居確保給付金は上

長らくコロナ禍で、生活に困窮する人が増えています。みなさんのご意見や情報をお寄せください。

〒530-8551
(住所不詳)
読売新聞大阪本社
社会部
osaka.y@yomiuri.com

21文字の文芸 つなぎたい

「青春21文字のメッセージ」



過去の応募作品を収めた冊子を手にする「青春21文字」実行委員会（左から）のメンバー（大津市内）

京都電車石山坂本線の21駅にちなみ、電車を舞台に青春にまつわる思いを21文字に託した作品を募集する「青春21文字のメッセージ」。15回目を迎える今年、運営する市民団体「電車と青春21文字プロジェクト」（大津市）がインターネット経由で募集資金を募っている。自治体や企業からの支援が終了したため、メンバーは「21文字で青春の一端面を切り取るという新しい文芸を遂行させたい」と協力を呼び掛けている。

第1回は2007年。通を歌人の徳万智さんが通勤電車生活の「足」と、知事賞、大津市長賞などを利用して石坂線などを通る。人々が交錯する電車の独特な空間や心象を表現した作品を冊子にまとめた。

入選作を電車内や商店街に掲示したり、作品をテーマにしたコンサートを開いたりとのびのびと創作にも一役買っている。自治体補助の最終年だった昨年度（第14回）には全国から過去最多の5000件以上の作品応募があった。

メンバーは「新型コロナウイルススプレッドでコミュニケーションの手段が様変わりした今こそ『言葉の持つ力』が求められている。あきらめずいい作品を広く紹介することで前を向いて進んでいく。元氣も喚起できるのでは

自治体・企業の支援終了 運営団体、資金募る

ないか」と期待する。資金も、寄付者には金額に応じ、集めた目標額は30万円。同過去の作品集や協力企業のプロジェクト代表の堀井美知子さんは「広く協力を呼び掛けることで、大津から生まれた21文字の文芸の世に知ってもらえる人をさらに増やしたい」と話す。

クラウドファンディングのサイト「READYFO（レディフォー）」で10月28日まで受け付けている。4433559。応募作品を1人3点まで、10月15日締め切り。知事賞、大津市長賞には図書として図書カード2万円分を贈る。同プロジェクト080(2)4

- ◇…近年の知事賞受賞作と徳万智さんの読評…◇
- 【第14回】イヤホン壊れて車窓からセミの声、夏を知る
（梅村たけ、14歳）＝東京都
イヤホンからの音がなくなった時に聞こえてきたセミの声。デジタルからアナログへの切り替えと対比が鮮やかです。「夏を知る」という簡潔な筆致が印象的で、みごとに決まっていると思いました。
- 【第13回】同じ改札制限の時は川上る鯉 私服の時は熱帯魚
（清水真志歩、13歳）＝滋賀県
通学の時は、みんなと同じ制服を着て時間ギリギリいっせいに同じ方向に向かう。そんな自分は、まるで産卵に戻る鯉。友だちやボーイフレンドと待ち合わせる私服の時は、色鮮やかな熱帯魚。同じ改札なのに、シチュエーションによって、自分がまったく別に見えるという感覚が、みごとに比喩で表現されています。
- 【第12回】黒い窓ガラスに写る雲は街灯の真珠をつけていた
（堀夏海、17歳）＝滋賀県
映像が、くっきり浮かぶところが魅力です。「街灯の真珠」という表現が素晴らしいですね。過去形が、思い出の写真のような切なさを出して効果的です。

※年齢、居住地は受賞当時

京都新聞 2021年9月14日

来場者に食料品などが配布された会場
(大津市昭和町・膳所診療所)



困窮者の年越し支援

大津でつよい食料品など無料配布

生活が苦しい人たちに支援する年末恒例の「越冬支援のつよい」が26日、大津市昭和町の膳所診療所で開かれた。厳しい冬を乗り越えてもらおうと、食料品などが無料で配布された。

生活困窮者の支援や緊急一時宿泊所の運営をしている認定NPO

事業団などの団体、市民らが協力した。

会場ではカップ麺や餅、マスクなどが入った紙袋約250セットが用意され、コメと一緒に来場者へ配られた。訪れた高齢女性らは「いろいろな品物を用意してくれてありがたい」と感謝していた。

炊き込みご飯や豚汁が振る舞われ、医師や弁護士らによる健康介護、法律、生活の相談会も行われた。

大津夜まわりの会理事長で弁護士の永芳明さん(51)は「新型コロナウイルスの影響で困窮に陥った人もいるが、支援は十分と言えない。安心して年を越せる社会を目指したい」と話した。

(峰政博)

京都新聞 2021 年 12 月 27 日

15

読者会

2022年(令和4年)1月21日(金曜日)

中

龍谷大生に食料支援

市社協配布 コロナに負けないで

大津 新型コロナウイルス禍で困窮している大学生を支援しようと、大津市社会福祉協議会(市社協)は十九日、市内の龍谷大瀬田キャンパスで、学生らに無料で食料などを配った。

学生らから市社協に「アルバイト収入が減り、生活が厳しい」といった声が寄せられたのを受け、初めて実施。約百人の学生が、市民が寄付したコメやインスタント食品、衣料品などを受けた。

農学部二年の北島光起さん(20)は「下宿生の経済的な困窮が目立ってきた。自分のように実家から通う学生も支援され、とても助かる」と笑顔を見せた。



市社協の職員からコメを受け取る学生ら＝大津市の龍谷大で

「(龍谷大)は『コロナ禍で制限された生活を送る学生の力になりたい。困ったことがあれば、社協に相談してほしい』と語った。」

(北村太一)

中日新聞 2022 年 1 月 21 日